

か

かがか

(後)

齒音にして子音の一つ。

かの濁音。

か
蚊(名)
香(名)

「一」名詞と名詞との間に置きてのと同じ役目を爲す。……但しのは其用ひ廣くは其用ひ狭し。故に例なき詞をばみだりに結び付くるを得ず。○「君か代」「梅か香」「松か枝」「賤か屋」「わか宿」「二」名詞と動詞または形容詞との關係を示す。○「君か行く」「風か寒き」「三」動詞と形容詞。又は形容詞より出でたる名詞との關係を示す。○「見るかうれしき」「聞くかなしき」「四」形容詞と形容詞。又は動詞との關係を示す。○「白きが多し」「五」過去の助動詞と動詞との間に置きて裏返る意味をあらはす。○「思ひしか得はたさかりき」

虫の名。夏の夕群飛して人を聳す小虫。子子の羽化したるもの。

嗅官に感じ得べきもの。●かむり。●にはひ。

か
鹿(名)
筈(名)
(名)

獸の名。しか。(古)

雅樂の樂器。箏にて作れる單築の類。

ところ。●場所。○「すみか」……俗には家の字を書く。○「かくれか」「やまか」

日数を數ふる時にいふ詞。○「二日」「廿日」

かれ。●あれ。

宜しき事。

肩に擔ふべき物を數ふる詞。○「兩掛一荷」

「水一荷」

物を數ふる時漢語より來れる數詞と名詞との間に添へていふ詞。○「六箇月」「十箇年」

か
個箇(助名)

「八箇國」

疑問の詞。やに似て輕し。○古今「秋風の吹上に立てる白菊は花々あらぬ波のよする」

新古今「蛙なく神なび川に影見ねて今かさくらん山吹の花」

「一」かなの略。○古今「淺綠糸よりかけて白露を玉にもぬける春の柳か」

「二」同じくかなの略にはあれど。特に驚の意をあらはすもの。○榮花(花山天皇御出家の條)「花山に尋ね参りにけり。そこにめづらかなる

か
(感)

か
(後)

か
(名)

か
(名)

か
(名)

か
(名)

が 賀(名)

小法師にてついぬさせ給へるもの。^ハ
老年になりたるを祝ふ事。又は其儀式。…
昔は四十、五十、六十、七十、八十の齡に於てし。今は六十一、七十七、八十八、九十九に於てす。

が 駕(名)

乗物の名。^ハ。

が 鵝(名)

鳥の名。鵝鳥に同じ。

が 蛾(名)

火取出。^ハ

が 雅(名)

みやびやり。●風雅。●風流。●脱俗。△
(形)―雅なる―雅な。(副)―雅に。

が 我(名)

が^ハ意。●我儘。●勝手。●強情。

か 權(名)

小舟を漕ぐ道具。

か 介(名)

貝類。

か 階(名)

「一」階段。●きざはし。「二」階級。●等級。「三」建物に在る詞。平屋の上に室あるを二階といひ。又其上を三階といふ。

か 楷(名)

楷書に同じ。

か 界(名)

世界。●社會。●境界。●國。

か 解(名)

其事の譯。●說明。●解釋。

か 戒(名)

過を止め非を防がしむる佛教の法律。…
佛門に入りて師より之を受くるを受戒と

かい 蝦夷(名)

いひ。之を守るを持戒といひ。之に背くを破戒といふ。●戒律。●戒行。

かい 歌意(名)

えみじ。●なぐ。歌の意味。

かい 貝(名)

かきの音便。○「かいのごふ」「かいひろふ」

かひ 峽(名)

「一」外部は介殼にて包まれ其内部に筋肉を供ふる動物の總名。「二」其外部を包める石灰質の堅きもの。●貝殼。「三」螺の貝。

かひ 匙(名)

飯を盛る杓子。(和名抄)

かひ 峽(名)

山と山との間の狭き處。●谷間。○古今

かひ 見ゆる白雲

「櫻花さきにけらしな足引の山の」より

かひ 穎(名)

穂の着きたる儘の稻。

かひ 卵(名)

かひに同じ。たまご。

かひ 間(名)

あひだ。●隙。

かひ (名)

しるし。●功能。●効。●詮。○「悔やめどもかひなし」「かひある世の中」

がい 害(名)

總べて不便利なる事。●妨害。●障害。

がい 損害

●損害。●邪覺。

がい 慷慨(名)

慷慨感激するの心。△(動)―慨す。

がい 我意(名)

我儘。●自分勝手。●強情。

かい 該(代)

其に同じ。○「該計畫」「該費用」

かひいしはひ

貝石灰(名) 貝を焼きて作りたる石

灰。●礧灰。

かいろ

海路(名) 航海の線路。●舟路。

かいらうどうけつ

偕老同穴(句) 夫婦諸共に老年を迎へ。死しては同じ塚穴に葬られんとの意。

かいば

海馬(名) 海獸の名。北海に棲む大なる動物。

かひいば

飼葉(名) 牛馬を飼ふ食料の草葉。●まぐさ。

かいはん

開版(名) 出版。●上木。△(動)―開版す。

かいはん

改板(名) 板木を彫り直す事。△(動)―改版す。

かひいばど

飼鳩(名) 鳥の名。家鳩。……山鳩に對していふ。

かひいばをけ

飼葉桶(名) 飼葉を入れる桶。●まぐさをけ

かいはつ

開發(名) 教育學上の詞。注入の反對にて自ら智識を開き發せしむる様にする事。△

(動)―開發す。

かいはむ

(自動四段) かいまむに同じ。

かいはきり

飼葉切(名) 飼葉を切る道具。●押切。

かいはみ

(名) かいまみに同じ。

かいばう

介抱(名) 病人などを世話する事。●看護。

かいばう

△(動)―介抱す。

かいばう

解放(名) 解き放つ事。●救免。△(動)―解放す。

かいばう

海防(名) 海岸の防禦。●海上の軍備。

かいばう

解剖(名) 「一」物事の組織を解き放ちて調べる事。○「文章の解剖」「二」動物の身體を別

別に研究する事。●解體。●臍分。……△

(動)―解剖す。

かいばうがく

解剖學(名) 解剖を研究する學科。

かいへい

開平(名) 數學上の詞。或一數の平方を知りて其原數を求むる方法。

かいへい

開閉(名) 開く事と閉つる事と。●あけたて。

かいへん

△(動)―開閉す。

かひいへん

海邊(名) 海の邊。●海濱。●海岸。

かひいどり

貝偏(名) 漢字の偏の名。賦、財等の字の左の部分。

かひいどり

飼鳥(名) 飼ひ馴したる鳥。

かいだう

(名) 徳川時代婦人の衣服。リうちかけに同じ。

かいだう

海棠(名) 木の名。葉、幹共に林檎に似て實

がいだう

は小さく。其花極めて美しく春咲くもの。
街道(名) 往來の大路。●驛路。●街路。●往還。

かいだう

海道(名) 海邊に附きたる街道。

がいどう

街燈(名) 市街を照らす爲めの燈火。

かいどうし

(名) 燈火。特に禁中の燈火。(徒然)

かいちやう

開帳(名) 佛前の帳を開きて本尊を拜せしむる事。△(動)―開帳す。

がいちん

凱陣(名) 凱旋。△(動)―凱陣す。

かいちう

海中(名) 海の中。●海上。

かいり

海狸(名) 兩棲動物の名。其齒は銳利にして、く喬木を噛み切り。之を以て巧に巢を構へ群棲するもの。

かいり

海里(名) 海上の里程。一海里は我十六町五十八間三凡にあたる。

かいりやう

改良(名) 善き方に改むる事。●改正。△(動)―改良す。

かひれう

飼料(名) 家畜の食料。●飼藥。

かいりつ

戒律(名) 戒に同じ。(佛教)

がいりく

概略(名) 大凡。●大概。●大要。

かいりき

戒力(名) 戒を受けたる功力。(佛教)

かいり、ふり

開立(名) 數學上の詞。或數を立方にしたる方乘積を知りて原數を求むる方法。

かいりうわう

海龍王(名) 海中に住む龍神の王。

かひいぬし

●龍宮の王。(源氏)

かひいぬし

飼主(名) 家畜などを飼ひ置く主人。

かひいぬし

買主(名) 買ひたる人。

かひいおほひ

貝殻(名) かひあはせに同じ。(さりかへばや)

かいわうせい

海王星(名) 太陽系に屬して最遠き遊星の名。

かひいをけ

飼桶(名) 飼葉桶。

かひいをけ

貝桶(名) 貝合の貝を入る器。

かひいをけ

飼藁(名) 飼料の藁。

かいわん

臺灣(名) 海の入江。灣に同じ。

かいわん

改嫁(名) 改めて嫁入する事。●再縁。△(動)―改嫁す。

がいが

凱歌(名) 勝軍の時歌ふ軍歌。●勝鬨。

がいがい

(感) 赤兒の泣く聲。(今昔)

がいがい

皚皚(副) 雪などの眞白なる有様。

がいがね

胛(名) 貝殻骨。(和名抄)

かひがね

貝鉦(名) 軍陣に用ふる合圖の鳴物。すなは

ち法螺貝と鉦と。

かひがね

甲斐、嶺(名)

「一」甲州の山。「二」風俗歌の

曲名。

かひがら

貝殻(名)

貝類の殻。

かひがらぼね

貝殻骨(名)

人、猿などの上肢の背後にありて三角形をなす骨。●肩胛。●肩甲骨。

●雁金骨。●かいがけ。

かいかん

海岸(名)

海の岸邊。●海濱。●海邊。●湊。

かいかく

改革(名)

物事を根本より改むる事。●革新。

△(動)―改革す。

かいかく

海角(名)

みさきに同じ。●岬角。●崎。

かいかく

海壑(名)

海、壑さ。●海山。

かいがけ

皆掛(名)

秤にいふ詞。風袋と共に量りたる目方。●上目。

かひがひし

(形。形狀言シク活)

勇ましげ。●げんき

そうに。

かいよ

海芋(名)

草の名。芋に似て毒あるもの。

かひよ

(感)

鹿の鳴く聲。○古今「秋の野に妻なき鹿

の年を経てなぞわがこひのサひよさはな

く」

かひよね

糴(名)

買ひ入るゝ米。

かひよう

海容(名)

書簡文の詞。海の如き量を以て容

赦するの意。○「意外の御無沙汰御海容可被

下候」

かいたい

解體(名)

解剖。●團體の散離。

かいたい

海内(名)

海外の反對にて我國をいふ。

かいたい

改題(名)

題號を改むる事。△(動)―改號す。

かいたい

解題(名)

書籍の題號著者等に關する大要を

解説する事。

かひいだるし

(形。形狀言ク活)

かひなだるしに同じ。

かいたん

戒壇(名)

寺にて僧に戒を授くる儀式を行ふ

ために設けたる壇。

かいたん

慨嘆(名)

慷慨嘆息。△(動)―慨嘆す。

かいたんせき

戒壇石(名)

「不許葦酒入山門」と刻して

寺の門前に立て置く石標。●戒壇の入口を

表するこの意。

かいたく

開拓(名)

荒蕪の土地を開く事。●開墾。△

(動)―開拓す。

かひだこ

貝蛸(名)

蛸船の一名。

かいたて

搔櫓(名)

有合ふものを搔き寄せて櫓に代用

するをいふ。○平治「五條橋を毀き寄せり

いたてにかきてまつ所に」

かひだゆし

(形。形状言ク活) かひなたるしに同じ。○

清慎公集「くやしきもかへりにけるか唐衣

かひだゆきまでかへすかひなし」

かひだし

買出(名) 買ひ出す事。●仕入。

かひだす

買出(他動四段) 商品を買ひ入る。●仕入

る。

かひれき

改暦(名) 暦を改むるの意。◎新年。

かひさう

海草。海藻(名) 海に生ずる縋べての植物。●

うみくさ。

かひさう

改葬(名) 改めて葬むる事。△(動)―改葬す。

かひさう

海蔵(名) 海底に秘蔵せらるゝもの。(謡曲)

かひさう

咳嗽(名) 咳に同じ。

かひさう

海賊(名) 海上の盜賊。●船盜。

かひさう

概則(名) 概略の規則。●略則。

かひさう

海賊丸(名) 古代算策の名。

かひさう

介添(名) 附き添ひて世話する人。●後見。

かひさう

海圖(名) 海上の繪圖。航海者の用ふるもの。

かひさう

(名) 魚の名。黒鯛の小さきもの。

かひさう

(他動四段) 掻き摺むに同じ。

かひさう

(他動下二段) 書き列ぬに同じ。

かいつ

開通(名) 道路など開き通する事。△(動)―

開通す。

かいつ

(他動四段) かちりつく。●むしりつく。

かいつ

飼付(他動下二段) 飼ひ馴らす。

かいつ

(他動四段) 衣類の着様など整ふる。

かいつ

(自動四段) 泣顔する。●べそをかく。

(推)

かいつ

(他動四段) 多くの中より取り分くる。●

摘要する。

かいつ

(名) 鳥の名。鳩の一名。

かいつ

貝つ物(名) 貝類。○源氏「海士どもあさ

かいつ

りして貝つ物もて参れるを」

かひね

峽根(名) 峽に同じ。○萬代「山のかひねに時

かひね

雨ふるらし」

かひね

緋練(名) 練りたる絹。……紅の色としたる

かひね

説は誤なり。色は何にても云ふ。○榮花「く

かひね

るさかいねり」紫日記「かいねりば紅」

かひね

腕(名) うで。

かひね

(形。形状言ク活) 腕の疲勞を感ずる有

かひね

様。●手がだるい。○伊勢集「夜もすがら

かひいなだゆし

物思ふ時のつら杖はかひなたるさう知られざりける」

(形。形状言ク活) かひなだるしに同じ。

かひなつ

○字治「かひなだゆくもあらず」
搔撫(名) きなづの音便。●なでる。

かひなげ

(名) 腕舉の略。○腕を上にあぐる事。(神樂歌)

かいなで

(名) 普通。●十人並。●平凡。○「かいなで」の歌よみし

かひいなし

(形。形状言ク活) しるしなし。●せんなし。

かいらぎ

●功能がない。
梅華皮(名) 刀の裝飾に用ふる鯨の皮の名。

かいうん

開運(名) 運を開く事。●仕合を善くする事。

かいうん

○「出世開運の大黒天」
海運(名) 海上の運輸。

かいのはしら

貝柱(名) 蛤などの内にありて柱の如く貝殻を附着するところ。食用として美味なり。

かひいのぼる

飼上(自動四段) 鵜飼をしつゝ川上へのぼる。○夫木「玉川の瀬々かひのぼる篝火にさばぐ手繩の数を知りぬる」

かひいのたま

貝玉(名) 眞珠。
貝の口(名) 男又は女の童の帶の結び方の名。たゞ眞結びにする事。

かひのこふ

(他動四段) 掻き拭ふの音便。
戒師(名) 戒を授くる師の僧。

かひのし

皆具(名) 何にても道具の一揃ひ。○増鏡「女房の装束がいづいろ／＼に」

かひぐみ

街衢(名) 往還の大路。●ちまた。●大道。
買食(名) 三食の外に菓子、鮎などの類を買ひて食ふ事。

かひぐみ

開化(名) 風俗人情の文明の域に進む事。●世の開け進む事。△(動)―開化する。

かいくん

海外(名) 海の外の國。●外國。

かいくん

開卷(名) 「一」書物を開く事。○「開卷驚奇」
「二」書物の書きはじめ。○「開卷第一」

かいくん

解官(名) 官を解く事。●解職。△(動)―解官す。

かいくん

開關(名) 開關の令出でたる關を日頃ありて開く事。(代始和鈔)

かいくんせい

海關稅(名) 租稅の名目。貿易品の輸出人に課するもの。

かひくたろ

飼下(自動四段)

鵜飼をしつゝ川下へくだる。○夫木「サリサリさす鵜飼の小舟」

たりあけてをのぼる淀の川波」

かひくら

(名)

螺鈿にしたる鞍。

かいくらみどき

(名)

夕暮。●たそがれどき。●薄暮。

(著聞)

かいぐん

海軍(名)

海上の軍備。

かいぐんたいじん

海軍大臣(名)

現今の官名。海軍省の長官。

かいぐんし

シヨウ

海軍省(名)

現今の官廳の名。海軍の事を掌る所。

かいぐう

海隅(名)

海邊の片隅。

かいやる

(他動四段)

掻遣るの音便。●押し遣る。

かひやぐら

貝櫓(名)

舂氣樓。

かいまむ

(自動四段)

垣間見をする。●覗く。●すきみる。○伊勢「此男かひまみてけり」

かいまき

搔卷(名)

夜具の一種。ごてらより大きく夜着より小さきもの。

かいまみ

垣間見(名)

物の透間より覗き見る事。●すきみ。

がいけ

咳氣(名)

病の名。咳の出づるもの。●氣管支

かいけつ

(他動四段)

掻き消すに同じ。(宇治)

かいげん

改元(名)

「天皇の御即位ありて元年となる事。」「二年號の改まりて元年となる事。

△(動)改元す。

かいげん

戒嚴(名)

嚴重に用心する事。●警戒。△(動)

一戒嚴す。

かいげん

開眼(名)

佛像の新に成りたる時に行ふ供養。○佛の目を開くの意。△(動)開眼す。

かいぶ

海部。海賦。海浦(名)

織物、蒔繪などの模様の名。波、藻、貝などすべて大海のさまを畫がけるもの。○「かいぶのおりもの」かいぶの裳「かいぶの太刀」

身分(訓) 身分に出来るだけの力一ぱい。●身分。○諸曲「涯分舞を舞ひ候べし」

がいぶん

涯分(訓)

身分に出来るだけの力一ぱい。●身分。○諸曲「涯分舞を舞ひ候べし」

かいふう

開封(名)

手紙などの封を開く事。△(動)開封す。

かひふき

貝吹(名)

陣中にて螺の貝を吹く役の人。

かいぶし

蚊燵(名)

蚊を燵す。●蚊を燵す材料。●蚊道。●蚊遣火。

かひこ

蠶(名) 元は養蠶の意。◎出の名。人の養ひて

糸を得るもの。春、卵より孵化して桑の葉を食ひ。四眠の後、繭を作りて蛹と變ず。

此繭を煮て糸となし又は眞綿となす。●こ。

●おこ。

かひこ

卵(名) 鳥の卵。○玉葉「鶉のかひこのいまだ

かへらぬほどに」

かひこ

飼殺(名) 「一」牛馬など老衰せしものを死ぬるまで飼ひ置く事。「二」轉じて人にもい

ふ。

かひこ

買言葉(名) 先方より暴言するを賣言葉といひ。之に應じて我も暴言を吐くを買言葉

といふ。

かひこ

骸骨(名) 「一」人のからだ。○「骸骨ををふ」

「二」死人の骨。肉の既になくなりたるもの。

かひこ

開墾(名) 土地田畑を開く事。△(動)―開墾

す。

かひこ

開口(名) 「一」口を開く事。○「開口新話」

「二」能樂にて翁すみ脇能の始まる時。脇師

先づ出て、祝言の話を獨吟すること。……

徳川時代にて大禮の能などの時せし事にて

かひこ

文句は林家特別に之を作るを例せり。選進(名) 計らず廻り合ふ事。△(動)―選進

す。

かひか

開港(名) 港を開く事。●外國船の入港を計

す事。△(動)―開港す。

かひか

貝杵。貝甲(名) へなたりといふ貝の蓋。

(徒然)

かひか

●開闔(名) 昔の官名。藏人所、政所、和歌所

等の次官。

かひか

改號(名) 稱號を改むる事。●改稱。●改名。

△(動)―改號す。

かひか

開港場(名) 開港したる場所。●互市場。

●貿易港。

かひこ

海國(名) 沿海の邦國。○海國男兒「海國

の軍備」

かひこ

(他動四段) 昔し女の髪の後ろへ下りたるを

前へ振り越すを云ふ。○狹衣「尼になりな

んと思ひ給ひて櫛の箱など取り出で、髪

かひこして見給ふに」

かひこ

改易(名) 徳川時代御目見以上の武士に行は

る、刑罰の名。家祿を褫ひ士籍を削ること。

……御目見以下には之を御扶持召放さい。
ふ。

かひて 買手(名) 買ふ人。

かいてい 階梯(名) 階子段。●階段。又物の初歩。

かいてい 海底(名) 海の底。

かいてい 解停(名) 新聞誌誌などの發行停止を解く事

かいてん 開店(名) 店を開く事。●開業。△(動)―開店す。

かいでん 皆傳(名) 其藝術に關しての秘術を悉皆傳授する事。

かひゝあはび 貝鮑(名) 貝の附きたる生の鮑。……干鮑に對していふ。

かひゝあはせ 貝合(名) 蛤の貝の蓋と身とに繪や歌などかきて。歌加留多などのやうに其合ふべき貝を多く取らんを競争する一種の遊戲。●かひおほひ。

かひやく 皆濟(名) 殘らず金錢など仕拂ふ事。

かひやく 貝細工(名) 貝殻を用ひて色々の細工する事。又は其品。

かひやく 改札(名) 札を改むる事。

かひやく 開札(名) 入札を開く事。●開票。△(動)―

開札す。

かいさん 海産(名) 海の產物。

かいさん 解散(名) 集會を散ぜしむる事。△(動)―解散す。

かいさん 開山(名) 〔一〕山を開きて佛寺佛殿を建立する事。●開基。〔二〕開山を爲したる僧。

かいさん 概算(名) 概略の計算。●豫算。●見積。△(動)―概算す。

かいさん 開山忌(名) 開山を爲したる僧の忌日に執行する佛事。

かひやく 開鑿(名) 陸道運河などを掘り開く事。△(動)―開鑿す。

かいさく 開基(名) 〔他動四段〕 掻き探るの音便。(源氏)

かいさく 開基(名) 佛寺などの基を開く事。●開山。●草創。●建立。○「日蓮上人の開基」

かいさく 海氣(名) 海岸の空氣。

かいさく 皆既(名) 天文學上の詞。日月蝕の全部虧くる事。

かひゝき 甲斐絹(名) 絹織物の名。近年多くは甲州郡内邊より産す。地薄くして光澤あるもの。

かいぎょ 海魚(名) 海の魚。

かいけ^{キヨ}ふ^リ

海峽(名) 地理學上の詞。兩陸の間に挟まりたる狹き海。

かいぎ^ヤキョウ

戒行(名) 戒を守りて實行する行ひ。(佛敎)

かいげ^{キヨ}ふ^ツ

開業(名) 業を開く事。●開校。●開店。△(動)―開業す。

かいげ^{キヨ}ふ^ヰ

開業醫(名) 内務省の醫術開業試験に及第して醫術を營業とするもの。

かいげ^{キヨ}ふ^シき

皆勤(名) 一日も缺席なしに勤むる事。△開業式(名) 開業の祝の儀式。

かいきん^シヤ

海金砂(名) 草の名。葉の表に皺ありて砂の如きものを含む。秋之を採りて藥用となす。

かいぎ^キク

諧謔(名) 滑稽。●洒落。^{しゃれ}●おどけ。△(動)―諧謔す。

かいぎ^キユ

階級(名) 物事の上下の差別。●等。●段階。

かいめい^イ

開明(名) 世の中の開くる事。●文明。●開化。

かいめい^イ

改名(名) 名を替ふる事。△(動)―改名す。

かいめん^ン

海綿(名) 海産動物の巢を製して綿の如くしたるもの。

かいめん^ン

海面(名) 海の表面。●海上。

かいみ^ミヤミョウ

戒名(名) 死人に附くる佛法上の謚。●法名。●法號。

かいし^シ

界紙(名) 罫紙。●筋紙。

かいし^シ

海市(名) 景氣樓の一名。

かいじ^ジ

航海、海軍、漁業等海上に關するすべての事業。

かいじ^ジ

孩兒(名) 乳呑子。●赤子。●みどりこ。

かいしろ

垣代(名) 「一」帳。●さばり。「二」雅樂にて青海波の曲を奏する時。人々舞臺を垣の如くに取り圍み立つを云ふ。此中にて舞人舞を演するなり。○後宇多天皇弘安舞御覽記「垣代に瀧口八人。親王の御隨身。いろく

かいし^シ

の染裝束典をつくし」

かいし^シ

楷書(名) 漢字書體の名。字畫の最も正しく整ひたるもの。すなはち板本の四書五經などにあるやうな文字。●眞書。

かいし^シ

改稱(名) 改號。●改名。△(動)―改稱す。

かいじやしょう

街上(名) 往來の中。●町な。

かいしぐ

解職(名) 其職を止むる事。●解任。△(動)

— 解職す。

かいしらぶ

(他動下二段) 掻き調ふの音便。◎琴の類

を調ふるをいふ。●掻鳴らす。●弾く。(源

氏)

かいしん

改心(名) 惡心を改めて善心となる事。●△

(動) — 改心す。

かいしん

戒心(名) 用心。△(動) — 戒心す。

かいしん

改新(名) 革新に同じ。△(動) — 改新す。

かひしむ

買占(他動下二段) 商人の詞。一手に買ひ取

る。

かいしぐ

解釋(名) 文の意味など説き明す事。△(動)

— 解釋す。

かいしぐ

介錯(名) 「一」助けて世話をする事。又、其

人。●後見。●介添。「二」武家にて切腹す

る人の首を刎める事。又其役。……△(動)

— 介錯す。

かひいじゃくし

貝杓子(名) 帆立貝に柄を附けて杓子と

せるもの。

かいしき

皆式(副) 一式。●残らず。●悉皆。(俗)

かいしき

搔敷(名) 料理の詞。食物の敷物にする草木

の葉又は紙。

かいしゅ

皆朱(名) 漆器の塗り方の名。すべて朱の色に

せしもの。

かいしゅう

改宗(名) 宗旨を變へて他宗の信徒となる

事。△(動) — 改宗す。

かいじゅう

海獸(名) 海に棲む獸。海狗、海馬の類。

かいひ

開扉(名) 神佛の扉を開きて諸人に拜せしむる

事。●開帳。△(動) — 開扉す。

かひいびやびゅうぶ

貝屏風(名) 貝細工にて作れる玩具

の屏風。相州江の島の名産。

かいひん

海濱(名) 海の邊。●海岸。●濱邊。

かいびく

開闢(名) 天地の開け初め。

かいもど

垣下(名) 垣下の同伴役。○後撰「かい

もどに殿上人々まゐりて」

かいもどあるじ

垣下饗(名) 相伴の馳走。○源氏「お

ほしかいもどあるじ」

かいちひい

搦餅(名) 食品の名。今いふ牡丹餅の類。

又蕎麥搔の類。○徒然「かいちひめさせ

んとて」

かいもん

海門(名) 瀬戸。●海峡。

かゝもん

開門(名) 門を開く事。△(動)―開門す。

かひいもの

買物(名) 「一」買ひたる物。「二」買ふべきもの。

かいせい

改姓(名) 姓を改むる事。●苗字を變ふる事。

△(動)―改姓す。

かいせい

改正(名) 改めてよくする事。△(動)―改正す。

かいせい

慨世(名) 世の爲めに慷慨する事。●憂國。

海青樂(名) 雅樂の曲名。

かいせい

蓋世の(形) 世を蓋ふほどの。●天下第一の。●當代無比の。○「蓋世の英雄」

がいせつ

割切(名) 其事によく當るをいふ。●適切。

かいせん

開戦(名) 戦争を始むる事。△(動)―開戦す。

かいせん

海戦(名) 海上の戦争。●船軍。

かいせん

疥癬(名) 病の名。皮膚に一種の寄生虫の生ずる病。●しつ。●ひぜん。

がいせん

凱旋(名) 戦争に勝ちて引上ぐる事。●凱陣。

△(動)―凱旋す。

がいぜん

慨然(副) 慨き憂ふる有様。(又)―慨然と。

がいぜん

駭然(副) 打駭く有様。●愕然。(又)―駭然と。

がいす

害(他動サ變) 「一」そこなふ。●害をなす。●妨害する。●傷害する。●殺す。●殺害する。

がいす

慨(自動サ變) 世の爲めに慨き憂ふる。●慷慨する。

かいする

海水(名) 海の水。●潮水。●鹹水。

かひいすり

貝磨(名) 貝を磨りて種々の細工をする職工。(名) 輕々しく振舞ふ事。……沈着の反對。

かるはすみ

●輕卒。●輕佻。

かるがるし

輕輕(形) 形狀言シク活 輕く見ゆる有様。●重々しからぬ。●輕率な。

かるらか

輕き有様。●輕々しき有様。(形)―かるらかなる。(副)―かるらかに。

かるん

歌論(名) 和歌に關する議論。

かるむ

輕(他動下二段) 輕くする。●輕んずる。●輕蔑する。

かるんず

輕(他動サ變) 輕しと思ふ。●輕くする。●輕蔑する。

からう

家老(名) 徳川時代諸藩執政の長官。

からうづつ

(名) 辛櫃の音便。(雅)

からうじて

(副) ちらくしての音便。●やうくゝの事

にて。●やつの事で。

かるく

家祿(名) 徳川時代士人の家に附きたる俸祿。

かるく

加祿(名) 祿高を増加し賜はる事。●加増。

かるやか

かるらに同じ。(形)―かるやかなる。(副)

―かるやかに。

かるぶ

輕(自動上二段) 輕々しくある。●輕はづみである。○源氏「かるびたる名をや流さんと

忍び給ひける隠れ事をさへ」

かるし

輕(形。形狀言々活) 目方の少なき。……重しの

反對。●賤し。●威嚴の無い。

かるしむ

(他動下二段) 輕しと思ふ。●輕蔑する。

カラミ發音する詞はかわの處にあり。

かは

樺(名)

「一」木の名。木は梅に似て夏花咲き冬實

を結ぶもの。異名は。……かには。●かに

はざくら。●かんばん。●「一」樺色の時。

かは

蒲(名)

草の名。かまに同じ。

かはいろ

樺色(名)

色の名。赤を帯びたる黄色。

がばど

(副)

身を起し又身を倒す時などの音。

かはち

樺茶(名)

色の名。茶色を帯びたる樺色。

かはかり

斯計(副)

此くらぬ。●これはど。●これだ

け。(又)―っぱかりに。(形)―かはかりの。

かはね

屍。尸(名) 死人の身體。●屍體。●死骸。

かはね

尸。姓(名) 上古我臣民の門閥尊卑を區別する

ために朝廷より姓と共に賜はれたる尊稱。

……天武天皇の時詔して。從來種々ありた

るものを改めて八種に定め給へり。一に眞

人。二に朝臣。三に宿禰。四に忌寸。五に道

師。六に臣。七に連。八に稻置。……現今の

五爵に似たるもの。

かはん

加判(名)

「一」連名の中に加はりて捺印する

事。●保證人として捺印する事。△(動)―

加判す。○「二」徳川時代執政職になる事。◎

公文に連署するの職なる故にいふ。

かはん

鞆(名)

物を入れて提ぐる革の袋。または箱。

かはん

加番(名)

徳川時代の役目。本官のある上に兼

務めるもの。○「大段加番」駿府加番

かはんにん

加判人(名)

加判したる人。●保證人。●

證人。

かはむしろ

蒲薙(名)

蒲にて編みたる薙。

かはふツ

(他動四段)

保護する。●擁護する。

かはく

河伯(名)

河を司る神。

かはやき

蒲焼(名)

料理の詞。鰻などを串に差して焼

く方法。◎その串に差したる様が蒲の穂に似たる故とも云ひ。又は其樺色なる故の名とも云ふ。

かはへぎさ

(名) 木の名。梅の異名。

かはざくら

樺櫻(名) 木の名。櫻の一種。其花の薄赤きもの。

かはしら

蚊柱(名) 夏の夕べ蚊の群り飛ぶを云ふ。其さま柱の如く見ゆる故に。○拾遺愚草「草深き賤が伏屋の蚊柱にいさふ煙を立てそふるかな」

かに

蟹(名)

兩棲動物の一種。甲殻類にして兩手に鋏を有し小虫など捕へ食ふもの。其類多し。

かに

(名)

かにばら。●かにくそ。(空穗) ために。●やうに。●料として。……古言にてはがれ。○玉葉「春霞なほ立ちかくせ

かに

(後)

かへる山こえゆく雁の道よごふかに」

かにば

(名)

蟹羹。

かにどり

蟹取(名)

かにどりこそでの略。

かにどりこそで

蟹取小袖(名)

小兒初生の時の産衣。

かにば

樺(名)

木の名。かはに同じ。(雅)

かにばざくら

樺櫻(名)

木の名。かはざくらに同じ。

かにかくに

(副)

さにかくに。●さかくも。(萬葉)

かにくめ

蟹眼(名)

かなめに同じ。(雅)

かにくそ

蟹羹(名)

初生兒の大便。

かにニユッ

加入(名)

連中に加はる事。△(動)―加入す。

かにひ

(名)

灌木の名。雁皮に同じ。(枕)

かにもり

掃部(名)

かにもりのつかさの略。

かにもりのつかさ

掃部寮(名)

かもんれうを見よ。

かほ

カオと發音する詞はかの處にあり。

かほど

斯程(副)

斯くまで。●これ程。

かぼち

南瓜(名)

瓜の一種。近古東南菜より輸入せしもの。●異名は……唐茄子。●ほうぶら。

かぼせし

(形。形狀言ク活)

細し。●清せたる。●虚弱なる。

かほふ

家法(名)

「一」家の規則。●内則。●家風。「二」

かほふ

家傳の秘法。

かほふ

加法(名)

數學上の詞。或數と或數と合する方

かほふ

法。●寄せ算。●加算。

かほく

下僕(名)

下男。●奴僕。

かへ

カエと發音する詞はかえの處にあり。

かへ 壁(名)

家の隔などに土を塗りたるところ。

かへ (名)

婦人詞。豆腐の異名。

かへ (名)

夢の異名。○兼輔集「轉寢のうつゝにものかなしきは昔のかへを見ればなりけり」

かへいじゅう

加陪從(名)

本職ならざる諸家の諸太夫など召して臨時陪從に加へらるゝをいふ。

……陪從を見よ。○隆信集「又の春臨時祭の加陪從に」

かへどなり

壁隣(名)

壁一重隔てゝの隣家。

かへちまろ

(名)

絹織物の名。綾織にして縮みたるもの。

かへぬり

壁塗(名)

壁を塗る人。●左官。

かへがき

壁書(名)

へきしよ。

かへたつ

壁立(自動四段)

壁の如く四方を圍みて立つ。○祝詞式「天の壁立つ極み」

かへそしう

壁詭託(名)

聞えよがしに不平を訴ふる事。(俗)

かへぐさ

壁草(名)

壁に生ずる草。●いつまでぐさ。

かへげんざん

(雅)

壁見参(名) 物越しなどにて直接に面會せぬ事。(平家)

かへごし

壁越(名)

壁を隔てゝする事。

かへしう

壁代(名)

古代室内の隔に垂れたるもの。帳。几帳、衝立などの類。

かへしたち

壁下地(名)

壁を塗る下地に構ふる木・竹などの骨。

かど

門(名)

「一」家、屋敷の出入口。●と。●もん。「二」家に同じ。

かど

角(名)

物の尖りたる所。●角度を爲したるさゝる。

かど

才(名)

さい。●才氣。●智慮。●機智。

かど

廉(名)

取立てゝいふべき所。●條件。

かど

家奴(名)

下男。●家僕。

かどいわし

鯨鯛(名)

魚の名。鯨にしんの一名。

かどいで

門出(名)

かどいでに同じ。

かどいし

角石(名)

燈石。

かどべ

門邊(名)

門の邊。●門前。

かどべ

門部(名)

官名。衛門府に屬して禁門を守る役。

かどちがへ

門達(名)

行くべき家の門を取違ふる事。

かどり

縑(名)

絹織物の名。細絲にて薄地に織りたるもの。

かどりのきぬ

縑衣(名)

縑かどりにて作れる薄衣。……古へ衣を伏籠に掛けて着せしむる時。之を直ち

に置かすして先づ下に此縑の衣を掛くるを例せり。

かざる

(他動四段) かざはすに同じ。(紀)

かざるう

門を出つ(句) 出家するをいふ。○夫木「門を出でば尋れてゆかん清水谷名にたがはすは住みやさまる」と

かどぼかし

勾引(名) かどぼかし事。又は、かどぼかしを爲す人。

かどぼかす

(他動四段) かどぼかすに同じ。○義經記「かどぼかし参らせ御供して秀衡の見参に入

かどぼす

勾引(他動四段) 子女などを盗み去るを云ふ。……昔は斯かる悪行を爲して之を遠國

かどかどし

に連れゆき賣るの風行はれたり。○謡曲「我は都北白河に。吉田の何某ぞ申し、人の唯一人子にて候ふが。父にはおくれ母ばかりに添ひ参らせ候ひしな。人商人にかどぼされてかやうに成り行き候」
(形。形状言シタ活) 「一」角立ちたる。●四角張りたる。○源氏「いさおしたちかどししき所ものし給ふ御方にて」夫木「岩の上

かどがまへ

の「どし／＼しきもあるものな」「二」才ちらしい。……心にも容貌にも云ふ。●上手らしい。……藝術に云ふ。○源氏「深きかど／＼しまを加へてめづらかに舞ひ給ふな」門構(名) 「二」門の構造。「二」漢字聞闌などの類の園の門の字。

かどた

門田(名) 門前にある田。○門田の稻「門田の鳴子」

かどたがひ

門達(名) 門つちかへに同じ。

かどたつ

角立(自動四段) 角が立つ。●殺氣を含む。

かどつけ

門附(名) 人の家の門に立ちて音曲、身振、聲色などして錢を乞ふ事。又その人。

かどなみ

門並(副) 門毎に。●何の家も。(又)「門並に。△(形)「門並の。

かどんぼ

蚊蜻蛉(名) 虫の名。蜻蛉の一種にして小さなもの。又燈心蜻蛉とも云ふ。

かどろ

下等(名) 品格の劣る事。●劣等。

かどろ

歌頭(名) 踏歌の時に音頭を取りて歌ふ役。

かどふ

(源氏)

かどふ

(他動四段) 盗みて持ち行く。●かどはかす。○六帖「山風の花の香かどふ」麓には春の霞

かほだしなりける」

かだろ

歌道(名) 和歌の道。●歌よむ術。

かたろ

勘當(名) かんだうに同じ。

かたろ

(名) 「一」味方。●我方の人。「二」堅き人。

○徒然「老のちたうじ」

かどろ

河東節(名) 俗曲の一種。十寸見河東の創

めたるもの。

かどろ

看督長(名) 古代の官名。檢非違使廳の下

役にて日本六十六箇國に當てゝ六十六人を

置き。惡徒捕縛等の事を司る。赤狩衣に白

布袴を着て白杖を持つなり。

かどろ

家督(名) 其家の主人たるの權利。●家名。●

家産。

かどろ

門口(名) 門の入口。

かどろ

角屋敷(名) 市街の曲り角の屋敷。

かどろ

門松(名) 年の始を祝びて門に立つる松。

かどろ

門出(名) 家を出て立つ事。●出立。●發足。

かどろ

(自動四段) かどろしある。○源氏「かどろし給へる人にて」

かどろ

門火(名) 葬式又は魂祭の時門前にて焚く火。

かどろ

門守(名) 門を守る人。●門番。

かどろ

門涼(名) 門に出て、涼む事。

かち

褐(名) 「一」染色の名。藍の濃きもの。……昔し

播磨の國飾磨郡より産せし故に「飾磨のかち」と續け云へり。又勝の意に取り成して

武器などに好みて此色を用ふ。「二」重の色

目。表裏共に萌黃。

かち

瘡(名) 病の名。疥癩に同じ。

かち

徒歩(名) 「一」馬にも車にも乗らずしてあるく

事。●步行。「二」舟に乘らずして行く事。

●陸行。「三」徒士侍。

かち

價值(名) あたひ。●れだん。●れうち。

かち

勝(名) 勝つ事。●勝利。

かち

機(名) 船具の名。樞、櫓の古名。

かち

舵(名) 船具の名。船の方向を正す爲の大切なる

もの。

かち

梔(名) 木の名。●橘に同じ。其葉菊に似て平た

く古へは七夕祭の時人々之に歌など書きて

手向けたるもの。

かち

鍛冶(名) 金屬を鍛ひて器物刀劍など造る事。又

は之を業とする人。

かち

加持(名) 眞言宗にて行ふ一種の祈禱。△(動)一

加持す。

がち

雅致(名)

風雅なる趣向。●雅趣。●風致。

勝(助名)

多数を占むる事。……たさへば「雨ち」さ云へば雨天の方が晴天よりは多数を占め、「留守がち」さ云へば留守の方が在宅よりは多数を占むるの類。

かちいくさ

勝軍(名)

戦捷。

かちいくさ

徒軍(名)

徒立の軍勢。●歩兵。

かちばなし

徒跣(名)

跣足にて歩く事。

かちばしら

櫓柱(名)

舟の櫓などを以て假初に造れる家の柱。○堀川「みるめ」の海士の苦屋の

櫓柱」

かちどり

「一」(舵取)舵を手にして船の方向を正す人。●舵手。●船頭。「二」(櫓取)船にて櫓を押し權を使ふ人。●水手。●舟子。●舟人。

かちどりのかみ

櫓取神(名) 舟を守る神。(竹取)

かちどき

勝鬨(名)

勝軍の時にあぐる鬨の聲。●凱歌。

かちち

徒路(名)

徒にて行く路。

かちめの

褐布(名)

褐色に染めたる布。

かちな

櫓緒(名)

櫓を舟に結び附くる繩。(雅)

かちおど

櫓音(名)

櫓の音。●櫓の音。

かちわたり

徒渉(名)

徒にて川を渉る事。

かちかた

(名)

大麥の古名。(和名抄)

かちから

舵柄(名)

舵の柄。●舵櫓。(萬葉)

かちがみ

梶紙(名)

梶にて製したる紙。(東大寺文書)

かちやう

蚊帳(名)

蚊屋に同じ。

かてう

箇條(名)

事柄。●事項。●事件。

がてう

鵝鳥(名)

鵝に同じ。

かてうげに

(副)

駕輿丁などのやうなる身輕の出立にて。○落窪「我はたゞ白き御衣一かさね

を着給ひいさかてうげに引きつれて」

かちだち

徒立(名)

軍陣にいふ詞。馬に乘らぬ事。

かちつか

舵櫓(名)

舵に附きたる柄。手に握りて船の回轉を自在になし得るもの。

かちん

謂(名)

染色の名。いちに同じ。○「かちんの直垂」

「かちんの袴」

かちん

(名)

餅の異名。○語原には種々の説あり。其

一。小野小町が雨乞の歌をよみたる實に禁

中より下し賜はりたれば歌賃の意。(是は滑稽に屬す)其二。搗飯の意。(附會に近し)其

三。昔し襦の衣着たるもの常に禁中に餅實

りに来りしより女官之を「ちん／＼」と呼び
たるに起る。(此説事實に近し)

かちんいろ

褐色(名) ちんのいろ。

かちむし

徒武者(名) 徒立の軍兵。●歩兵。

かちのはひめ

梶葉姫(名) 七夕に祭る織女の異名。

かちのおどろ

櫓の音の(枕) 櫓の水に觸るゝ音がつばらつばらとやうに聞ゆるなもてつばら／＼の枕詞とす。○萬葉「朝びらき入江／＼なる櫓の音のつばら／＼に我家し思はゆ」

かちのき

勝木(名) 木の名。ぬるでの一。名。

かちぐり

勝栗(名) 外皮を去りて乾したる栗の實。…搗栗と書くべきを勝、搗音相通する故勝栗と書き替へて武家にては祝儀のものとして。

かちや

鍛冶屋(名) 鍛冶を業とする家。

かちま

櫓間(名) 取りつゝある櫓の絶間。○萬葉「淡路島さわたる舟のかちまにも我は忘れず家なしぞ思ふ」

かちまぐら

櫓枕(名) 櫓など枕にして舟中または舟人の家に寝る事。●旅泊。○玉葉「湊風さむき浮寐の櫓枕」千載「旅寐する海士の苦屋

の櫓枕」

かちありき

徒歩(名) 徒にて歩行する事。

かちあふり

(自動四段) 物事の衝突する。●差し合ふ。

かちさむらひ

徒侍(名) 武家にて乗馬せず徒歩にて主君の供する士人。また其資格の人。

かちさび

(名) 勝に乗じて心の進む事。(記)

かちさき

勝氣(名) 負け嫌ひの性質。(俗)

かちさまぐら

鮫木黒(名) 魚の名。眞黒の一種にして鼻端の尖りたるもの。

かちう

家中(名) 徳川時代の詞・同藩士の總名。●藩士。●藩中。○「赤穂の家中」

かちゆみ

徒弓(名) 徒にて弓射る事。●歩射。

かちめ

搗布(名) 昆布を粉にしたるもの。(和名抄)

かちめつけ

徒目附(名) 徳川時代の役名。徒士の中の目附役。

かちしね

搗稻(名) 稻の穂を去りたるのみてまた春にぬもの。●玄米。(和名抄)

かちびど

徒人(名) 徒にて行く人。

かり

雁(名) 鳥の名。鴨に似て大きく。秋の頃列をなして渡り来り。春になれば北に向ひて去るもの。●びん。●かりがね。

かりかり

(名)

雁に同じ。○建保歌合「かり／＼のゆき」を空に忍ぶさて霞を霧にいくへながめ

つし

かりかりど

(副)

雁の鳴く聲。○貫之集「かり／＼のみ鳴きわたるらん」

かりかた

借方(名)

金銭を借りたる方の人。●負債主。●債務者。

かりがね

(名)

「一」雁の鳴く音。○萬葉「さよ中さ夜はふけぬらし雁が音の聞ゆる空に月わたる見ゆ」。「二」轉じて雁に同じ。○



かりようびん

迦陵頻(名)

「一」迦陵頻伽の略。「二」雅樂の曲名。又鳥ともいふ。

かりようびんが

迦陵頻伽(名)

極樂世界に住むといふ想像の鳥。此鳥微妙美麗なる聲を持ちて音楽を奏す。

かりた

刈田(名)

稻を刈りたる田。

かりたつ

驅立(他動下二段)

野山の獸を逐ひ出す。

かりたく

假宅(名)

假に住む家。●暫時の住居。●假

かりさうぞく

普請の邸宅。

狩装束(名)

狩に出づる時の装束。

かりそめ

假初(名)

假。●間に合せ。●當座。△(形)

かりそめぶし

一かりそめの。(副)

一かりそめに。

假初臥(名) 假に寐る事。●落着かぬ寐方。●うたいね。●ころび寐。●いたづら寐。●旅寐。○夫木「萱枕かりそめぶしのさびしきに夜半の嵐ぞ友さなりける」

かりつゑ

狩杖(名)

鷹狩の時鳥を追ひ立つるための杖。

かりね

假寐(名)

假に寐る事。●假臥。●轉寐。

かりふ

刈生(名)

草を刈取りたるところ。○夫木「しひてこそ猶狩りゆかめ磐瀬野の萩の刈生は雪ふかくさも」

かりうど

獵人(名)

かりま。●獵師。

かりうち

樗蒲(名)

古代遊戲の名。博奕の類。(和名抄)

かりうつす

(他動四段)

よりまゝに物怪、死靈を乗り移らしむるをいふ。……よりまゝを見よ。

かりのはごろも

雁羽衣(名)

雁の翼。

かりのたより

雁便(名)

かりのつかひに同じ。

かりのたまづ

雁玉章(名)

「一」雁の渡るを文持ちた

かりのつかひ

る使に見立て云ふ。「二」雁の列り渡るを文の文字に見立て云ふ。

狩使(名) 昔、鷹狩の御用にて諸國に遣はされし勅使。また鷹狩を名として政治の得失を視察するため諸國に遣はされしもの。

かりのつかひ

雁使(名) 「一」雁の渡るを文持ちたる使に見立て云ふ。「二」たゞ使の事。

かりのこ

雁子(名) 「一」雁の雛また卵。「二」鴨の卵。「三」古代菓子の名。

かりのみぞ

狩御衣(名) 御狩衣。

かりくら

狩座(名) 狩場。○謡曲「赤澤山の狩くらにて」

かりや

借屋(名) 借りたる家。●しゃくや。

かりやかた

假館(名) 假普請の館。○拾遺愚草「大井川夏毎にさす假館」

かりやす

刈安(名) 染草の名。山中に生じて黄色を染むるに用ふるもの。

かりやすぞめ

刈安染(名) かりやすの汁にて染めたるもの。

かりまた

雁戾(名) 「一」矢の根の一種。飛ぶ雁の形に似たる戾あるもの。(圖)

「二」これを附けたる矢。



かりまくら

假枕(名) 假に枕する事。●假寐。●假臥。○夫木「埴生の小屋の假枕」

かりぐし

假臥(名) 假寐に同じ。

かりこ

狩子(名) 狩場にて獸など追ひ出す人夫。●勢子。○夫木「情なき狩子の耳に小男鹿の今宵の聲をいかで聞かせん」

かりごろも

狩衣(名) 「一」狩衣。「二」獵をする時の衣。

かりこむ

刈込(他動四段) 「一」刈り入る。「二」刈るに同じ。

かりこもの

刈菰の(枕) 「一」刈りたる菰は乱れ混ふものなれば亂るの枕詞。○萬葉「けひの海にはよくあらし刈菰の亂れ出づる見ゆ海士の釣舟」

「二」刈菰の萎ゆるさいふをしめに言ひ掛けたる枕詞。○萬葉「かりこもの心もしぬに」

かりて

(名) 糧に同じ。(萬葉)

かりて

借手(名) 借主。●物を借る人。

かりで

(名) 被り笠の紐を附くる所。

かりあど

刈跡(名) 稲草など刈り取りたる跡。

かりさだむ

假定(他動下二段) 假に定むる。●假定する。

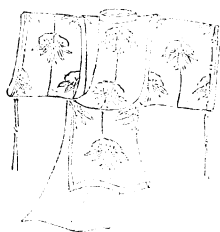
かりぎ

借着(名) 衣服を借りて着る事。

かりぎぬ

狩衣(名) 鷹狩などに着たる故に起れる名。

◎男子装束の一種。闊服の袍に似て袖にツエあり。帶をして胸をふくらし出だすがため前面の帯は見えず。背後は帯の下に長く垂れて裾の如く見ゆ。五位以上は織物を用ひ。以下は無文の布を用ふ。布衣、これなり。狩衣着用の時は烏帽子と指貫とを必ず合せ用ふるものとす。(圖)



かりぎぬばかま

狩衣袴(名) 狩衣の時に用ふる袴。さしぬき。

かりぎぬすがた

狩衣姿(名) 烏帽子、狩衣、指貫の出立ち。

かりりゅう

河流(名) 河の流れ。

かりりゅう

下流(名) 流れの下。●川下。

かりみやう

我流(名) 自分勝手の流れ。●自己流。

かりみや

假宮(名) 假の宮居。●行宮。●離宮。

かりしほ

(名) 稲妻などの刈込時。●刈るべき時。○新六帖「浦風に濱田の小稲うちなぎきはやりしほになりぞしにける」

かりびど

獵人(名) 獵師。

かりびさし

假庇(名) 假に造れる庇。

かりもがり

殯(名) 死人を棺に納めて埋葬するまで置く事。

かりずまひ

假住居(名) 假の住居。●寓居。

かめ

兼(他動下二段) 一つ物の有る上に又一つを合はする。●兼帶する。

かめ

兼(助動) がたし。●にくし。○「行きわたれて」見

かめち

(名) 金打の約音。◎鍛冶。(記)

かる

刈(他動四段) 草木を切り取る。●薙ぎ倒す。

かる

借(他動四段) 持主の許を受けて使用する。●借用する。

かる

獵。狩(他動四段) 鳥獸魚などを捕る。

かる

かる

かる

かる

かる

かる

かる

驅(他動四段)

鳥獸または人などを逐ひ出す。

かる

枯(自動下二段)

「一」草などの生氣を失ふ。「二」

聲の立たぬやうになる。

かる

涸(自動下二段)

川池などの水の無くなる。

かる

離(自動下二段)

離るゝ。●遠ざかる。○「人目の

かるゝ」夜かるゝ

かる

(自動四段)

音樂上の調。めるの反對にて。調子

の程度より高く上る。

かるいし

輕石(名)

石の一種、輕くして水に浮ぶもの。

がるろん

瓦(名)

酒類などを量るに用ふる英國の櫛目

の名。我二升五合一勺八抄六七にあたる。

がるはにめつき

(名)

電氣鍍金術の一種。伊太利のガル

ハニ氏の發明に係るもの。

かるはずみ

(名)

かるはずみに同じ。

かるに

輕荷(名)

船にいふ詞。船脚の輕過ぎる時に重

みをつくる爲に船底に積む土石。

かるわざ

輕業(名)

網渡り梯子乗など身輕に行ふ事。

かるわざし

輕業師(名)

輕業を興行するを以て業とす

る人。

かるがる

輕輕(副)

かるそくに。△(又)「かるゝ」に。

かるがるし

(形。形狀言シク活)

かるゝゝに同じ。

かるかや

刈萱(名)

「一」刈り取る萱。「二」草の名。薄

などの類の萱。

かるかやの

刈萱の(枕)

刈りたる萱の如く亂るゝの意

にて枕詞とす。○古今「かるかやのみだれ

てあれど」

かるがゆゑに

故(副)

斯くあるが故に。●此故に。●

故に。○謡曲「かるがゆゑに天地を動かし

鬼神を感じしむることわり」

かるかも

輕鴨(名)

鳥の名。鴨の一種。

かるた

歌留多(名)

遊戲に用ふる紙製の札。「歌がる

た」伊呂波がるた「花がるた」等種々あり。

かるらか

輕

かるらかに同じ。(形)「輕らかなる」(副)

輕らかに。

かるむ

(他動下二段)

かるむに同じ。

かるむ

(自動四段)

かるむに同じ。

かるうす

(名)

確に同じ。

かるくち

輕口(名)

口前の輕き事。●洒落に巧なる事。

かるやき

輕焼(名)

菓子の名。糯米の粉に砂糖を加へ

て輕く焼き膨らましたるもの。

かるこ

輕子(名)

「一」昔し板にて作り物を運搬する道

具。……現今の釣臺の類。(圖)……大嘗會

調度圖の中より抜く。

「二」繩にて造りたる

物を運ぶ道具。簀あじ・沓かき・沓も・沓つ

の類。「三」輕子にて

物を運搬する人。●

人足。

かるめぐる

(名) 菓子の名。かる

めるに同じ。(太閤記)

かるめる

浮石糖(名) 菓子の一

種。砂糖の沸騰して

泡立ちたるものを急

に冷却して固まらせたるもの。

かるめら

(名) 菓子の名。かるめるに同じ。

かるし

(形。形狀言ク活) かるしに同じ。

かるしもむ

加兒叟母(名) 仁學上元素の名。石炭中に存

在する金屬元素にして酸素と化合するの力

強きもの。

かるも

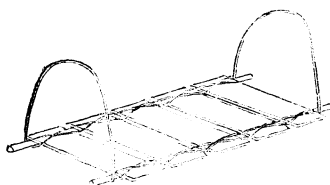
刈藻(名) 海人の刈る藻。○續古今「海士の住

む磯の苔屋の旅寢にはかるも草の枕なり

ける」

かるも

(名) 猪の臥床とする枯草。○夫木「秋の野の



かるもの

かほ

顔(名)

「一」動物の體にて目鼻口などのあるこ

ろ。●おもて。●つら。「二」之になすらへ

て物の面を云ふ。○「月の顔」花の顔」

顔に顯はれたる意中の様子。●顔色。●容

貌。●顔付。

かほばな

顔花。貌花。容花(名)

美しき花の總名。(萬

葉)

かほばせ

顔(名)

かほ。●かほつき。●かんばせ。(和

名抄)

かほどり

顔鳥。貌鳥。容鳥(名)

美しき形を持つ鳥の總

名。○夫木「音羽山木の下陰にかほどりの

見えかくれせし聲のかなしさ」

ふきにほひ。●香。

葉(自動四段)

ふきにほひのする。●香ふ。「二」

霧。煙などの薄く立つ。

貌が花(名)

かほばなに同じ。

顔形(名)

顔の形。●面構。●面形。●容

かほがはな

かほがはな

かほがはな

貌。

かほよはな

(名) 杜若の花。(萬代)

かほよどり

(名) 顔鳥に同じ。(夫木)

かほやう

顔様(名) 顔の様子。●顔付。(狹衣)

かほよぐさ

(名) 杜若の異名。

かほだし

顔出(名) 〔一〕其場に顔を出す事。●出席。

かほづくり

●列席。〔二〕訪問する事。

かほづゑ

顔作(名) 〔一〕顔の構造。●かほがま。

かほづゑ

〔二〕化粧する事。(源氏)

かほづゑ

顔杖(名) 頬杖。●つらづら。○撰集抄「かほづゑつきて」

かほづゑ

顔付(名) 〔一〕顔の様子。●容貌。〔二〕顔に

顯はれたる意中の様子。

かおんた

感恩多(名) かんおんたに同じ。雅樂の曲名。

かわうおん

賀王恩(名) 雅樂の曲名。

かほのきぬ

(名) 顔の皮膚のきぬ。(枕)

かほやく

家屋(名) いへ。●家宅。

かほやく

顔役(名) 一團體中に勢力ある人。●親分。

かほみせ

顔見世(名) 〔一〕昔し芝居にて行ひたる儀式。出勤役者の顔を見せ初むる事。〔二〕地方にて芝居興行の最初の日をいふ。

かほもち

顔持(名) 顔付に同じ。

かわ

歌話(名) 歌に關する談話。●うたがたり。

かは

川。河(名) 海に注ぐべき水の流。

かは

皮(名) 〔一〕動植物の外面を被ふもの。●皮膚。

かは

●表皮。……「木の皮」「栗の皮」「熊の皮」「毛皮」の類。〔二〕すべて物の外面。

かは

側(名) 物の片方。●方。●向。○「左の側」「後の側」

かは

(後) 反語の詞。○古今「聲絶えず鳴けや鶯ひこいせに二たびさだに來べき春かは」

かは

(句) 彼は。●あれば。あはに同じ。六帖「かはさ見る道だにあるを春霞かすめるかたの

かは

はるかなるかな」

かはいろ

革色(名) 染色の名。黒すみたる御納戸色。

かはいそう

いたはし。●ふびん。●氣の毒。(形)「かはいそうな。(副)「かはいそうに。(又)「

かは

かはいそうで。

かは

(形。形狀言シク活) かはゆらしに同じ。

かは

革羽織(名) 革製の羽織。鷹頭などの禮服

かは

として着るもの。

かは

革袴(名) 革製の袴。昔し大飼などの着た

るもの。

かはばた

川端(名) 川の端。●川邊。●川岸。

かはばらへ

川祓(名) 川にて行ふ祓。

かはばし

川橋(名) 川に掛けたる橋。

かはばしら

川柱(名) 川橋の橋柱。○更科「朽ちもせぬ此川柱のこらすは昔の跡ないかで知らま

し」

かはほり

蝙蝠(名) 「一」獸の名。かうもりの古名。「二」扇の異名。(雅)

かはほね

河骨(名) かうほねに同じ。

かはりべ

河邊(名) 川のはざり。●川端。●川岸。

かはりべ

(名) 肌。●皮膚。(和名抄)

かはりと

河門(名) 河の瀬々の本の一つになりて流るゝ狭きところ。●川の中の海峡の如きところ。

○萬葉「春されば我家の里の河門には鮎子

さばしる君まちがてに」

かはりと

革砥(名) 革製の砥。

かはりちどり

川千鳥(名) 川に居る千鳥。

かはりちさ

川苳(名) 草の名。苳に似て流れ川に生ずるもの。

かはり

(名) 「一」(變)變化。●事變。●變遷。「二」(代)

交代。●代りの物。●代りの人。

かはりばん

交替(名) 代り代り番する事。

かはりがはり

(副) 代りあひて。●入り代り立ち代り。

かはりめ

●交替して。(又)「かはりがはりに」。

かはりもの

替目(名) 物事の替る罫目。○「陽氣の替り目」

かはりもの

變物(名) 「一」普通と異なりたる物。●へんぶつ。「二」普通と異なりたる人。●へんじん。

「二」普通と異なりたる人。●へんじん。

かはり

替。變。代(自動四段) 「一」物事その他異なる風になる。●變する。●變化する。「二」甲の物出て、乙の物入る。●交代する。

かはり

物出て、乙の物入る。●交代する。

かはりがはり

(副) かはりがはりに。

かはり

河風(名) 河上より吹きおろす風。○夫木「今朝見れば立田川原の川おろしさをふ紅葉を波ぞ織りける」

かはり

葉を波ぞ織りける」

かはり

河音(名) 河水の流るゝ音。

かはり

川遠(名) 川向。●向河岸。

かはり

川獺(名) 獸の名。鼬に似て大きく水邊に住

かはり

みて常に魚を捕り食ふもの。●川うそ。●なそ。

かはりなき

川長(名) 川の番人。●川守。○「宇治の川長」淀の川長

かはりおび

革帶(名) かはりおびに同じ。

かはりわた

河曲(名) 河の曲りたるところ。○山家集「川わたのよごみにさまる流れ木の浮橋わたす五月雨の頃」

五月雨の頃

かはりかり

川狩(名) 川にてする流獵。

かはりかはうごき

(名) かはたれごき。●黄皆(職人)

盡歌合

かはりからす

河鵜(名) 鳥の名。大鵜の一名。

かはりがめ

河龜(名) 泥龜の一名。(和名抄)

かはりかみ

川上(名) 川の上。●上流。●水源。

かわかす

乾(他動四段) 乾かしむる。●干す。

かはりよご

川淀(名) 川の淀。

かはりたち

川立(名) 泳ぎに巧なる人。

かはりたかごさ

川高草(名) 柳の異名。

かはりたれぼし

(名) かはたれごきに出づる星の名。●夜明の明星。●太白星。●金星。

かはりたれごき

彼誰時(名) 夜の全く明け離れずして人顔の彼は誰ぞとまだよく見分かつ時刻。●未明。○萬葉「あかききのかはたれごきに

島かきを漕ぎにし舟のたづき知らずも」

かはりたまごさ

川玉草(名) 竹の異名。

かはりたけ

河竹(名) 「一」竹の一種。『またけに同じ。』

「二」浮草の異名とも。眞狐の異名とも。川の事なりとも云ふ諺あり。「三」故に常に流るに言ひかけて枕詞の如く用ふ。「四」それより流れの身と云ふ意にて遊女の異名と爲る。

る。

かはりたけ

革葦(名) 藁の一種。猪葦の一名。

かはりたび

革足袋(名) 革にて作れる足袋。●現今は

狂言などにてはく。

かはりぞひ

川添(名) 川に沿ひたる所。●川邊。

かはりぞひなだ

川添小田(名) 川邊の田。

かはりぞひやなごさ

川添草(名) 柳の異名。

かはりぞひやなごさ

川添柳(名) 川岸の柳。

かはりさうり

皮草履(名) 竹の皮製の草履。

かはりつ

蛙(名) 「一」虫の名。かへるに同じ。……和歌

に春の題としてよむは是なり。○月詣集「眞菅おふる荒田に水をまかすればうれしがほにも鳴く蛙かな」(二)河鹿の古名。……萬葉、古今時代には之なよめる歌のみありて

田に住む蛙なよめるものなし。故に秋を其時節とす。○萬葉「思ほえず來ませる君を佐保川のかはづきかせて歸しつるかな」

かはづ

河津(名)

川にて舟の泊つべき所。

かはづるみ

(名)

男色。(宇治)

かはづたひ

川傳(名)

川を傳ひて行く事。●川の沿岸の路。

かはづら

川面(名)

川の水面。

かはねつみ

川鼠(名)

獸の名。鼠の一種にして水邊に住み魚を捕り食ふもの。

かはなぐさ

川菜草(名)

川青海苔の類。

かはなめし

(名)

なめし草を作る事。又は作る人。

かはなみ

河波(名)

河の波。

かはら

瓦(名)

土を焼きて造り。屋根を葺くに用ふるもの。其數種々あり。

かはら

河原(名)

「一」河にて常は水無き處。「二」平安京時代にては特に京都の鴨河原を云ふ。

かはら

(名)

船材の名。舳より艫まで貫きて通りたる梁の如きもの。●龍骨。

かはらおはき

(名)

草の名。菊の一名。

かはらかに

(副)

物の乾きたる有様。●さっぱりした

かはらがま

瓦竈(名)

瓦を焼く竈。

かはらよもぎ

河原蓬(名)

草の名。菊の異名。(和名抄)

かはらた

河原田(名)

河原に作りたる田。

かはらふ

(自動四段)

かはるに同じ。

かはらのまど

瓦窓(名)

破窓の口を以て造りたる窓の意。◎假の庵。●賤が屋。●山居。○千載

序「道なたやさらんがために瓦の薪柴の庵の言の葉をも見るに」

かはらや

瓦屋(名)

瓦にて屋根を葺きたる家。

かはらやね

瓦屋根(名)

瓦葺の屋根。

かはらやき

瓦焼(名)

瓦を製する人。

かはらけ

土器(名)

「一」土焼の陶器。「二」時こは土器の杯。「三」轉じてはたり盃の意。

かはらけ

(名)

かはらけ毛の略。◎馬の毛色の名。●土器色にて樺色の白みたるもの。

かはらけつくり

土器作(名)

土器を作る人。

かはらけな

土器菜(名)

草の名。葉丸くして春の頃青白き花の咲く小草。佛の座さまたびらことも

云ふ。

かはらふち

河原藤(名)

灌木の名。藤に似て河原に生

するもの。

かはらぶき

瓦葺(名)

「二瓦にて屋根を葺く事。●又

その葺きたる屋根。」「寺の異名。伊勢の

齋宮にての忌み詞。(延暦儀式帳)

かはらし

瓦師(名)

瓦やき。

かはらび

樋(名)

瓦にて造りたる樋。○夫木「踏み

こゆる道に伏せたる瓦樋の朽つとも知らじ

かはらひわ

河原鵜(名)

鳥の名。鵜の一種。水邊に住

みて常の鵜より大なるもの。

かはらびど

河原人(名)

河原もの。●乞食。(空王經)

かはらもの

河原者(名)

河原を家として住むもの。●

乞食。

かはらすすり

瓦硯(名)

瓦にて造りたる硯。

かはむかひ

川向(名)

川の向ひの岸。●向川岸。●

對岸。

はかむか

川向(名)

かはむかひに同じ。

かはうを

河魚(名)

河に住む魚。

かはうそ

鰯(名)

かはなそに同じ。

かはのおび

革帶(名)

革製の帶。束帶の時に用ふるも

の。●石の帶。

かはのぞみまつり

河臨祭(名)

小兒の生れたる時吉日

を擲びて陰陽師河邊に出て、祓する事。

かわく

乾(自動四段)

「二水がなくなる。」「二咽喉に

水を欲する感情の起る。●渴する。

かはぐち

河口(名)

「二河の海、湖又は他の河に流れ

入る口。●川尻。」「二僅馬樂の曲名。

かはぐま

川隈(名)

川の曲りたる處。●川の隈。(雅)

かはりや

川屋(名)

川の岸に立てたる家。

かはりや

厠(名)

昔は川の上に立て、汚穢物の直に流る

るやうにしたる故川屋の意なりと云ふ。◎

べんじよ 便所。●雪隠。

かはりやなき

川柳(名)

「二木の名。柳の一種。水邊に

生じ春白き花咲くもの。」「二川邊に生ふる

柳。

かはりやしろ

川社(名)

「二六月祓をするため假に設け

たる小屋掛の社。○夫木「ゆく蟻秋はあす

ぞこつげすともみそぎすいしき川社かな」

「二川邊に棚を作り供物などして水神を祭

るところ。」「三夏神樂の異名。

かは^リやびど

廁人(名) 廁を掃除する人。●下男。

かは^リまた

川俣(名) 川の分れて流るゝ所。

かは^リふね

川船(名) 川に浮ぶる船。

かは^リぶえ

皮笛(名) 唇をつぼめて笛のやうに吹き鳴らす事。●口笛。(雅)

かは^リこ

皮子(名) 皮にて張りたる箱。●皮文庫。

かは^リころも

裘。皮衣(名) 毛皮にて造りたる衣。●皮衣。

かは^リこえひら

川越平(名) 武州川越より産する袴地の織物。

かは^リこざ

川御座(名) 川施餓鬼の一名。

かは^リこざね

革小札(名) 厚革にて造りたる鑑の小札。

かは^リこし

川越(名) 「一」徒歩にて川を越す事。「二」近世旅人を食ひ又は擔ひて川を越さするを業とする人。

かは^リあひ

川合(名) 川々川との流れ合ふ所。

かは^リあをのり

川青海苔(名) 青海苔に似て川の石などに生ずる水草。

かは^リあらし

川嵐(名) 川にて吹く嵐。

かは^リあみ

河浴(名) 河にて水を浴ぶる事。

かは^リさいく

革細工(名) 革にてする細工。

かは^リさきおんど

川崎音頭(名) 俗曲の一種。

かわき

(名) かわく事。●湯。

かは^リきり

皮切(名) 「一」灸點にいふ詞。第一番に點する灸。「二」困難なる物事の最初の着手。

かは^リぎり

川霧(名) 「一」川に立つ霧。「二」古代和琴の名。

かは^リぎぬ

裘。皮衣(名) かは^リころもに同じ。(和名珍)

かは^リぎし

川岸(名) 川の岸。

かは^リゆるがる

(他動四段) かは^リゆると思ふ。

かは^リゆらし

(形。形狀言ク活) 愛らし。●愛す可し。●いさしい。●いちらしい。●かはいそうな。

●いはゆるし。

かは^リじり

川尻(名) 川の末。●川口。●川下。

かは^リせうえう

川遣遙(名) 「一」川邊を散歩する事。「二」川にてする舟遊。

かは^リしま

川島(名) 川の中なる島。

かは^リしも

川下(名) 川の下手。●下流。●川尻。

かは^リび

(名) 川邊に同じ。(萬葉)

かは^リひらこ

(名) 虫の名。蝶の古名。(新撰字鏡)

かは^リひらき

川開(名) 川狩または川納涼の開業式。

かは^リも

川藻(名) 川に生ずる水草。

かはりもり

川守(名) 川を守る人。●川番。

かはりせ

川瀬(名) 川の瀬。

かはりせがき

川施餓鬼(名) 川にて行ふ施餓鬼供養。

かはりせみ

川蟬(名) 鳥の名。嘴赤くして長く。羽毛は瑠璃色を帯びたる緑色にて極めて美しく。常に水邊に飛び遊びて川魚など食ふ小鳥。異名は。……そに。●しろうぶん。●かはりせみ。●翡翠。

かはりせび

(名) 鳥の名。かはりせみに同じ。

かはりす

交(他動四段) 互に交らしむるをいふ。●交換する。●交通する。●交ふる。●入れ違はす。

かはりすずみ

川納涼(名) 川邊に出で、涼む事。

かか

(名) 「(一)母。」「(二)妻。」「(三)阿阿(感) 笑ふ聲。

かかい

河海(名) 河と海さ。

かかい

加階(名) 位階の増進する事。△(動)―加階す。

かがひ

唄歌(名) 掛合の約音。◎歌垣の時掛合に唱歌する事。(萬葉)

かがいも

蘿摩(名) 草の名。蔓生にして綿に似たる實を結ぶもの。異名は。……かみ。●ばん

かがばんし

や。

加賀半紙(名) 紙の名。半紙の一種。加州より産するもの。

かがぼほ

加賀類(名) 武具の名。面頬の一種。加州より製出したるもの。

かかど

踵(名) きびすに同じ。足の裏の後の方。

かがち

(名) 酸醬の古名。(記)

かかり

掛。懸。係(名) 「(一)掛る事。」「(二)入費。」「(三)家宅の構造。」「(四)蹴鞠の場所。」「(五)受持。」「(七)文法上の詞。後詞の一種にて其意味の關係する處の動詞形容詞等の語尾を變化せしめ得る力のあるもの。……ぞや何こそ

かかり

斯(自動ラ變) 此の如くある。●箇様で有る。

かかり

篝(名) ャリびに同じ。

かかりうど

掛人(名) 食客。●厄介。●居候。

かかりや

篝屋(名) 禁中などにて篝を焚く所。

かかりまつ

篝松(名) 篝火の薪にする松の木。

かかりぶね

篝船(名) 篝火を焚く漁船。

かかりこ

掛子(名) 後後の介抱を受けんと思ふ子。●

たよりに思ふ手。

かかりあひ

係合(名) 關係。●連累。

かかりあふ

係合(自動四段) 係はる。●興かる。●

關係する。

かがりび

篝火(名) 明りを取る爲めの焚火。鐵の籠を

鉤りて其中にて燃やす。

かかる

掛。懸(自動四段) つかよる。●よりつく。●より

つかよる。●垂れ下る。●おほふ。●あたる。

●かいりあふ。●關係する。●あづかる。

●着手する。●はじむる。

かかる

繫(自動四段) 船の湊に泊る。●碇泊する。

かかる

憑(自動四段) 神靈妖怪などの乗り移る。

かかる

(他動四段) 絲にて綴り合す。

かかる

(自動四段) ひかれる。●驪の出来る。○萬

葉東歌「婿つけばかゝる我手な」

かはる

係(自動四段) 關係する。●拘泥する。

かがふ

(自動四段) 輝くに同じ。○大木「さもし火

の影にかりよふ埋火の妹の笑み顔おもかげ

に見ゆ」

かかたる

峨峨 山の嶮しき有様。(形)―峨々たる。

(副)―峨々さ。

かかつらひ

(名) かいつらふ事。●關係。

かかつらふ

(自動四段) つかひあふ。●關係する。

かかなふ

倭(他動下二段) 指を屈めて數ふる。……

かなふの詞を誤解して近世小説家などの

用ひ出だしたる詞。○「かなふれば七つの

鐘なり」

かがなく

(自動四段) いか／＼と鳴く。……鳥に云ふ。

○萬葉「筑波嶺にかりなく鶯の」

かがなふ

日(並(他動下二段) 經過せし日數を數ふ

る。○記「かなべて夜には九夜日には十

日を」

かがむ

屈(他動下二段) 屈ましむる。●曲ぐる。●折

る。

かがむ

屈(自動四段) 折れ曲る。●かゝまる。

かがん

鵝眼(名) 鳥目に同じ。錢の異名。

かがふ

(他動四段) かいひをする。

かがのむ

(他動四段) がぶ／＼と音を立て、飲む。(祝

詞式)

かかく

價格(名) 直段。●あたひ。

かかく

歌格(名) 和歌の定則。

かかく

家格(名) 其家の格式。●家柄。

かがく

歌學(名) 和歌の學問。●歌まなび。

かがく

家學(名) 其家世襲の學術。

かがく

掲。挑(他動下二段) 「一」かきあぐる。●高くあぐる。●かき出だす。「二」高くして示す。

かがく

雅樂(名) 中古朝廷貴族の式樂および遊樂と爲りたる音樂の總名。神樂、催馬樂、風俗、朗詠、唐樂、高麗樂の六種あり。樂器は横笛、篳篥、笙、箏、琴、和琴、琵琶、太鼓、鉦鼓、鞀鼓、一鼓、二鼓、三鼓、笏拍子の類。

かがくれ
う

雅樂寮(名) 役所の名。昔し治部省に屬して朝廷式樂の事を掌る所。官吏は頭、助、允、屬あり。●うたまひのつ。●うたのつ。さ。

かかぐる

(自動四段) 「一」探り行く。●たざり行く。

○今物語「唯一人出で、行きけるにやうやう其國までうぐりつきにけり」「二」かきつく。●さがる。○宇治「柱よりうぐりおるいものあり」

かがやかし

(形。形狀言シク活) まげゆし。●聴かし。

かがやかす

輝(他動四段) 輝かしむる。

かがやく

(他動四段) 辱かしむる。●赤面さする。○枕「夜も晝も來る人をば何かは無しなごも」

かがやく

輝(自動四段) 遠く大きく光る。●きら／＼する。●照り光る。

かがまる

屈(自動四段) 屈むに同じ。

かかけのはこ

(名) 髪道具を入る箱。

かがぶる

(名) 破れたる衣。●つれのきぬ。○萬葉「綿もなき布肩衣の。海松のごさわいけさかれ」

かがぶる

冠(名) かんむり。(古)

かかへ

抱(名) 抱ふる事。●抱へたる人。

かかへおび

抱帶(名) 腰帶の一名。●しこき。

かかさま

(名) 母襟に同じ。(俗)

かがきぬ

加賀絹(名) 絹布の一種。羽二重に似たるもの。加州の名産。

かかゆ

抱(他動下二段) 「一」脇と胸とにて支ふる。いづく。「二」給料を與へて使ふ。●召し

かえる。

かがゆ

(自動下二段)

かなる。●にほふ。○枕「たきもの」香のいみじくかいえたる」

かがめ

加賀女(名)

近古の遊女の一名。◎加賀の國より多く出でたる故にいふ。

かがめく

(自動四段)

猿などの鳴くをいふ。○今昔「猿何やらんかいめきいへば」

かがみ

鏡(名)

「一」己の姿を照して見る爲の道具。昔は金屬製のものな主として其形多くは丸く今は硝子製のもの普通にて其形は大方角なり。「二」人の手本となるべき物事。●模範。「三」すべて鏡に似て丸きもの。又鏡に似て光を有し物の影など映すに足るもの。

(名)

草の名。蘿摩に同じ。

かがみ

鏡魚(名)

魚の名。鏡鯛に同じ。

かがみ

鏡板(名)

能舞臺の正面にありて松を畫がきたる板。

かがみ

鏡磨(名)

鏡を磨ぐ事。又之を業とする人。

かがみ

鏡貝(名)

貝の名。白貝の一名。

かがみ

鏡懸(名)

古へ鏡を懸け置きたる臺。

かがみ

鏡鯛(名)

魚の名。平たくして色青白く。

かがみ

鏡立(名)

鏡を立て置く道具。●鏡臺。

かがみ

鏡間(名)

能樂にて役者の舞臺に出づる前に面を掛け衣紋を繕ひなどする室の名。◎姿見の鏡を設置しある故の名。

かがみ

鏡響(名)

響の一種。十文字の處を十字に彫り透がさず打ち延べて鏡の如くに作れる物。

かがみ

鏡鞍(名)

鞍の一種。全體を銀または眞鍮にて包み覆輪せるもの。

かがみ

鏡草(名)

「一」草の名。蘿摩に同じ。「二」正月元日餅の上に祝ひて置く大根。○散木「我をのみ世にもちひの鏡草」

かがみ

鏡開(名)

正月の餅を撒して食する祝事。昔は武士の饗に供へたる鏡餅を撒する式にて日は正月二十日。今は神々に供へたるを撒するの意味にて日は一月十一日。

かがみ

鏡餅(名)

大小二段に重れて神に供ふる丸き餅の名。◎其形鏡に似たる故の名。●おそなへ。●おきがみ。

かがし

案山子(名)

田畑の鳥を威し去らしむるために

かがもん

加賀紋(名)

衣類の紋の一種。上繪に彩色したるもの。

かかす

懸(他動四段)

懸くに同じ。(古)

かよひ

通(名)

「一」通ふ事。●交通。●往來。「二」通帳の略。「三」餐膳の給仕。

かよひち

通路(名)

往來する路筋。

かよひち

う

通帳(名)

金錢又は物品の受渡を其都度記入して一方に渡し置く帳面。●通。

かよひぶね

通船(名)

客を載せて河又は海を往來する舟。

かよひしう

通衆(名)

手代。

かよち

駕輿丁(名)

御輿を昇く仕丁。

かよひかくより

(句)

彼によりつき此によりつき。○萬葉「波のむたちよりかくより玉藻なすよりれし妹を」

かよる

(自動四段)

ふるに同じ。●近よる。●よりくる。○源氏「竹川うたひてかよれる姿」

かよわし

(形。形狀言ク活)

よわしに同じ。●虚弱な

かよはす

通(他動四段)

通はしむる。●通する。●流

かよふ

通(自動四段)

「一」往來する。●つうする。「二」

似る。○六帖「紅と雪とは遠き色なれど梅が花には猶かよひけり」「三」文法上の詞。五十音の行または列に相通する。○あまはあめに通ふ」

かやうに

(副)

此くの如く。●此通りに。△(形)「かやうの。(又)「かやうなる。

かた

肩(名)

腕の上部にて。體に連接する所。

かた

潟(名)

「一」海の遠淺の處。○「干潟」「二」海。○「播磨潟」「薩摩潟」

かた

方(名)

「一」方向。●方角。●場所。「二」頃。●時刻。●場合。○「春の末つ方」「暮方」「明方」

かた

方(名)

「二」方法。●手段。「四」相對するもの。一方。○「平家の方」「我方」「五」其事を業とする人。○「薩子方」「勘定方」

人の敬語。●お人。●お方。○「北の方」「聽衆の方々」

かた

形(名)

「二」かたち。「三」模様。○「小紋の形を置く」。「三」いかた。「四」模範。●手本。「五」式。●常例。「六」武術舞曲などの仕組。

かた

片(形)

二つあるもの、其一つなる。●不完全なる。●かたよりたる。○「片袖」「片田舎」

かた

伽陀(名)

佛事に用ふる唱歌。●諷頌。

かたぬ

乞食(名)

「二」往來の傍に居て人に物を乞ふ人。●乞食。「二」癩病やみ。●かつたぬ。

かたいろ

片色(名)

絹布の一種。熨斗目の類にて艶よく狩衣などに作るもの。

かたいど

片糸(名)

こなたななによりかけて」

かたうどり

片糸鳥(名)

雁の異名。

かたいどの

片糸の(枕)

片糸を繞るの意に言ひ掛けてより」の枕詞とす。○古今序「片糸のより」に絶えずでありける」

かたいち

固意地(名)

強情。

かたいばう

片一方(名)

片方。

かたななか

片田舎(名)

都に遠き地方。●僻地。●邊土。●邊鄙。●寒村。

かたぬざり

片居去(名)

幼児の片足にてぬざる事。

かたいき

片息(名)

外にのみ吐く息。●非常に疲勞したる時の呼吸。

かたいしほ

(名)

堅鹽に同じ。(大和)

かたは

片又(名)

一方にのみ附きたる刃。……太刀。薙刀。庖丁の類。

かたは

片羽(名)

片方の翼。

かたはかま

片袴(名)

短き袴。山伏の峰入する時など着るもの。

かたはだぬぐ

片肌脱(自動四段)

片方の肌を脱ぐ。

かたはつし

(名)

徳川時代奥女中の結ひたる髪の名。堅に輪ありて笄を横にさすもの。

かたはら

(名)

脇腹。●横腹。

かたはらほね

片腹骨(名)

肋骨。●わきぼね。

かたばこ

片箱(名)

徳川時代大名の行列に其家格によりて挾箱を一つ持たずるをいふ。

かたはこ

肩箱。形箱(名)

山伏の峰入する時物を入れて笈の肩に結び附くる箱。

かたはみ

酸漿(名)

「二」草の名。花は黄色にして實は莢に入りて生じ葉は三片に分れたるもの。



〔二〕紋の名。(圖)

かたばみむすび

酸漿結(名) 紐の結方の

名。(圖)

かたはし

片端(名) 〔一〕物の一方の端。

〔二〕切端。^{きりはし}〔三〕一部分。●一

班。



かたに

片荷(名) 兩方に附くべき荷の半分。

かたほ

(名) 不完全。●不充分。●不具。(形)―かた

ほなる。(副)―かたほに。(雅)

かたほ

片帆(名) 船の一方に片寄せて掲げたる帆。○

夫木「室の浦のせみの早舟波立て、片帆に
いくる風の涼しさ」

かたほどり

片邊(名) 片寄りたる場所。●邊土。●邊

鄙。

かたへら

一片(名) 片方。●片一方。

かたど

片戸(名) 扉一枚の開き戸。

かたどる

象(自動四段) 其物の形に眞似て造る。●其

物を手本に取りてする。

かたどき

片時(名) 少しの間。●暫時。●少時。

かたち

形。容。貌(名) 〔一〕目に見得べき物の有様。●

姿。●顔。●容貌。●形式。〔二〕美しき容

かたちづくる

貌。○榮花「堀川の右の大殿こそはかたち

かたちびど

の名取り給へりしかば」

(他動四段) 形をなす。●組成する。

かたり

騙(名) 〔一〕騙る事。〔二〕騙りを行ふ人。

かたり

語(名) 〔一〕語る事。〔二〕語り物を語る事。又

その語り方。又その語り手。〔三〕謡曲の中
にて節なく唯物語の意を朗誦する文句。

かたりべ

語部(名) 太古以來の歴史傳説を語り傳へて

大嘗會の時天皇の御前にて之を語り奏する
役の家柄。

かたりつぐ

語繼(他動四段) 人より人に語り傳へて後

世に残る。○萬葉「語り繼ぎ言ひ繼ぎゆか
ん富士の高嶺は」

かたりぐさ

語草(名) 話の種。●談柄。

かたりごと

語事(名) 語る事。●話す事。

かたりもの

語物(名) 曲節を附けて朗讀する一種の文

章。平家物語、淨瑠璃の類。
(他動下二段) 結ぶ。●束める。●統ぶる。○

かたぬ

かたぬぐ

萬葉「年の内の事」たれもち玉銚の道に出で立ち「近江次弟」當「卯月」有「卯杖」奏「返給」之時故攝政於「宮中」被「結」す。●肌脱ぐ。

肩脱（自動四段）

上衣を脱ぎて肩を現はす。

かたる

語（他動四段）

「（一）吾思ひを言葉に述べて人に告ぐる。●談ずる。●話す。」「（二）語り物を奏する。

かたる

騙（他動四段）

欺きて物を奪ふ。●詐偽する。●生（名） まだ不完全なる發育。●幼弱。○源氏「榮の君いとも美しきかたおひにて」

かたおひ

片生（名）

また不完全なる發育。●幼弱。○源氏「榮の君いとも美しきかたおひにて」

かたおろし

片下（名）

古代歌曲の一種。

かたおち

片落（名）

「（一）一方の落つる事。●不揃なる事。」「（二）依怙最良。●偏頗。

かたなりど

片折戸（名）

譯一枚の折戸。……二枚のを諸折戸といふに對して。

かたおや

片親（名）

父もしくは母。

かたおもひ

片思（名）

人は思はぬに我のみ深く人を思ふ事。●片戀。

かたわ

片輪（名）

車の片方の輪。

かたは

（名）

身體、心、所爲等に不完全なる所のある

かたわれ

片割（名）

物の割れたる方々。●片端。●破片。

かたわれつき

片割月（名）

圓き物の半は割れたる如く見ゆる月。●弓張月。●半月。

かたわれぶね

片割舟（名）

破れて用に立たぬ舟。○散木「かたわれ舟のうづもれて」

かたはら

傍（名）

そば。●わき。●かたへ。●近傍。●近所。

かたはらいなし

（形。形狀言ク活）

傍觀して居ても氣の毒に思はるゝ。●笑止千萬な。●きまりがわるい。○源氏「己がじい心をやりて人をばおとしめな。かたはらいなき事おほかり」

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたはらなし

（形。形狀言ク活）

なつぷものなし。●比類なし。（源氏）

かたは^ラらゐ

傍目(名) 横向に見ゆる目付。●そづめ。

かたわぐるま

○源氏「火影の御ったばらめ」
片輪車(名) 模様の名。車の輪を半より断ち切りて畫きたるもの。(圖)



かたは^ラもの
かたかひ^イ

(名) 不具なる人。●廢人。
片貝(名) 「二」片方に殻なき貝。鮑などの類。

かたかひ^イ

片鯛(名) ったなつげに同じ。(拾遺)

かたかど

片才(名) 或る一方の藝能。○源氏「其った

いとも無き人はあらんや」

かたがは^リ

片側(名) 物の一方の部分。

かたかた

片方(名) 二つ揃ひたるもの一方。●片方^{かたはち}

●片一方。

かたがた

方方(名) 尊稱の方の複數。●お人々。

かたがた

方方(代) 諸君。

かたがた

方方(副) 種々。●彼此。●様々。●あれや

これやぞ。○新六帖「海山や何くに間はん世を渡る道はかたぐ有りさいふなり」

かたがた

旁(副) ながら。●がてら。○花見かたぐ

御出泰待候」

かたかな

片假名(名) 假名の一稱。漢字の偏傍^{へんぷう}など

を取りて元は漢文經文の訓など附くるために作りたる文字。……例へば伊の偏を取りてイミし。呂の上を取りてロミし。八を短くしてハミし。仁の傍を取りてニミし。保の一部分を取りてホミせるの類。

かたかんな

(名) 片假名に同じ。

かたかまやり

片鎌鎧(名) 穂先の片方に枝ある鎧。

かたかけ

片懸(名) 船の片帆を懸くる事。○躬恒集「か

たかけの舟にや乗れる白波の立つはわびしく思はゆるかな」

かたかけ

肩掛(名) 冬の頃婦人の肩に掛くるもの。毛

かたかけ

片陰(名) 目のあたられぬ片方の陰。●物陰。

かたかこ

堅香子(名) 草の名。片栗に同じ。

かたがへ^{エリ}

(名) 鷹の生れて二歳なるもの。(和名抄)

かたがき

肩書(名) 姓名の肩に書き添ふるこゝ。族籍、

住所、身分の類。

かたかゆ

堅粥(名) 汁を少なくしたる粥。(和名抄)

かたかし

(名) 草の名。つちは草の一名。(新六帖)

かたかし^{のひひ}

堅炊飯(名) 半熟の飯。(和名抄)

かたより

片寄(名)

かたよる事。●偏する事。

かたよる

片寄(自動四段)

片方に寄る。●一方に傾く。●偏する。

かたよす

片寄(他動下二段)

片寄らしむる。

かたが

方違(自動四段)

かたがへをする。○

かたがへ

方違(名)

陰陽家の説くところによりて中古さかんに行はれたる風俗。潮月抄に「天神は地星の靈なり。中央に立つが故に中神と號す。四方に五日づゝ四隅に六日づゝ巡行す。かやうに日を重ねて長々ある故長神ともいふなり。此神のある方をふさがりといふなり」と見ゆて此ふさがりの方に向きては他の家より我家に歸る事をも思む事なれば。之を避けてわざ／＼他の家に至り其夜泊る事を方違へと云ふ。○古今「かたがへに人の家にまかれりける時に」

かたたより

片便(名)

片方よりのみの便り。

かたそ

(名)

山の片方の岨。○夫木「足引の山のかたそ、その岩清水」

かたそ

片側(名)

片端。●一部分。○源氏「神代よ

かたそぎ

(名)

神社の棟に打ち違へて先を片そぎてある木。●千木。○夫木「片そぎの行き合はね間より漏る月のさねて御殿の霜におくらん」

かたそぎづくり

(名)

千木を屋根に作り附けたる社。○謡曲「朱の玉垣ほの見ゆて。かたそぎづくりの社あり」

かたがひ

片貝(名)

「(一)かたしがひに同じ。」「(二)貝の名。きせわたに同じ。」「(三)又貝の名。意貝に同じ。」

かたつかた

片方(名)

片方。●かたばら。

かたつら

片面(名)

物の片方の面。●いためん。

かたつむ

(自動四段)

一方に片寄る。

かたづく

片付(他動下二段)

「(一)整理する。●結局を付くる。」「(二)年頃の娘を嫁せしむる。」

かたつく

片付(自動四段)

「(一)整頓する。●落着する。」「(二)嫁入する。」

かたつま

(名)

片隅。●片端。(雅)

かたつまど

片妻戸(名)

半開きの妻戸。……

両扉

かたつぶり

蝸牛(名)

虫の名。形蝸牛に似て殻を負ひ。

角の尖に眼あり匍匐するもの。●異名は。

……たご。●まいまいつぶり。●でいむ

し。●でん／＼むし。●くわさう。

かたつき

片附(名)

片附く事。●落着。

かたね

片寐(名)

一方に片寄りてのみ眠る事。

周根(名)

腫物の名。根太。●横根。

かたねぶり

片眠(名)

片寐に同じ。○夫木「此夜半は

まだ更けなくに老らくのちたねぶりする燈

のもと」

かたな

刀(名)

「一」片刃なる刃物の総名。「二」太刀に

對して小刀をいふ。

かたな

片名(名)

其人の名の文字の半分。信長の信の

字。家康の家の字の類。○盛衰「重衝卿の

をさなくよりふびんのものに思はれて自ら

烏帽子を着せ給ふ。片名をたびて重國と呼

ばれけり」

刀磨(名)

刀を研ぐ工人。

かたなり

(名)

「一」たおひに同じ。○空穗「ま

かたなかち

万鍛冶(名)

刀を鍛ふる人。●鍛工。●刀

工。

かたなかけ

刀懸(名)

武家にて刀を懸け置く臺。

かたなだま

刀玉(名)

刀を手玉に取る事。田樂などに

てする藝。

かたなつけ

(名) 未だよく飼ひ馴らさざる事。○平治

「かたなつけの駒にて材木にや驚きけん」

かたなきず

刀疵(名)

刀にて切られたる疵。また其疵、

痕。

かたなし

堅梨(名)

草木の名。林檎の一名。

かたなびき

刀引(名)

武家にて酒宴の時刀を引出物と

して客に贈る事。

かたなびき

片靡(名)

片方にのみ靡く事。○賴政集「吹

さおろす嵐や間なき小鹽山裾野の草のわた

なびきする」

かたらひ

語(名)

「一」誰らふ事。●相談。●談合。「二」

約束。●契約。

かたらひどる

(他動四段)

説き伏せて味方にする。

かたらひいぐさ
かたらひいびと

語草(名) 語り合ふ種。●話柄。
語人(名) 〔一〕話し相手。●相談相手。

かたらかに

〔二〕戀人。(源氏)
〔副〕 堅く。●かつたりと。○江次第「御飯」たらかに給へ」

かたらふ

語(他動四段) 〔一〕語り合ふ。●互に話す。

かたん

●相談する。〔二〕誇らひて味方に引入る。●荷擔(名) 仲間に加はる事。●其事に賛成して盡力する事。△(動)―加擔す。

かたむ

堅。固(他動下二段) 〔一〕物事を堅くする。〔二〕警固する。

かたむ

倭(自動四段) 心の不正である。●れちけて居る。●奸倭である。

かたぶく
かたぶく

傾(他動下二段) かつたぶかしむる。
傾(自動四段) 〔一〕物の一方に傾化する。●わるくなる。●衰ふる。〔二〕頭を傾くる。

……これに三つあり。不審する時と。●思案する時と。●感服する時と。○竹取「竹取の翁このたくみらが申す事は何事ぞとかつたぶき居り」(不審する意) 萬葉「物をこそ岩根の松も思ふらめ千代ふるす底もかつたぶ

かたむすび

片結(名) 紐の結び方の名。

かたう

こまむすび。(圖)
カトウと發音する詞はツミウの處を見よ。



かたうた

片歌(名) 上古雅樂寮の歌曲の名。(記)

かたのり

片乘(名) 一方に片寄りて乗る事。○賴政集「櫻さく磯山近く漕ぐ舟のわたのりせぬはあらじとぞ思ふ」

かたのせ

うし。うし。う。交野少將(名) 古代物語の名。但し世に傳はらず。(源氏)

かたのすけ

方次將(名) 相撲の節會の役の名。左近衛右近衛の將官中より臨時に任ぜらるゝ左方

かたぐ

および右方の次將。
(自動四段。又他動下二段) 肩に上げて持つ。●かつぐ。

かたろし

(形。形状シク活) 頑固なる。●嚴格すぎる。●正直すぎる。

かたぐち

片口(名) 一方に口の附きたる器。○著聞「片口の銚子に酒を入れて」

かたぐり

山慈姑(名) 「一」ツタのゆりの略。○草の名。

春の末紫色にして三瓣の花咲く。根は葛に似て片栗粉に製せらる。○「二」片栗粉の略。

かたぐりこ

片栗粉(名) 山慈姑の根より製したる葛粉の如き粉。

かたぐりめん

片栗麵(名) 片栗粉にて造りたる索麵。

かたぐるま

肩車(名) 人を首に跨がらす事。小兒を貢ふ代りによくするもの。

かたぐるし

(形。形状言シク活) 「一」相手は左程なくして我獨り苦しの意。……片思、片戀などの類にておもに戀の事に云ふ。○蜻蛉「柳葉の常磐堅磐に木綿しでや」たぐるしなる目な見せを神」(二)「たぐるしに同じ。

かたくな

頑(名) 愚痴。●頑固。●偏屈。●固陋。△(形)「かたくななる。(副)「かたくなに。

かたくなはし

(形。形状言シク活) かんたくなしに同じ。

かたくなし

(形。形状言シク活) 愚痴なる。●頑固なる。

かたぐま

る。●偏屈なる。●固陋なる。

かたぐび

(名) 肩車に同じ。

かたや

片矢(名) 一筋の矢。……矢は二筋づゝ射るを法式とする故に此詞あり。

かたや

方屋(名) 相撲の土俵の上に覆ひたる屋根。

かたやま

片山(名) 片側の山になりたる處。

かたま

片山里(名) 邊鄙なる山里。

かたまひ

堅間(名) 簾。●「たみ。(組) 片舞(名) 左方(唐樂)もしくは右方(高麗樂)のみにてする舞樂。(百練抄)

かたま

塊(名) 凝りて堅くなりたるもの。●熱心。(自動四段) 固くなる。●凝りて固くなる。●確實になる。●集まる。

かたまつ

片待(他動四段) かつばら待つ。○萬葉「冬こもり春べを戀ひて植ゑし木の實になる時を片待つ我は」

かたまし

倭(形。形状言シク活) 心の正しからぬ。●れちけて居る。●好倭なる。○平家「つたましきもの朝にありて罪を犯す」

かたげ

片食(名) 齋をいふ。齋宮の忌詞。(延暦儀式帳)

かたぶち

片淵(名) 片方の深き淵。(紀)

かたふたがる

方塞(自動四段) 忌むべき方角にあたるを云ふ。……うたふたへを見よ。

かたこ

(名) 聖香子の略。片栗に同じ。

かたこひ

片戀(名) 片思の戀。

かたこと

片言(名) 「二」不完全なる言語。「二」一方の人の言ふ言葉。

かたこる

片凝(自動四段) 一方にのみ偏する。

かたこゆり

堅子百合(名) 草の名。山慈姑に同じ。

かたえ

片枝(名) 片方の枝をいふ。○源氏「青き枝のうたえはいさ濃く紅葉したるを」

かたへ

(名) 「二」傍。「二」片方。

かたむむ

片笑(名) 片顔にて笑むの意。○微笑する。

かたて

片手(名) ①はゝむ。○源氏「君すゝしかたるみて」

かたておち

片手落(名) 依怙最負。

かたてなけ

片手桶(名) 片方に手を附けたる小さき桶。

かたてわさ

水など吸み出すに用ふ。

かたてうち

片手業(名) 本業の傍にする仕事。●片手間。

かたてうち

片手打(名) 刀を片手に持たて切り付くる

かたでま

事。

かたあらし

片手間(名) 本業の傍にする仕事。●片手業。片荒(名) 田地の作り方の名。一年は作りて一年は荒し置く事。○拾玉集「早苗さるやすのわたりのうたあらし去年の刈田ばさびしかりけり」

かたさる

片去(自動四段) 傍に去る。●片寄る。●よける。○源氏「何方も皆こなたの御けはひにばかたさり憚るさまにて」

かたさがり

片下(名) 片方のみ下る事。

かたさく

片咲(自動四段) 一方の枝のみ花咲く。○夫木「野邊見れば草の初花かたさきて千々に秋の色ぞまだしき」

かたさま

方様(名) 方に同じ。其物のある方角。又其物の筋道。○枕「北の煙の方様に歩みゆくに」

かたさけ

源氏「かゝる方様を思し好みて」

かたき

堅酒(名) 濃き酒。(和名抄)

かたき

敵(名) 「二」相手。○「遊びかたき」「二」いき。

かたき

あた。

かたき

形木(名) 「二」様様を彫りたる板木。襖紙などに刷るためのもの。○散木「からいみの」

かたき

たき^{はんす}「(二)板木。○「たき」に上して」

かたぎ

堅木(名)

材の堅き木。樗、槐、くぬぎの類。

かたぎ

堅氣(名)

意志の堅固なる事。●着實なる事。

かたぎ

氣質(名)

其身分相應の氣風。○「女房氣質」武

かたぎぬ

士氣質

「書生氣質」「商人氣質」

かたぎぬ

肩衣(名)

「(一)昔し下賤の人などの着たる袖

かたきうち

無しの衣服。(二)徳川時代にて略式の禮服。

かたきうち

敵討(名)

難敵を殺して怨を報ゆる事。●

かたきうち

あたらうち。●復讐。

かため

片目(名)

「(一)片方の眼。(二)片目見えぬ不具。

かため

●獨眼。●一眼。●めついち。

かため

堅。固(名)

「(一)堅むる事。(二)縮り。(三)警固。

かため

●守備。●警備。

かため

片面(名)

片方の面。●一面。●かたつら。

かため

固文(名)

證文。

かため

片盲(名)

一眼見えぬ人。●めついち。

かため

形見(名)

後の思ひ出さして残り置く品。●組

かたみ

念品。●遺物。●思の種。

かたみ

片身(名)

身體の右又は左半分。

かたみ

筐(名)

かづき 堅間に同じ。篋。

かたみ

倭(名)

いたむ事。●奸倭。

かたみ

(副)

互に。●かはりぐに。

かたみ

片道(名)

往きか還りかの一方の路。

かたみ

(副)

かはりぐに。●かはりばんこに。

かたみ

片亂(名)

片方の亂る事。●片端の亂る

かたみ

事。○新六帖「振りかくる額の髪のかた

かたみ

みだれ」

かたみ

形見の色(名)

裏服。○袷衣「皇太后宮

かたみ

の御ったみの色にやつれさせ給へる頃に

かたみ

て」

かたみ

形見の衣(名)

「(一)其人の死後に遺し

かたみ

置きたる衣(萬葉)「(二)裏服(萬代)

かたみ

形見草(名)

「(一)草の名。菊の異名。「(二)

かたみ

草の名。葵の異名。

かたみ

片耳(名)

聞きかぢり。●なま聞き。●半聞

かたみ

き。(源氏)

かたみ

互先(名)

圍碁にいふ詞。互先^{たがひせん}に同じ。

かたみ

○續世繼「この歌は圍碁ならはったみせん

にてかよくべらん」

かたし

鍛(名) 鍛す事。●鍛冶。●鍛冶師。

かたし

(名) 二つある物事の一つ。●片方。○空穗「うへの袴をかへさまに着かたしに足二つをさしいれて」

かたし

堅。固(形。形状言ク活) 容易に碎けぬ。●齒にて嚙まれぬ。●つよし。●堅固なる。●しつかりしたる。●きびし。●嚴重なる。

かたし

難(形。形状言ク活) むづかし。●容易ならぬ。●困難なる。

かたしろ

形代(名) 「一」人形。「二」祓をする人の身を撫で、捨つるために作れる紙の人形。又は紙に人形を畫かきたるもの。之に我身の罪穢を代表させて逐ひ遣るの具なり。●人形(なまもの)。

かたしろぐさ

●撫物。○源氏「見し人の形代ならば身にそへて戀しき瀬々のなでものにせん」
形代草。三白草(名) 水草の名。半夏生に同じ。(和名抄)

かたしほ

堅鹽(名) 海の潮に對して製したる鹽を云ふ。●食鹽。

かたしほ

堅石(名) たいはと云ふに同じ。●岩。●石。(記)

かたしがひ

(名) 二つある貝殻の片方。●片貝。○夫木「伊勢島や二見の浦のかたし貝あはで月日待つぞつれなき」

かたしく

片敷(他動四段) 「一」衣の片方を下に敷きて獨寐するを云ふ。……男女同衾する時は衣も解き捨て、寐るさいふに對して。衣を着たるまゝ寐るをかくば云へるなり。○鎌倉右大臣集「旅衣袂かたしき今宵もや草の枕に我ひより寐ん」「二」片方を他の物の上に敷き覆ふの意。○夫木「降る雪に軒端たたしく深山木の落つる梢に風吹くなり」同「降る雪に離かたしく吳竹の庭のふしごは下氷りつ」

かたじけなむ

かたじけなくも

かたじけなし

かたしき

(自動四段) かたじけなく思ふ。
●(訓) 辱(く)も 勿體なくも。●恐多くも。○謡曲「辱くも此君は應神天皇五代の御孫」
●(形。形状言ク活) 辱。忝(形。形状言ク活) 勿體なし。●恐多し。●有難し。
片敷(名) 片敷く事。●獨寐。○新續古今「訪へかしの涙の床に伏しわぶる我ったしきの袖の浦波」

かたしきり

片尻切(名) 片足に尻切を履く事。……う

るたへたる様。○空穂「みこの君片しきり

して車に走り乗り給へり」

堅桃(名) 桃の一種。椿桃。

かたしもも

帷子(名) 「一」片面のみ表として用ひらるゝ

絹。「二」帷、几帳などに垂るゝ絹。夏は生絹。

冬は練絹。「三」昔は何にても單物の衣服の

總名。「四」今は夏着る麻織の單衣。

かたひく

片引(他動四段) 片方にのみ蟲負をするをい

ふ。○新撰「春にのみ心かたひく梓弓おし

てや夏の今日は來ぬらん」

かたひざ

片膝(名) 片方の膝。

かたびさし

片底(名) 家の片方の底。(雅)

かたもみ

(名) 片思の略。(萬葉)

かたもん

固文(名) 装束の模様の名。浮織ならぬ常の

模様。

かたもゆ

片燃(自動下二段) 片方のみ燃ゆる。○能宣

集「夜もすがら片燃むたる蚊遣火に戀す

る人をよそへてぞ見る」

かたす

鍛(他動四段) きたふに同じ。

かたすみ

片隅(名) 片方の隅。●一隅。

かたすみ

堅炭(名) 堅木にて作れる炭。

かれ

枯。涸(名) かるゝ事。

かれ

彼(代) 手に届かぬ程の遠き處のもの若しくは目

前に無きものを指す詞。……人にては他の

事物にても。●あれ。●かのもの。

かれ

故(副) それゆゑに。●そこで。●そうして。○

記「紀の國の男の水門に到りまして詔はく。

賤しき奴が手を買ひてやすぎなむと男たけ

びして崩がりましたぬ。かれ其水門を男水門

さぐいふ。御墓はやがて紀の國の竈山にあ

り。かれ神倭伊波禮毘古命をこより廻りい

でまして」

かれい

家令(名) 華族などの家事を執る役人の重立ち

たるもの。

かれい

家例(名) 其家の先例。●家風。

かれい

嘉例(名) めでたき先例。●吉例。

かれい

鰯。比目魚(名) 魚の名。其體平たくして背は

黒く腹は白く。背部に二眼あるもの。●

比目魚。

かれい

餉(名) 干したる飯。●かれいひに同じ。

かれい

乾飯。餉(名) 干したる飯。●ほしひ。昔

かれひつけ

餉附(名)

は旅行する人などの辨當として携へ持ちたるもの。○伊勢「その澤のほとりにおりゐてかれいひくひけり。云々。皆人かれいひの上に涙おとしてほさびにけり」

かれひけ

餉筒(名)

馬具の名所。鞍の後の部分。○昔し旅行に辨當を附けたる所なる故にいふ。餉筒に入るゝ器。●割子。●辨當。

かれは

枯葉(名)

枯れたる草木の葉。

かれはな

枯花(名)

枯れたる花。●ひからびたる花。

かれはむ

(自動四段)

●かれたやうになる。●かれがゐる。

かれは

(名)

枯朽穂の略。○稻穂の枯れ朽ちたるもの。○神樂歌「稻の穂の諸穂にしてよかれちほもなく」

かれはたれどき

彼は誰時(名)

かはたれどきに同じ。

かれがた

(名)

●未明。○源氏「かれはたれどきなるに」
中(名)「一將に枯れんとする時。」「二戀人の將に絶えんとする時。○後撰「かれが

かれがれ

(名)

たになりける男のもさに」

草木にても聲にても水にても將にかれはてんとするところ。△(形)「かれがれなる。」「かれがれに。○狹衣「賀茂の行幸は九月晦日なれば野邊の草ごもい皆かれがれになり」

かれがし

(代)

何がし誰かに同じ。

かれんなる

可憐なる(形)

憐むべき。●かはゆらしき。

かれの

枯野(名)

冬になり草木の枯れたる野原。

かれくさ

枯草(名)

冬になりて莖葉の枯れたる草。●死したる草。

かれふり

枯生(名)

草の枯れたる處。○夫木「風さゆる富士の裾野の朝ぼらけ枯生の尾花雪ささぞ見る」

かれこれ

彼は(代)

あれやこれや。●あの人や此人や。

かれこれ

彼是(副)

さかく。●さやかく。●何っこ。

かれえだ

枯枝(名)

枯れたる枝。

かれき

枯木(名)

冬になり葉の落ちたる木。●死したる木。

かれしば

枯柴(名)

枯れたる柴。○夫木「うたの野や

かれしばぐくれ伏す鳥の飛び立つばかり降

る霞哉」

かぞ

(名)

本の名。楮の略。

かぞ

(名)

父。……小説家など家尊の字を當てて書く。

○「かうの大人」かぞいろは」

かぞいろ

(名)

父母。○日本紀竟宴歌「かぞいろはあ

はれと見すや蛭の子は三年になりぬ足立た

かぞいろは

(名)

父母。○千載「四方山に木の芽春雨

ふりぬればかぞいろはとや花のたのまん」

かそりく

加特力(名)

基督教の宗派の名。又分れて希

臘加特力、羅馬加特力の二派となる。回々

教より舊るければ舊教とも稱す。

かそ

加僧(名)

法會などに儀式を補助する僧。

かそふ

掠(他動下二段)

掠むる。(續紀宣命)

かさう

家相(名)

占ひて知るべき家の吉凶。……人相

の類。

かぞう

加増(名)

武家にて祿高の増し加はる事。

かぞふ

數(他動下二段)

數を調ぶる。●勘定する。●

計算する。

かぞく

家族(名)

家内の一族。

かぞく

雅俗(名)

古雅なると通俗なると。●みやびた

かそけし

(形。形狀ク活)

すすけしに同じ。かすかな

る。○萬葉「我宿のいさゝむら竹吹く風の

音のかそけき此夕べかな」

かぞへうた

數歌(名)

「二古今集の序に漢詩六義の内

の賦の字を譯していへる詞。曰く「其六種の

一つには云々。二つにはかそへうた。咲く

花に思ひつく身のあちなき身にいたつき

の入るも知らずて。さいへるなるべし」古註

に曰く「是は唯言にいひて物に喩へなごも

せぬものなり。此歌いかにいへるにかあら

ん其心得がたし。五つに唯言歌といへるな

ん是には叶ふべき」二小唄の一種。一つこ

や二つとやと數へ立てて謠ふもの。

喉の乾くこと。

●相手を買けさする。

●白にて搗く。

●交ぜ合はす。●あへる。○萬葉醬

かつ

(且(副))

酔^すに^{ひるつ}菲^{ひるつ}搗^{ひるつ}き^{ひるつ}かてい^{ひるつ}」

「一」かたへは。●牛は。●片端より。○
 壬二集「出深みかつ降る雪のやつ消えて氷
 かさぬる谷川の水」「二」そのうへに。●ま
 た。○「歌ひかつ舞ふ」

かつば

合羽(名)

雨を防ぐ爲に纏ふ上衣。紙、木綿、毛織
 物など種々あり。

かつば

河童(名)

河に棲みて人にも害をなすさいふ想像
 動物の名。

かつばさ

(副)

人の倒れたる時などの音。●ごつさりご。
 ●ごしんと。○謡曲「かつばさごまろぶが又
 起きあがって」

かつばかこ

合羽籠(名)

徳川時代大名の行列に雨具を入
 れて棒にて荷ひ携へたる籠。●合羽さる。

かつばさる

(名)

かつばさるに同じ。

かつぼん

合本(名)

数冊の書を一冊に合はせ綴じたる物
 渴望(名) 渴したる者の水を希望する如く一

かつばう

向に待ち望む事。●切望。△(動)――渴望す。

かつばう

割烹(名)

料理に同じ。

かつばうてん

割烹店(名)

料理屋に同じ。

かつぱい

合併(名)

一所に合する事。●合同。△(動)――

合併す。

かつぺき

合壁(名)

壁隣。

かつどろ

葛藤(名)

闘着。●さしもつれ。●紛紜。

かつちゅう

甲冑(名)

「一」鎧さ兜。「二」具足。

かつた

堅魚。鰹。松魚(名)

「一」魚の名。鰭に似て大き
 なるもの。五六月頃のものな初松魚と稱し
 て東京の俗大に之を賞す。又鰹節としては

かつをいりり

土佐、薩摩の名産とす。「二」鰹節の略。

かつをぶし

鰹節(名)

鰹の肉を蒸して干し固めたるも
 の。

かつなぎ

鰹木(名)

神社などの棟に横に置く鰹節の如
 き丸木。……千木の第二圖を見よ。

かつをみ

鰹身(名)

鰹の肉。

かつば

且(副)

又一方には。●かたはらは。●此上に
 は。

がっかり

(副)

氣を落す有様。●失望落膽する有様。

かつが

且且(副)

まだ十分ならされども先づ。●ま
 づまつ。●少しづい。●うすく。●ほのか
 に。●一つづい。○新後撰「秋風の枝ふき

しなる木の間よりかつら／＼見ゆる山の端の月」千載「萬代を契りそめつるしるしにはかつら／＼今日の暮る久しき」

(名) 癩病やみ。

合體(名) 合同。●一致。△(動)―合體す。

褐炭(名) 石炭の一種。褐色なるもの。

割禮(名) 猶太教にて男子生れて八日目に施す禮。其陽物の皮を切りて祈願を以て契約するの法。

がさう 合奏(名) 二人以上にて音樂を奏する事。△(動)―合奏す。

がさう 合葬(名) 二人以上の屍體を一所に葬る事。

△(動)―合葬す。

麻黄(名) 甘草あまのすの一名。(和名抄)

桂(名) 「二」木の名。女桂めかつらに同じ。一名藪肉桂。

「二」木の名。男桂に同じ。●加茂の葵祭に葵と共に用ふる物。「三」木の名。木犀ももの一名。「四」月の世界に有りといふ想像の木の名。此木秋に至り紅葉する故月色特に鮮かなりと云ふ。○古今「久方の月の桂も秋は猶もみちすればや照りまさるらん」後撰、春

霞たなびきにけり久方の月の桂も花やさくらん

髪(名) かつらの「三」に同じ。(俗)

かつら 髪(名) 「二」上古の髪飾。本草の枝または珠玉

を用ふ。○「花かつら」柳のかつら「玉かつら」「二」他の髪を入れて自毛の足らざるを補ふもの。●髪。○源氏「我御髪みみの落ちたりけるを取集めてかつらにし給へるが九尺ばかりにて」「三」能樂芝居などに役者の着る作り髪。……能にては特に女に用ふるものを云ひて他の髪をばカシラかしらと稱ふ。

蔓葛(名) 草のつる。

かつら 桂男(名) 「一」かつらをさこに同じ。月の異

名。「二」美男。

かつらをさこ

桂男

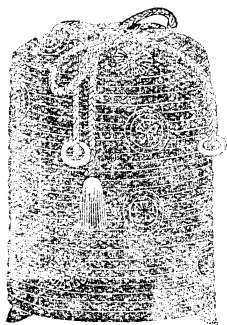
(名)

月を

男に

見立

て、



美稱

かつらなけ

せる詞。●月人男。(狹衣)

能樂にて床几に用ふる圓形の箱

(圖)

かつらおび

髪帶(名) 能樂にて髪の上に結むる帶。

かつらつき

桂月(名)

八月の異名。◎名月によりたる

かつらのを

葛緒(名)

琴に云ふ詞。奥義抄に曰く「琴

かつらのう

髪能(名)

能樂の一種。女をシテとして作

かつらく

(他動四段)

髪をこして頭に懸く。○萬葉し

かつらこ

葛子(名)

雞草をたばれて男女の頭髮の形

かつらで

葛手(名)

模様の名。唐卓に同じ。

桂鮎(名)

京都の桂川に産する鮎。昔は毎

かつらき
かつらきのかみ

葛城(名)

催馬樂の曲名。

葛城神(名)

大和の葛城山に住み給ふ

一言主神。

下に引く傳説によりて

文學上種々の古事に用ひらる。奥義抄に曰く「昔し大和の國に役優婆塞といひけるもの。往來よりなんさ云ひて葛城山吉野山の間に橋をわたさんと思ひて。日本國の神々に祈りこふに。葛城にいます一言主と云ふ神。一夜の間にかの山の山の嶺に石の橋を渡しはじめて。晝は形の見にくきにはかりて渡さぬを。役おぞがりてなんさいひて。晝もわたすべきよしをせむるに。神腹立ちて託宣して帝に奏したまはく。役優婆塞といふもの王位をいたぶけんぞ。引し給ふべしと。帝此告げによりて役行者を伊豆國に流しつかはしつ。神なば彼が世に有らん事を恐れて。命をたゐるべきよしをうされて奏するに依りて。人をつかはして殺すべきよし仰せらるゝに。使至りて劔をぬきて殺さんとするに。劔に表文あり。見

れば神の譏言に依りてあやまたぬ行者を罪せらるゝ事あたはぬよしあり。驚きて此よしを奏す。帝恐れ給ひて召し歸されぬ。其後役行者いかりなして。護法をもちて此神をしばりて。唐へ渡しにけり。これ金峯山の縁起に見えたり。○寶方集「我こそや久米路の橋も中たえて渡しわぶらん葛城の神」統「曉には疾くなご急がるゝに葛城の神も暫しなご仰せらいを」

かつらめ

桂女(名) 遊女。◎中古京都の桂の里より出でたる故の名。○類政集「桂女や新枕する

夜な／＼は取られし鮎の今宵取られぬ」

かつらひけ

鬘髷(名) 鬘を懸けたるやうに生ひたる髷。○宇治「年四十ばかりなる男のかつら

ひけなるが」

かつらびし

桂莖(名) 鳥の名。莖食の一種。

かつらもの

鬘物(名) かつらのうに同じ。

かつむし

勝蟲(名) 蟲の名。蛉蜻の一名。

かつらは

(副) 且に同じ。……鎌倉時代常に用ひたる詞。

かつのき

(名) 萬葉集に見えたる木の名。「一一」一説に

は椿。〔二〕一説には勝軍木の異名。

かつぐ

擔(他動四段) 〔一〕物を肩に掛けて荷なふ。

かつぐ

被(他動四段) 物を頭よりかうむる。●かぶる。

かつぐ

潜(他動四段) 水を潜る。●もぐる。……水鳥の所爲にも海人の所爲にも又其他すべてに

かつぐ

も言ふ。

かつぐ

(他動下二段) 裝束などを貴人より目下の者に與ふるを言ふ。◎衣類を頭にかづかせてやるより起れる詞。○土佐「男等までに物づけたり」

かつぐ

合歡戀(名) 雅樂の曲名。

かつぐ

合歡(名) がつくわんに同じ。

かつぐ

(他動下二段) 飢ゑしむる。(俗)

かつぐ

勝山(名) 女の髻の名。丸髻の一種。寶永の頃遊女勝山の結び初めしもの。

かつぐ

勝間(名) 堅間(かたまたま)に同じ。籠の古言。

かつぐ

被綿(名) 昔し禁中にて佛名の行はるゝ時出仕の僧に贈はりたる綿。

かつぐ

被物。纏頭(名) 貴人より目下の人に與ふる贈物。◎衣類をかづかせてやるより起れる

かつぐ

かつぐ

かつぐ

かつぐ

かつぐ

かつぐ

かつぐ

かつぐ

かつぐ

かつぐ

かつぐ

かつぐ

る詞。……昔は貴族同士使を受けたる時その使者への慰勞として裝束など贈るを禮とせり。又田樂猿樂の類などに與ふる祝儀の類また之に屬す。

(名) 人體の骨組肉附きの様子。

割腹(名) 切腹。●屠腹 △(動)―割腹す。

(名) 經節の略。

羯鼓(名) 樂器の名。

鼓の一種。〔一〕

雅樂にては臺に

据ゑ兩方より撥

にて打ち拍子を取

るもの。(圖一)

〔二〕能樂にては胸に縛り

之を打ちつゝ舞ふもの。

(圖二)

葛根(名) 葛の根を藥種に用

ふる時の名。

葛根湯(名) 葛根を元として調合したる

煎藥。風藥に用ふ。

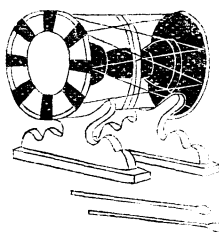
恰好(名) 〔一〕相應。●適當。●相當。〔二〕

かつぶく
かつぶく
かつぶし
かつこ

かつこん

かつこんたう

かつかう



かつがう

形状。●様子。〔三〕廉價。(俗)

渴仰(名) 神佛に深く信心を起す事。○謠曲

「あまつさへ渴仰のけしき見えたり」

かつて

勝手(名) 〔一〕便利。●都合。〔二〕自分勝手。●

我儘。●利己主義。〔三〕家の臺所。

かつて

嘗。會(副) まへかた。●以前に。●或時。●是ま

で。

がてん

合點(名) 會得する事。●點頭く事。●承知す

る事。△(動)―合點す。

かつてち

勝手口(名) 家の勝手への入口。●裏口。

かつあい

割愛(名) 愛を割く事。●惜しく思ふ情を抑

ふる事。△(動)―割愛す。

かつさい

喝采(名) 異口同音に賞賛する事。●やんや

んやと聲め立つる事。△(動)―喝采す。

合切(副) 一切。●悉皆。(俗)

かつぎ

(名) かつきに同じ。

かつぎ

被衣(名) 昔し婦人の外出する時頭より被りた

る衣。

かつぎ

(名) 〔一〕水を湛る事。〔二〕海人。

かつぎ

割據(名) 各自土地を占領して根據とする事。

△(動)―割據す。

かつきめ

潜女(名)

かつきする女。●海人少女。

かつきめ

(名)

詐欺師の奴め。人を賤しめ悪みていふ

かつきびめ

潜姫(名)

潜女に同じ。○萬代「夕されば懺

音すなりかつきびめ沖の藻刈に出づるなる

べし」

かつみ

勝見(名)

水草の名。菰の古名。

かつし

甲子(名)

干支に同じ。●えさ。

かつし

(副)

堅きものゝ相觸るゝ音。(狂言)

かつしかわせ

葛飾早稻(名)

武藏の國葛飾郡にて出来

たる早稻。(萬葉)

がっしやしょう

合掌(名)

佛を拜む時掌を合する事。△

(動)——合掌す。

かつしよく

褐色(名)

色の名。鶯色。

かつしき

喝食(名)

「一」寺にて食物の給仕をする役。僧

體には非ず。○謡曲「こゝに自然居士さ申

す喝食の御座候が」「二」能面の名。喝食に

用ふるものにて自然居士、東岸居士など之

を掛く。

かつせん

合戦(名)

たいかひ。●戦争。●いくさ。△(動)

——合戦す。

かつす

渴(自動サ變)

渴を覺ゆる。●喉の乾く。

がつす

合(他動サ變)

合はす。

がつす

合(自動サ變)

合ふ。

かね

金(名)

「一」金屬の總名。「二」貨幣の總名。「三」

馬術の詞。馬の後脚の股に焼金をあてて事。

●印。「四」曲尺。

かね

鐘。鉦(名)

金屬を鑄て撞き又は打ち鳴らすもの。

かね

鐵漿(名)

釣鐘・打鉦の類。

かね

(名)

おほぐろに同じ。

かね

後日其物さ爲るべき料のもの。……他の名

詞に續くが爲めかれと濁音に稱ふ。○榮花

「帝かれ」(天皇に立ち給ふべき皇太子)大鏡

「后かれ」(後日の后宮と定まれる御方)伊勢

「簀かれ」(簀に貫ふと定まれる人)空穗「妻

かれ」言ひなづけの妻)

がね

(後)

かにに同じ。萬葉集時代の詞。○萬葉「大

丈夫の弓末振り立て射つる矢を後見ん人は

語り繼ぐかれ」

かねいれ

金入(名)

貨幣を入るゝ物の總名。金箱紙入

等。

かねに

(副)

曲尺の如く眞直に。○盛衰「宇治川早し

こいへども淵瀬をいはずさゝめかしてかれに渡し向ひの岸近くなりて」

かねほり

金堀(名) 鑛山より鑛物を堀り出だす工人。

●坑夫。

かねへん

金偏(名) 漢字の偏の名。鑛、銅、錫の如き文字の左の半分を云ふ。

●かねへん。

かねがね

兼々(副) かねて。●前々より。

かねかし

金貸(名) 他人に金を貸して利息を得るを業とする人。

かねづく

(名) 金力。(俗)

かねつけいし

金附石(名) 質の密なる石。金銀の品位を知るに用ふるもの。

かねん

加年(名) 新年を迎へ年を加ふる事。

かねうり

金賣(名) かねあきびさに同じ。

かねのつる

金蔓(名) 金鑛の脈。

かねのてに

(副) 曲尺の形に。●矩形に。●折れ曲りて。

かねふき

金吹(名) (一)金銀など吹き分くること。

●治金。(二)金吹きを業とする人。

かねごと

兼言(名) 兼ねてより言ひ契る言葉。●豫約。

●約束。○源氏「ゆゝしきかれことなれど」

尼君をそのほごまでながらへ給はなんこのたまふめりき」

かねて

兼(副) 前々より。●早くより。●前以て。●兼々。

かねあひひ

兼合(名) 双方の釣合を取る事。●釣合。

かねあきびと

●權衡。金商人(名) 古へ金銀の地金を賣買せし人。

かねざし

曲尺(名) ものさしの一種。矩形にして鯨尺の八分を一寸とするもの。

かねめ

金目(名) 多くの金に値ひする事。

かねみ

金見(名) 昔し金銀貨の眞實を鑑定するを業とせし人。

かねじく

曲尺(名) かねてに同じ。

かねもち

金持(名) 金貨を多く所有する人。●富みたる人。●財産家。●金満家。

かな

假名(名) 漢字を基として我國にて作りたる音標文字。片假名、平假名、萬葉假名の三種あり。

かな

膝(名) 四筋を一つにして繰りたる機の縦糸。

かな

鮑(名) かんなの古名。(和名抄)

かな

金(形) 金鑛の。●金鑛にて作れる。○「金鑛」「金

棒「金釘」「金山」

かな

(感)

文句の後に置きて感嘆の永き餘情をあらはす詞。●「かなあ。○古今「待つ人にあらぬものから初雁の今朝鳴く聲のめづらしきかな」

かな

(後)

後詞のな^にに續きて願の意を帯びたる詞。●なりとも。○謡曲「何をかな火に焼いてあて申し候ふべき」

かな

(感)

「一」後詞のな^にに續きて願の意を帯びたる感詞。○千載「人もがな見せも聞かせも萩が花さく夕蔭の大和撫子」「二」助動詞の過去のにしてしに續きて願の意を帯びたる感詞。○夫木「磯がくれ嵐磯しげぬき漕ぐ舟の早くうき世を離れにしがな」拾遺「久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな」

かない

家内(名)

「一」家の内。●家庭。「二」家内の人々。●家族。「三」妻。

かなばち

鐵鉢(名)

武器の名。軍士身輕に出で立つ時兜を着ざる時に代用するもの。鐵にて作り内に布を



かなばさみ

金鋏(名)

金屬を剪み切る鋏。

かなはし

金箸(名)

金工の道具。金屬を挟む爲に鐵にて造りたる箸。(和名抄)

かなぼうぢ

金佛(名)

かなぶつに同じ。

かなぼう

鐵棒(名)

鐵製の太き棒。

かなぼうし

金法師(名)

我子と呼ぶ稱。現今餓鬼さ言ふに同じ。(狂言)

かなぼうひき

鐵棒引(名)

祭禮に鐵棒を携へて御輿屋臺などに付き添ふ人。

かなべら

金篋(名)

「一」金屬製の篋。「二」左官の道具。鏝こての一名。

かなど

(名)

門かど。●かど。◎鐵の釘貫にて戸を固むる故の名。(萬葉)

かなどだ

(名)

門田かいたに同じ。(萬葉)

かなどこ

鐵床(名)

鐵礎かなしきに同じ。

かなどで

(名)

門出かどでに同じ。(萬葉)

かなり

可なり(副)

相應に。●先よき程に。(副)「かなりに。△(形)「かなりの。」

かなりあ

金絲雀(名)

西班牙國領カナリヤ島產の小鳥の名。多くは玉子色にして尾の長きもの。

張り緒を付けて結び付く。(圖)

かなわ

鐵輪(名)

鐵製の五徳。

かなかひ

金匙(名)

金屬にて造りたる杓子。

かながひ

金貝(名)

蒔繪にいふ詞。金屬の薄片。之を塗り込みて磨き出すもの。

かなかく

(他動四段)

鉋にて削る。(大鏡)

かながき

鐵掻(名)

農具の名。鐵にて松葉搔のやうに作り草を搔くもの。(和名抄)

かながき

假名書(名)

假名文字にて書く事。又その書きたる文字。

かながしら

金頭(名)

「二」魚の名。頭堅くして大きく身瘠せて味は淡きもの。「二」魴(うなぎ)に同じ。

かなた

彼方(代)

彼の方の約音。㊦あなた。㊧あちらの方。

かなたが

金鍾(名)

金屬製の鐘。

かなたらひ

金盞(名)

金屬製の盞。

かなだくみ

金工(名)

鍛冶。

かなづ

奏(他動下二段)

「二」掻き撫つの意。㊦琴を弾く。「二」轉じて總べて樂を奏する。「二」又轉じて舞を舞ふ。

かなづち

鐵槌(名)

鐵にて造りたる槌。

かなづかひ

假名遣(名)

同音に聞えて同字ならぬ假名

の用法。……たさへばいさ(糸)ぬこ(井月)

あは(粟)あわ(泡)のいね及びはわの相違

を用例によりて區別するの類。

桔槔(名)

加鈞瓶。(和名抄)

金簪(名)

少しも聞えぬ簪。

假名附(名)

漢字に假名を附くる事。

(名)

鐵製の杖をいふ。(和名抄)

假名附(名)

漢字に假名の附きたるもの。

振り假名附。

鐵鍋(各)

鐵鍋(和名抄)

必(副)

假ならずの意。㊦屹度。㊧慥に。㊨

必定。

かならずしも

(副) 必ずに同じくして下に打消の詞ある時に用ふ。〇「必ずしも行くに及ばじ」

かなむぐら

金葎(名)

草の名。葉蔓共に細き毛あるもの。

かなふり

(他動下二段)

叶はしむる。

かなふり

叶(自動四段)

當てはまる。㊦適する。㊧相

應する。

㊦調ふ。㊧成る。

鐵臼(名)

藥研の古名。

金具(名)

器物に打ち付くる金屬の飾り又は錠

前の類。

かなぐる

(他動四段)

掻き除ける。●引きむしる。○

源氏「なみ／＼の人ならばこそ荒らかにも
引きかなぐらめ」徒然「雨おほひの毛を少
しかなぐり散らして」

かなくそ

金屎(名)

鐵を熱して鍛ふる時火床の底に溜
る屑。(和名抄)

かなぐつ

鐵香(名)

馬の蹄に打つ鐵。●蹄鐵。

かなぐら

金庫(名)

金銭を入れる倉庫。

かなぐざり

金鎖(名)

金屬製の鎖。(著聞)

かなぐ

金釘(名)

鐵詞のやに感詞のやを重ねたるもの。
○謡曲「かなしきかなや」著聞「よるこば
しきかなや」

がなや

(感)

感詞のやに感詞のやを重ねたるもの。

かなやま

金山(名)

鐵物の出づる山。●鑛山。

かなやまびこ

金山彦(名)

神の名。金銀銅鐵などの事
を掌る神。

かなやまびめ

金山姫(名)

金山彦と同徳女性の神。

かなまり

金梳(名)

金屬製の梳。(和名抄)

かなまた

金炭(名)

大なる竈にて火を焚く時用ふる
具。端に股ありて木の柄をすげたるもの。
●さんまた。●さすまた。

かなまじり

假名交(名)

文章書體の名。漢字に假名を
交へたるもの。……漢文または純粹の和文
に對して云ふ。●通俗文。●普通文。

かなませ

(名)

鐵の織の名。鐵板と革と一つ交ぜに井
べて本の方を編み連れたるもの。

かなけ

金氣(名)

流動物の中を含む金屬の臭味。●鐵
澁。

かなぶつ

金佛(名)

金屬にて造りたる佛像。

かなぶみ

假名文(名)

(一)假名書きの文章。●和文。
(二)假名書きの消息文。

かなごよみ

假名曆(名)

假名にて書きたる曆。(宇治)

かなごし

鐵拳(名)

鐵の如く堅き拳。

かなへ

(鼎)名

「一」食物を煮る器の總名。●釜。(和名
抄)「二」三脚の釜。●あしがなへ。

かなで

奏(名)

奏づる事。

かなてこ

鐵挺(名)

鐵製の挺。

かなざいぼう

(名)

近古の武器。金釘の刺の多く出で

たる棒の如きもの。

かなさび

鐵銷(名) 鐵器に生ずる錆。

かなぎ

鐵木(名) 昔し罪人に箝めたる首枷。板にて造

かなきりごま

り鐵の輪を箝む。(和名抄)

金切聲(名)

金を切る音の如く細くして

かなきん

金巾(名) 葡萄牙語より來る。◎舶來の綿布

にて地の薄きもの。

かなめ

要(名) 「一」扇の骨を貫き留むる釘の如きもの。

鯨の鬚又は金にて造る。◎蟹の目。◎かのめ。◎扇眼。「二」物事の要點。

かなめ

(名) 木の名。かなめもちの略。

かなめん

鐵面(名) 軍陣の時鐵にて作り顔にあてる

面。面頰。頰當の二種あり。

かなめもち

扇骨木(名) 木の名。扇の木的一種。常に

生垣などに植ゑて若芽の紅なるを賞翫するもの。

かなし

悲。哀(形。形狀言シク活) 「一」いさほし。◎愛ら

し。◎かはいそうな。◎大事なる。◎源氏「わかなしと思ふ娘」「二」面白し。◎古今「陸奥は何くはあれど鹽竈の浦こぐ舟の綱手」

なしも」「三」嘆かし。◎嘆かはし。◎痛ま

し。◎愁はし。◎源氏「今はさて別るゝ道の悲しきに生かまほしきは命なりけり」

かなしがる

(自動四段) かなしと思ふ。

かなしむ

悲。哀 (他動四段) かなしと思ふ。◎愛する。◎嘆く。

かなじくし

金杓子(名) 金屬にて造りたる杓子。

かなしぶ

鐵澁(名) かなげに同じ。

かなしぶ

(他動四段) 哀しむに同じ。

かなしき

鐵碁(名) 鐵などを鍛ふる碁。◎鐵床。(和名抄)

かなしみ

(名) 哀しむ事。◎悲愁。◎愁歎。◎悲哀。◎哀傷。

かなしび

(名) かなしみに同じ。

かなしびき

假名字引(名) 字引の一種。いろは又は五十音の順序にて引くもの。

かなひばし

金火箸(名) 金屬製の火箸。

かなびく

(他動四段) 引き試むる。◎ためす。◎平家

かなもの

「かやうに申せば御邊の御心をかなびかん」とて申すことや思召され候ふらん」

金物(名) 金屬製の器物の總名。

かなもじ

假名文字(名) 假名に同じ。

から

殻(名) 貝類虫類などの外皮。○「蛤の殻」 「蟬の殻」

から

骸(名) 死體。●死骸。

から

空(名) 物の外部のみにて實のなき事。●眞實ならぬ事。

から

幹(名) 植物の莖。○「菜種幹」「栗幹」

から

柄(名) えに同じ。

から

(名) 豆腐の搾り糟。●卵の花。●きらす。

から

(名) 英語より来る。◎洋服の附け襟。

から

唐。韓(形) からのに同じ。

から

(後) 「一」より同じ。○「是からお江戸は三里」「二」に依つて。●故に。○「おもしろいから進む」

がら

柄(助名) 「一」品位。○「家から」「人から」「二」わけ。●せい。○「時節がら」

からろ

空井(名) 水の出でぬ井戸。

からいも

唐芋(名) 薩摩芋の一名。

からろ

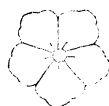
唐櫓(名) 船具の名。櫓に同じ。

からはな

唐花(名) 紋の名。(圖)

からはなさう

唐花草(名) 草の名。寒國に生ずる蔓草



からはふ

唐破風(名) 建築に用ふ。彫刻などにて支那風に飾りたる破風。

からはし

唐橋(名) 唐風の橋。●欄干に擬寶珠のある橋。○「瀬田のからはし」

からに

(後) 「一」から。●より。「二」に依つて。●故に。

からにしき

唐錦(名) 昔し支那より舶來せし錦。

からほ

枯穂(名) 枯れたる穂。○通盛集「萩のからはし」

からほり

空堀(名) 城砦などの水のなき堀。

からへいじ

唐瓶子(名) 金匱にて造りたる瓶子。◎唐風なる故にいふ。

からどち

(名) 唐櫃の略。

からり

唐綴(名) 唐本仕立。

からりど

(感) 「一」琴の音。「二」鎗などの打たれて相觸るゝ音。○「鎗をからりど打落され」

からほひ

(副) からりを副詞にしたる詞。

(名) 草の名。幹葉の意にて立葵をいふなるべし。(催馬樂)



からおりにしき

略。〔二〕特には能装束の名。女物に用ふ。

唐織錦(名) 唐風に美しき種々の模様を織り出だせる錦。

からおりもの

唐織物(名) 〔一〕唐織錦に同じ。〔二〕唐風の織物。

からなぎ

(名) 枯れたる萩。(神樂歌)

からかぢ

柄櫛(名) 別木にて柄を付けたる櫛。……古の櫛は多く木にて作れる故に別けて言ふ。今の櫛なるべし。(萬葉)

からかぢの

柄櫛の(枕) 櫛の音高しと言ひ掛けたる枕詞。○萬葉「まくらがの古河のわたりのからかぢのおもたかしもなれなへ子ゆゑに」

からかは

唐皮(名) 〔一〕虎の皮。〔二〕和蘭より舶來せし紋革の一種。

からかね

唐金(名) 銅と鉛と亜鉛との合金。其割合は種々あり。多く鑄物に用ふ。銅一貫目に鉛百目、亞鉛百目、錫十々、豐後白目十八々なるを最上とす。●青銅。

からから

(副) 物の乾き附きたる有様。(又)「からから」に。

からから

(副) 高聲に笑ふ有様。(又)「からから」。

からから

(感)(副) 金屬などの物に觸るゝ音。

からがら

(名) 小兒玩具の名。振り鳴らせばから／＼と音のするもの。

からかふ

(自動四段) 〔一〕争ふ。●抵抗する。○著聞「しばしからかひて腰刀を抜きて」〔二〕

からかさ

戯るゝ。●なぶる。●嘲弄する。(俗)

からかぎ

傘(名) さしかさ。 戸に附けたる鍵。●かきがね。(和名抄)

からかみ

唐紙(名) 〔一〕襖など張るに用ふる紋紙。●襖紙。〔二〕轉じて唐紙を張れる障子。●襖。

からかみ

禪神(名) 〔一〕禁中に鎮座して天皇を守り奉る神の名。〔二〕神樂の曲名。

からかみ

唐紙障子(名) 唐紙にて張れる障子。●襖。

からかみし

子。●襖。

からやう

唐様(名) 漢字書法の名。……和様に對していふ。

からやう

唐蓬(名) 草の名。菊の異名。

からよもぎ

體(名) 動物の身體。若くは軀體。

からだ

枳殼(名) 木の名。葉は枳に似て刺多く秋實

からたぢ

を結ぶもの。生垣などに多く用ふ。●きこく。

からたちばな

唐橘(名) 木の名。橘の一種。

からたま

唐玉(名) 舶來の珠玉。……轉じては美しき玉。

からたけ

漢竹(名) 「一」吳竹に同じ。●かんちく。「二」眞竹に同じ。

からたけわり

漢竹割(名) 竹を割るが如く一刀にて敵を切り下ぐること。

からつ

唐津(名) からつものからつやきの略。

からつばき

唐椿(名) 木の名。椿の一種にして其花大きくして美麗なるもの。

からつど

唐津砥(名) 砥石の一種。肥前唐津にて産する物。

からつやき

唐津焼(名) 肥前の國唐津近傍より産する陶器。

からつもの

唐津物(名) 唐津焼にしたる一切の陶器。

からねこ

唐猫(名) 獸の名。猫の一種。
辛菜(名) 總べての野菜を甘辛と二種に分くる時に用ふる詞。○祝詞式「大海原に生ふるものは甘菜辛菜」

からな

唐名(名) 女の名の一種。お松お竹の如くおの字を附して呼ばれぬ三音以上の名。しつかり。

からなでしこ

唐撫子(名) 「一」草の名。撫子の一種。

庭に植ゐて夏の頃美しきを賞翫するもの。

花は紅白紋など種々あり。●石竹。「三」重の色目の名。……なでしこに同じ。

からなし

唐梨(名) 木の名。林檎の類。(和名松)

からん

伽藍(名) 梵語。◎寺。

からむ

搦(他動下二段) 取抑ふる。●捕縛する。

からむ

(他動四段) 纏ひ付く。●からまる。

からむぎ

穀麥(名) 外皮の付きたる儘の麥。

からむし

苧(名) 麻の一種。常の麻よりは上品なる苧を製し得るもの。

からむしろ

唐筵(名) 「一」舶來品もしくは支那風に織りたる筵。「二」美しき筵。

からうた

唐歌(名) 詩。

からうめ

唐梅(名) 木の名。臘梅の一名。

からうす

碓(名) 足にて杵を上下して搗く臼。●踏臼。

からの

唐の韓(の形) 「一」唐(又は三韓)より舶來の。

〔二〕唐(又は三韓)風の。〔三〕唐(又は三韓)よりの舶來品に似て結構なる。

唐車(名) からぐるまに同じ。

からのくるま
からく

辛く(副) からうじてに同じ。○「からく切り抜けたリ」

からぐ

(他動下二段) 「一」纏めて結ぶ。●束ねる。〔二〕かいぐる。●引つからげる。〔三〕綴り合はする。●かいる。

からくり

機(名) しかけ。●あやつり。●機關。

からくる

(他動四段) しかけをなす。●あやつる。

からぐるま

唐車(名) 底なくして唐棟の如く作れる御所車。

からぐるま

空車(名) 何も載せぬ車。

からくは

唐桑(名) 舶來の材木の名。支那産の桑の木。

からぐわし

唐菓子(名) っらくだものに同じ。

からくだもの

唐菓子(名) 作り菓子。○菓子ほもと支那に習ひて作り出だせるものなればいふ。

からくれなゐ

唐紅(名) くれなゐに同じ。色の名。

からぐら

唐鞍(名) 雲珠^{うんしゆ}などの飾を附けたる唐風の鞍。

からくさ

唐草(名) 模様の名。蔓草を種々に曲折せしめたるもの。

からくさ

(名) 枯草。●まぐさ。(和名抄)

からぐさがは

唐草瓦(名) 平瓦の一種。端に唐草模様の飾ある物。

からくみ

唐組(名) 糸を組みて作りたる組。●組緒。(和名抄)

からくして

(副) 辛うじてに同じ。

からくしげ

唐櫛笥(名) 唐風に造りたる櫛笥。(和名抄)

からやかた

唐屋形(名) 支那風に作れる屋形。

からやま

枯山(名) 「一」草木の枯れたる山。(記) 「二」木の生ぜぬ山。●赭山。●秃山。●坊主山。

からまる

(自動四段) 纏ひ付く。

からまつ

唐松(名) 木の名。松の一種。五葉にして其實狹く長く、仁は胡桃の如き味あるもの。

からぶ

(自動上二段) 水分去りてから／＼になる。●異名は。……新羅松。●朝鮮松。

ひからびる。

からぶきたま

樺太玉(名) 玉の名。樺太にて産する一種の練玉。

からふね

空船(名) 人をも荷をも載せぬ船。

からふね

唐船(名) 「一」唐土の船。●たうせん。〔二〕

韓船。(二)総べて外國船。

からふねぶぎ

唐船奉行(名)

徳川時代の役名。

我國に碇泊する唐船一切の事を掌るもの。

からぶぎ

唐奉行(名)

唐船奉行に同じ。

からぶみ

漢籍(名)

漢土の書籍。●漢書。●儒書。

からぶみ

漢文(名)

漢土の文章。

からこ

唐子(名)

「一」畫などに、く唐の兒童。「二」唐子鬚の略。

からころも

唐衣(名)

「一」支那(又は三韓)風の衣服。

「二」衣の美稱。

からころも

唐衣(枕)

「一」衣を着馴らすと言ひ掛けて奈良の枕詞とす。○萬葉「唐衣きならの山」

「二」衣を裁つと言ひ掛けて立田の枕詞とす。○萬葉「唐衣立田の山」

からこぞ

唐琴(名)

琴または箏。○もさ唐よりの舶來品なれば和琴に對して言ふ。

からこわけ

唐子髻(名)

唐子風に結べる女子の髻。輪を二つ作りたるもの。●唐人髻。

からこころ

漢意(名)

支那的に心酔せる思想。●儒道思想。

からこゑ

(名)

かいたる聲。○源氏「けしきある鳥の

からこゑに鳴きたるも」

からゑ

唐畫(名)

「一」唐人のかきたる繪。「二」唐風の繪。●文人畫。

からえ

唐往(名)

草の名。唐胡麻の一名。

からえひ

(名)

魚の名。鰈に同じ。

からえた

(名)

枯枝に同じ。(拾玉)

からて

空手(名)

手に物を持たぬ事。●素手。●徒手。

からで、ばう

空鐵砲(名)

彈丸を込めずに放つ鐵砲。●空砲。

からある

唐藍(名)

「一」染草の名。●くれなゐに同じ。●べにの花。○萬葉「秋さらば陰にもせん

と我蒔きし唐藍の花を誰か摘みけん」(二)染色の名。くれなゐに同じ。○新拾遺「からあるの八しほの衣」

からあふひ

唐葵(名)

草の名。葵の一種にして日影に向きて花の廻るもの。●日向草。

からあや

唐綾(名)

絹織物の名。綾類の上品なるもの。

からあやおとし

唐綾織(名)

鎧の織の名。唐綾にておとしたるもの。

からざな

柄竿。連棚(名)

農具の名。柄の先に竿を付け

之を振り廻

して稻穂を

打ち扱を落

すもの。●

くるり。●

舞杵。(圖)

からさま

唐様(名) 唐

の風。

からざけ

乾鮭(名) 乾したる鮭。(宇治)
漢才(名) 漢學の學才。

からざえ

唐囀。韓囀(名) (一)唐人又は韓人の言

語(二)儒者の僻論を嘲りて言ふ詞。

からき

唐木(名) 舶來の木材。紫檀、黒檀の類。

からき

(名) 枯木に同じ。

からきぬ

唐衣(名) 衣服の名。中古婦人の禮服の表衣。
おもに唐錦などにて作りユキ短く腰までの

もの。……十二一重の處の圖を見よ。

からきざく

唐木細工(名) 唐木にてする細工。

からめく

(自動四段) 唐の物らしく見ゆる。

からめく

(自動四段) 釋せ細る。

からめて

搦手(名) 城又は砦の裏門。



からみ

辛味(名) (一)辛き味。(二)藥味。

からし

芥子(名) 食品の名。芥子菜の實を粉末にせし

もの。其味極めて辛し。

からし

辛(形。形狀言ク活) (一)芥子、生姜などの如き

味のしたる。(二)鹽の味のしたる。●鹽か

らし。●鹽はゆし。(三)つらし。●くるし。

からじり

輕尻(名) 徳川時代宿驛の次立にいふ詞。本

馬の半分にて十八貫を一駄としたるもの。

からしな

芥子菜(名) 菜の一種。其實を芥子にするも

の。又松さもいふ。

からしし

唐獅子(名) 獅子。……猪などに對していふ。

からびど

唐人(名) 支那人。●朝鮮人。●外國人。

からびつ

唐櫃。辛櫃(名) 脚ある櫃。昔し衣類調度など

入れたる器。●からうつ。

からもり

該守(名) 中古路傍などに打ち捨て置きたる

死骸を取りかたづくる役。

からもり

(名) 古代物語の名。但し世に傳らず。(源氏)

からもの

唐物(名) 唐より舶來したる品物。●唐物。

●舶來品。

からもの

乾物(名) 乾したる食物。●乾物。

からものつかひ

唐物使(名) 中古唐土より商船の來

りて筑紫に着きたる時其積荷等改めの爲め朝廷にて派遣せらるゝ使。

からもち

唐桃(名)

「一」木の名。杏の古名。(和名抄)

からせき

空咳(名)

病の名。痰の出でずして咳ばかり出るもの。

からす

烏。鴉(名)

鳥の名。色黒く人家に近く住みて早朝より鳴き立つるもの。

からす

枯(他動四段)

枯れしむる。

からす

硝子(名)

英語より来る。◎硝物を熔かして造りたる無色透明の物體にして種々の器物に用ふるもの。●びいごろ。●ぎやまん。●

がらすいた

硝子板(名)

硝子を板の如く延ばしたるもの。

からすば

烏羽(名)

鳥の翼。

からすへみ

烏蛇(名)

からすへびに同じ。(和名抄)

からすへび

烏蛇(名)

虫の名。蛇の一種にして全身眞黒なるもの。

からすどび

烏飛(名)

能樂三番叟の曲にある手の名。横に一足飛にすること。

からすあがふりぎ

烏扇(名)

草の名。ひあふきの古名。

からすがひい

烏貝(名)

貝の名。「一」ごぶがひの一名。

からすがね

烏金(名)

「二」貽貝の一名。「三」石割貝の一名。

からすがしら

烏頭(名)

馬にいふ詞。馬の後脚の外にある節。

からすなき

烏鳴(名)

鳥の鳴き工合。

からすなめり

(名)

こむらがへりに同じ。(和名抄)

からすむぎ

燕麥。烏麥(名)

草の名。麥に似て原野などに生ずるもの。

からすうり

烏瓜(名)

蔓草の夏。白き花咲き秋の末頃瓜に似て小さく眞赤なる實を結ぶもの。

からすのえんどう

烏豌豆(名)

草の名。花に劇毒あるもの。

からすまめ

烏豆(名)

野菜の名。黑豆の一種にして痰を治するに効あるもの。

からすえんどう

烏豌豆(名)

草の名。からすのえんどうに同じ。

からすき

柄鋤。犁(名)

農具の名。鋤の一種にして牛に曳かせ用ふるもの。

からすきぼし

犁星(名)

星の名。二十八宿の一。●三

星。●三光星。

からすみ

鰯(名)

食品の名。鰯などの胎兒を乾したるもの。◎其形唐墨に似たる故の名。

からすみ

唐墨(名)

支那製の墨。●さうばく。

かむ

噴(他動四段)

齒にて物を碎き又は傷つくる。

かむ

(他動四段)

鼻水を拭ふ。

かむ

(他動四段)

醸す。(組)

かむ

神(形)

すべて神の事に關する名詞の上に冠する詞。○「かむわざ」「かむ御衣」「かむかせ」

「サむ葬」

かん

寒(名)

「一」寒き事。●寒さ。●「二」曆の詞。立春の前三十日の間を云ふ。即ち小寒さ大寒さ。

かん

間(名)

隙。●透間。●わけめ。

かん

爛(名)

酒を温むる事。

かん

閑(名)

ひた。●いさ。●閑暇。

かん

瘤(名)

病の名。瘤癰。

かん

漢(名)

支那。○「漢學」「漢字」

かん

韓(名)

三韓。●朝鮮。○「波韓」「征韓」

かん

疳(名)

病の名。脾胃の略。

かん

感(名)

感情。●感嘆。●感心。

かん

肝(名)

きも。

かん

幹(名)

みき。

かん

諫(名)

いさめ。

かん

甲子(名)

音樂上の詞。上りたる調子。……乙の

かん

勘(名)

對。○「かんの聲」

かん

勘(名)

物事を考へ悟る事。○「かん違へ」「かんの善き盲人」

かん

姦(名)

「一」惡事。「二」惡徒。「三」奸婦。

かん

神(形)

かむに同じ。○「かんわざ」「かんなつき」

かん

雁(名)

鳥の名。かり。

かん

眼(名)

まなこ。

かん

龍(名)

佛像を入る、厨子。

かん

質(名)

にせもの。●擬物。

かん

簡易(名)

手短。●手輕。

かん

漢醫(名)

漢方の醫師。

かん

汗衣(名)

汗取の繻絆。●肌衣。

かん

寒威(名)

寒氣の強さ。

かん

奸婦(名)

不道の交合。●密通。

かん

神今食(名)

じんこんじきを見よ。

かん

含(名)

含有(名) 含み有つ事。●含蓄。△(動)―含

かん

有す。

かん

禿(名)

「一」髪をまた結ばずに襟の邊まで垂り

かんろ

したる童女。(二)遊女に仕ふる童女。
甘露(名) 「(一)日出度事の前兆に天より降るる
想像せし甘味の露。(二)氷水に入れて飲む
甘き汁。

かむろぎかむろみ

神魯企神魯美(名) 天皇の御先祖。
すなはち高皇產靈神皇產靈の二神。○祝詞
式「高天原に神づまります神ろぎ神ろみの
命もちて」

かんば

汗馬(名) 汗に潤ひたる馬。

(名) 樺に同じ。

かんば

看破(名) 見貫く事。△(動)―看破す。

かんばい

寒梅(名) 木の名。寒中に咲く梅。●早梅。

かんばい

感佩(名) 心に感じて有難く思ふ事。△(動)

―感佩す。

かむはた

綺(名) 古代織物の名。薄地の錦。(和名抄)

かんぱつ

早魃(名) ひでり。

かんぱつ

勘發(名) 勘當。(著聞)

かんぱん

看板(名) 「(一)商家の軒先に賣物の名など記
して掲ぐる板。(二)簾幕の頃仲間に着たる
印半纏の如きもの。(三)人力車夫の携ふる

提灯。

かんばん

甲板(名) 西洋形の船の最上層の所。●デッ

かんばし

芳(形。形状言シク活) かうばしに同じ。香の

かんばしる

甲走(自動四段) 度外に音調の高くなる。

かんばせ

顔(名) かばせに同じ。●ッ。ほ。

かんにち

坎日(名) 厝にいふ詞。外出に思むべき日。

かんにん

堪忍(名) 「(一)堪へ忍ぶ事。●忍耐。(二)勘

辨に同じ。●宥恕。

かんにく

乾肉(名) 乾したる肉。●脯。

かんぼつ

陷没(名) 陥り沈む事。△(動)―陷没す。

かんば

感冒(名) 病の名。風邪。●風ひき。

かんば

漢方(名) 支 那古代の方法によりてする醫術。

かんば

簡法(名) 簡易なる方法。

かんぼく

肝木(名) 灌木の名。紫陽花の類。幹多く房

かんぼさつ

楊枝として用ふ。

かんぼさつ

漢菩薩(名) 白米の異名。

かむほさき

神祝(名) かむほさに同じ。

かむほさき

神祝(名) 神に祈りて世又は人を祝ふ事。○

記「神ほきはさくるはし」

かんべ

神戸。神部(名) 神社領の民戸。租税を其社司に

納むるもの。

かんべに

寒紅(名) 寒中丑の日にはきたる紅。此日の

紅を用ふれば口中の荒れを治するの効あり

さいふ。●丑紅。

かんべん

簡便(名) 簡略にして便利なる事。●簡要。

(形)―簡便なる。(副)―簡便に。

かんべん

勘辨(名) 〔一〕勘考辨別する事。●熟慮。〔二〕

堪忍。●宥恕。……△(動)―勘辨す。

かんへき

癩癧(名) 病の名。癩癧。

漢土(名) 日本にて支那を呼ぶ詞。

かんど

機取(名) かちまりに同じ。船人。●船子。

●船頭。

かんだう

勘當(名) 〔一〕法に據りて罰に處する事。●

處分。〔二〕主君又は父兄より臣子を放逐す

る事。●勘氣。●勘事。……△(動)―勘當

す。

かんだう

間道(名) 拔道。●裏道。

かんど

感動(名) 心に感じて情の動く事。●感激。

△(動)―感動す。

がんだう

(名) 強盜。

がんだうぢやうちん

強盜提灯(名) 提灯の一種。

かんどうし

己の方は照らさずして他をのみ照す様に造

りたる物。強盜など多く之を拂ふ。

問投詞(名) 西洋文法にて感嘆詞をいふ。

かむどの

神殿(名) 神社の建物。

かんとく

監督(名) 其事の取締する事。又は其人。△

(動)―監督す。

かんとく

感贖(名) 書簡に同じ。●手紙。

かんとく

感得(名) 神佛の靈驗によりて物を得る事。

●「感得の玉」△(動)―感得す。

かんどく

爛德利(名) 酒の爛をするに用ふる徳利。

かむどけ

(名) かみどけに同じ。●落雷。

かんどく

甲所(名) 琴三味線の類の樂器にいふ詞。

かんどく

甲の音を出す所の糸。

かんち

閑地(名) 閑靜なる土地。

かんち

奸智(名) 奸惡なる智略。●邪智。

かんち

(名) かむたちの略。

かんち

(名) 一眼の人。●めつちち。

かむどから

神税(名) 神に初穂として奉る稻。

かむどから

間諜(名) 廻し者。●間者。●諜者。

かんでふ

かんて^{ナヨウ}

寒潮(名) 「一」冬の潮水。「二」地理學上の

詞。かんりうに同じ。

かんぢ^{ヤザイ}

勘定(名) 「一」計算。●算用。△(動)―

勘定す。「二」仕拂ふべき高。●會計。

かんぢ^{ヤザイ}うぶぎ^{ヤギ}

勘定奉行(名) 徳川時代の役

名。會計官。

かんぢく

漢竹(名) 支那より舶來の竹。●からたけ。

かんぢく

寒竹(名) 竹の一種。寒中に筍の生するもの。

又紫竹ともいふ。

かんぢ^{チユウ}

寒中(名) 寒三十日の間。

かんぢ^{チユウ}

眼中(名) 「一」眼の中。「二」心にて視渡す

限り。

かむり

冠(名) 「一」總べて頭に冠るもの。「二」かんむ

り。

かんり

姦吏(名) 姦惡なる役人。

がんれ^{リヨウ}

顔料(名) 物を染むる具。●繪の具。

がんり^{リヨウ}

眼力(名) かんりきに同じ。

かむりのな

冠緒(名) 緩に同じ。(和名妙)

かんり^{リヨウ}

簡略(名) 簡単に省略する事。△(形)―簡略

なる。(副)―簡略に。

がんりき

眼力(名) 「一」眼の力。●視力。「二」物事を

かんり^{リヨウ}

視察する力。

かんぬし

寒流(名) 「一」冬の川。「二」地理學上の詞。

かんぬし

寒帶地方より來る潮流。●寒潮。

かむる

神主(名) 「一」其神社に奉仕する人の長。

かんるゐ

「二」轉じては神官。●社人。

かんおん

(他勤四段) 頭に戴く。●かうむる。●かぶる。

かんるゐ

感涙(名) 感佩してこぼす涙。

かんおん

漢音(名) 支那音の一種。昔し漢地方に行は

かんおん

れたる發音にて我國には支那大陸との交通

かんおん

はじまりてより入り來れる音。今は漢文を

かんおん

讀む時の音讀に用ふるものにて普通の畫字

かんおん

引には漢字の右方に記さるゝもの。萬物を

かんおん

パンブツ。正直なセイチヨク。文武をブン

かんおん

ブと讀むの類。……吳音を參考せよ。

かんおん

感恩多(名) 雅樂の曲名。

かんおん

感應(名) 神佛に祈願して其効驗ある事。●

かんおん

應護。●靈驗。

かんおん

閑話(名) 閑談。●むだげなし。

かんおん

閑暇(名) 神事(名) じんじ。●祭。

かんか

いさま。●手邊。

●漢醫。

かんが

閑雅(名) みやびやかなる事。●優美。△(形)

―閑雅なる。(副)―閑雅に。

がんか

眼下(名) 眼の下。●目の前。

かんがい

感慨(名) 感じ慨く事。●慷慨。

がんかい

眼界(名) 眼にて見ゆる限の場所。

かむがかり

神懸(名) 神の人體に乗り移る事。●御託宣。

かむがら

(副) かむがらに同じ。○萬葉「立山に降りおける雪を常夏に見れどもあかすかむがらならし」

かんがん

汗顔(名) 手紙の詞。顔に汗を流して赤面する事。○「汗顔の至に堪へず」

かんがむ

鑒(他動上二段) かんがみるに同じ。

かんがぶ

考(他動下二段) 「一」思案する。●勘考する。(二)勘當する。●叱る。○枕「えせもある。(二)勘當する。●叱る。○枕「えせもある。」「一」從者かんがぶる」

かんかく

感覺(名) 物事を心に感ずる動作。●知覺。

かんかく

間隔(名) 物と物との隔り。●距離。

かんかく

看客(名) 見物人。

かんかく

漢學(名) 「一」漢土の學問。●支那學。「二」

かんがくし

漢學者(名) 漢學専門の學者。

かんがへ

考(名) 考ふる事。●思慮。●分別。

かんがへぶみ

黠文(名) かんじやうに同じ。

がんがさ

雁瘡(名) 病の名。秋雁の來る頃發して春雁の去る頃に癒ゆる腫物。

かんがみる

鑒(他動一段) 既往に徴して將來を豫しむ。

かむかぜ

神風(名) かみかぜに同じ。

かむかぜの

神風の(枕) 「一」神風の思といふ意にて伊勢に掛けたる枕詞。○記「神風の伊勢の海」

かむかぜの

(二)轉じては伊勢の地名に總べて掛けたる枕詞。

かむかせや

神風や(枕) 神風のに同じ。○後拾遺「君が代は盡きじこそ思ふ神風やみもすそ川

かんえう

肝要(名) 肝要なる。(副)―肝要に。

かんえう

肝要なる。(副)―肝要に。

かんた

神田(名) 神社領の田地。

かんた

寒帶(名) 地理學上の詞。赤道以北六十六度半以上の北寒帶を稱へ。以南六十六度半以

かんた

半以上の北寒帶を稱へ。以南六十六度半以

上を南寒帯と稱ふ。

がんだい

眼代(名) 武家時代の役名。目代に同じ。

かんだち

神館(名) 神社の附屬の建物。神事など行ふ所。○新古今「祭使にてかんだちに泊りて」

かむだち

(名) 麴の古名。(和名抄)

かんだちべ

上達部(名) 三位以上の公卿。

かむたから

神寶(名) 「一」三種の神器。「二」神社の寶物。

がんだれ

雁垂(名) 漢字の冠の名。雁・灰・厭・厭などの

尸をいふ。

かんだん

感歎(名) 感賞歎美する事。△(動)―感歎す。

かんだん

肝膽(名) 肝と膽と。●心の底。●胸中。○「肝膽を碎き祈りけり」

かんだん

寒暖(名) 寒氣と暖氣と。

かんだん

間斷(名)

絶間。

かんだん

閑談(名) しづかに談話する事。△(動)―閑談す。

かんだん

談す。

かんだんをい

都野男(名) 能面の名。男性の神體な

かんだん

ごに用ふるもの。

かんだんけい

寒暖計(名) 氣候の寒暖を測る器。硝子

管に水銀又は酒精を充たし之に度を盛りた

かんだんし

るもの。華氏攝氏等の種類あり。感嘆詞(名) 文法上の詞。なげきの聲をあらはすもの。あなあらやあはれの類。

かんれい

寒冷(名) 寒く冷かなる事。

かんれいし

寒治紗(名) 織物の名。紗の一種。木綿絲にて織りたる下品なるもの。

かんそん

寒村(名) 貧村。●小村。

かんざう

檻舎(名) 監獄の小さきもの。

かんざう

諫争(名) 諫め争ふ事。●諫言。△(動)―諫争す。

かんぞう

甘草(名) 草の名。夏の頃花咲き葉と莖に毛あるもの。根を藥用とす。

かんざう

肝臟(名) 五臟の一つ。●胃に次ぎて消化を司るもの。

かんざう

質造(名) 偽物を造る事。●偽造。●質作。

かんぞく

奸賊(名) 奸人を惡みて呼ぶ詞。

かむつごひ

神集(名) 神の集會。(祝詞式)

かむつごふ

神集(他動下二段) 神を集會さする。(祝詞式)

かむつごふ

神集(自動四段) 神の集會をなす。(祝詞式)

かむつごふ

神集(自動四段) 神の集會をなす。(祝詞式)

かむつごふ

神集(自動四段) 神の集會をなす。(祝詞式)

かむつごふ

神集(自動四段) 神の集會をなす。(祝詞式)

かむつごふ

神集(自動四段) 神の集會をなす。(祝詞式)

かむつごふ

神集(自動四段) 神の集會をなす。(祝詞式)

かむつごふ

神集(自動四段) 神の集會をなす。(祝詞式)

式)

かむつごへ

神集(名)

神を集会とする事。(祝詞式)

かむつかさ

神官(名)

神に奉仕する人。●神主。●

かんつう

感通(名)

此方にて思ふ事の先方に感じ通する事。△(動)―感通す。

かんつう

姦通(名)

密通。●奸姦。△(動)―姦通す。

かんづく

勘付(他動四段)

氣の付く。(俗)

かむつまる

(自動四段)

神靈の永く鎮座する。●神の

かんねい

奸佞(名)

心のひがみてよこしまなる事。△

かんねぶつ

兼念佛(名)

兼中に念佛してあるく一種

かんな

鉋(名)

大工道具の名。木を削りて滑かにする

かんな

(名)

假名に同じ。

かんなべ

神嘗(名)

かみなめに同じ。

かむなべまつり

神嘗祭(名)

かみなめまつりに同じ。

かんなりのちん

雷陣(名)

昔し禁中にて南殿の前の御

庭を云ふ稱へ。公事根源に曰く「抑雷鳴の

陣さは昔雷の聲三度高くなり侍れば。大

將以下近衛の次將まで。弓箭を對して。御

殿の南殿の孫庇に候して。御門を守護し奉

りしなり。將監以下は。皆簀笠をして。同

じく南殿の前の庭にさぶらふ。これを雷鳴

の陣さは申すなり。大内の襲芳舍を。雷鳴

の聲さも申すにや。雷の聲さまれば。又

陣をさく儀式あり。延善の御宇に清涼殿の

霹靂さで。恐しきためしも侍るゆゑにや」

雷靈(名) 禁中襲芳舍の一名。

神直目(名) 神の名。世の禍を轉して吉

事にする事を掌る神。

(副) 「一」神さまし／＼て。●神の御身分

として。「二」神代のまゝに。●神代ながら

に。●(萬葉)

神無月(名) いみなづきに同じ。

艱難(名) 艱苦難達する事。●辛苦。△(動)

艱難す。

かんなくづ

鉋屑(名)

鉋にて削りたる木屑。

かむなぎ

巫覡(名)

神に奉仕する女。●神子。

かむなめ

神嘗(名)

神嘗祭の略。

かむなめまつり

神嘗祭(名)

其年の新穀もて作れる御酒御飯を供へて先づ伊勢大神宮を祭り給ふ朝廷の御祭典。昔は九月十七日。今は十月十七日。●しんじやうさい。

雁來紅(名) 草の名。葉鶏頭の一名。

嘲り笑ふ有様。●うら／＼に同じ。

熱帶植物の名。實は藥用とし又食用とす。●オリーフ。

かんらいこう

かんらかんら

かんらん

かんらく

かんむり

陷落(名) 落込む事。△(動)―陷落す

冠(名) 「一」頭に戴き又はかぶるもの。●かぶりもの。●かむり。●か／＼ふり。●二「昔

し貴族官吏神官等の朝服を着る時頭にかぶりたるもの。……神官は今もなほ袍を着る時着用す。●三「漢字の上部にあるもの、名

。安の上にあるなウカンムリといひ雲の上にあるなアマカンムリといふの類。

冠師(名) 冠を造る工人。

冠(名) かみ(長官)の役の人を尊びて呼ぶ

かんむりし

かんのとの

詞。

かんのぬし

(名)

かみ(長官)の尊稱。

かんのう

堪能(名)

藝術の上手。●△(形)―堪能なる。

かんなう

肝腦(名)

肝臟と腦髓と。

かんのくだり

上件(名)

前條。●上文。(大和)

かんのきみ

(名)

典侍の人の尊びて呼ぶ詞。(源氏)

かんく

艱苦(名)

艱難辛苦する事。

かんく

寒苦(名)

寒さの苦しき。

かんくひいまめ

雁噺豆(名)

野菜の名。豆の一種。色黒くして藤豆に似たるもの。

かんくろく

眼光(名)

「二」眼の光。●まなざし。○「眼光々々人を射る」「二」眼の力。○「眼光紙

かんくわ

干戈(名)

予と戈と。●戦争。

かんくわ

眼科(名)

「一」眼病に關する醫術。「二」眼科を専門とする醫師。

かんくわ

看官(名)

看客に同じ。●見物人。

かんくわ

岩窟(名)

岩屋。

かんくわ

雁首(名)

煙管の火皿のまゝ。

かんくわ

寒夜(名)

寒き夜。

かんくわ

神宿(名)

兜の名所。頂上のまゝにて八

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

かんくわ

幡座ばんざに同じ。

かんやがみ

紙屋紙(名)

かみやがみに同じ。(源氏)

かむやらひ

神逐(名)

神の所分にて放逐し給ふ事。

(記)

かんけい

奸計(名)

奸悪なる計略。●わるくみ。

かんげいこ

寒稽古(名)

寒中に行ふ技藝の練習。おもに聲音を發するものに云ふ。

かんけつ

簡潔(名)

簡にして厭味のなき事。△(形)―簡潔なる。(副)―簡潔に。

かんけつねつ

間歇熱(名)

病の名。●おこり。●瘡。●わらはやみ。

かんげん

諫言(名)

言を以て諫むる事。△(動)―諫言す。

かんげき

間隙(名)

透間。●隙。

かんげき

感激(名)

心に感じて奮發する事。●感奮。

かんぷ

姦夫(名)

姦通したる相手の男。●密夫。●まなごい。

かんぷ

姦婦(名)

姦通したる相手の女。●密婦。

かんぶつ

乾物(名)

乾したる植物性の食用品。椎茸、干瓢、昆布の類。

かんぶつ

奸物(名)

奸悪なる人物。●奸人。

がんぶつ

質物(名)

質造の品物。●偽物。

かんぶつや

乾物屋(名)

乾物を商ふ店。

かんぶん

漢文(名)

漢土の文章。●支那風の文章。

かんぶん

感奮(名)

感激奮起する事。●發奮。△(動)―感奮す。

かんぶんかく

漢文學(名)

支那の文學。

かんぷう

寒風(名)

寒き風。

かんぷく

感服(名)

感心して心より服する事。●感じ入る事。●敬服。△(動)―感服す。

かんぷくろ

紙袋(名)

紙の袋。

かんこ

神子(名)

かんなぎ。●みこ。

かんこ

紙子(名)

紙製の衣服。

かんこ

諫鼓(名)

支那にて堯の時。民に訴訟ある時は朝廷に出て、打ち鳴らし合鬪をする爲めに据ゑ置きたる鼓。……明王の代にはおのづから民の憂なれば。此鼓を打つ者もなく苦むしたるよし古來一つの故事として詩歌文章に作る。

かんご

漢語(名)

漢文漢字の音讀に用ふる支那語。

かんご

看護(名)

看病。△(動)―看護す。

かんごり

閑子鳥(名) 呼子鳥に同じ。

かんごり

寒垢離(名) 寒中に水垢離を取る事。神佛に

祈願を懸けてする行。

かんかう

刊行(名) 書物を印刷して發兌する事。●發

刊。●發行。△(動)―刊行す。

かんかう

勘考(名) 考ふる事。●熟考。△(動)―勘考

す。

かんこうじゆす

寒江繻子(名) 織物の名。繻子の一種。

綿絲にて織りたるもの。

かんごく

寒國(名) 寒氣の強き國。

かんごく

監獄(名) 牢屋。●ひこや。●圜圉。●牢獄。

かんごふ

看護婦(名) 病者の看護を業とする婦人。

かんごふ

寒聲(名) 謠、唄などの聲音を丈夫にせんと

て寒中に勉めて之を出し習ふ事。

かんてい

鑑定(名) 鑑査考定する事。●鑑識。●鑑別。

△(動)―鑑定す。

かんてい

潤底(名) 谷の底。

かんてい

函底(名) 函の底。

かんていりゅう

勘定流(名) 書體の名。芝居の看版番

附なごに用ふる書風。

かんてら

(名) 和蘭語より來る。◎ブリッキ製の燈器

かんてん

の名。●手らむぶ。

寒天(名) 寒中に製したる心太。煮て寄せ物

に用ふるもの。

かんあけ

寒明(名) 〔一〕層にて寒の明け終る事。〔二〕

寒の終りたる日。

かんあけ

髪揚(名) かみあけの音便。●結髪。

かんさ

監査(名) 監督檢査する事。△(動)―監査す。

かむさる

神去。●(自動四段) 神を爲りて此世を去る。

●藥去に爲る。●おっくれになる。〔古〕

かんさつ

鑑札(名) 其筋より下渡す營業許可の證札。

かんさつ

監察(名) 〔一〕監督視察する事。〔二〕監督視

察する役。●目附。

がんさつ

質札(名) 質造の紙幣。

かんざらへ

寒凌(名) 遊藝にいふ詞。寒稽古に同じ。

かんざらし

寒晒(名) 葛粉餛飩粉など寒中に晒したる

もの。

かんさん

閑散(名) 閑暇の多き事。

かんさん

漢讀(名) 漢文にて佛徳を讀せる歌。

がんさく

質作(名) 書畫などを質造する事。△(動)―

質作す。

かんさまし

爛冷(名) 一旦爛して冷ましたる酒。

かんざけ

爛酒(名) 爛をしたる酒。●かんしゅ

かむさぶ

(自動上二段) 古くして神々しく爲る。●神

様らしくなる。●神代時代の物らしくなる。

○萬葉「かむさぶる生駒の嶽」

かんざし

簪(名) 「一」昔し男子の冠を着る時その

上より横に挿して髻を貫き留め

たるもの。「二」中古貴婦人の髪

あぐる横に挿したるもの。(圖)

……寶髻の圖を参考せよ。(三)

現今婦人の髪飾に挿すもの。其種類多し。

かんざし

(名) 髪を生えた。●かみつき。○源氏類

つきかんざしいみじう美し」

かむさび

(名) かみさびに同じ。古く神々しき事。○

萬葉「岩の神さび」○萬葉「こししかも岩

のちむさび玉きはる邊世へにけん」

かんき

寒氣(名) 寒さ。●寒き氣節。

かんき

勘氣(名) 勘當に同じ。

がんき

雁木(名) 木また石の階段。

かんき

閑居(名) 閑靜なる住居。

かんぎ

寒行(名) 僧侶又は行者などのする寒中

の修行。

かんきん

看經(名) 讀經。

がんきん

寶金(名) 寶造の貨幣。

かんきく

寒菊(名) 菊の一種。冬花の咲くもの。

かんきふ

感泣(名) 感心して泣く事。●有難涙を

かんきう

こぼす事。△(動)―感泣す。

かんき

眼珠(名) 目玉。

かんゆ

肝油(名) 藥品の名。鱈の肝より製したる油。

かんゆう

肺病を治するに用ふ。

かんめい

姦雄(名) 姦惡なる英雄。●惡に長じたる人。

かんめい

簡明(名) 簡略にして明白なる事。△(形)―

かんめい

簡明なる。(副)―簡明に。

かんめい

漢名(名) かんみきうに同じ。

がんめん

顔面(名) 顔。●おもて。

かんみ

甘味(名) 甘き味。

かんみ

漢名(名) 漢土にて呼ぶ名稱。……和名

かむさび

に對していふ。

かむさび

神御衣(名) 神に奉る衣服。(記)

かむさび

神衣祭(名) 官祭の名。神御衣を織り

て伊勢大神宮に奉る祭。四月九月の兩度に

かむさび

あり。神皇產靈(名) 神の名。造化三神の一つ。

かんし

千支(名) えとに同じ。十千十二支。

かんし

庚申(名) かうしんに同じ。○公任集「九月つ

くる日かんしなるに」

かんし

監視(名) 「(一)監督視察する事。△(動)―監視

す。(二)現今刑罰の名。懲役又は禁錮の附

加刑にして其期限内は其筋の監視を受くべ

きもの。

かんじ

感(名) 感ずる事。●感覺。

かんじ

幹事(名) 世話役。●委員。

かんじ

漢字(名) 支那の文字。●すなはち我國にて行

はるゝ假名の外の普通文字。

かんじ

勘事(名) 勘當に同じ。

かんじ

柑子(名) かうじに同じ。

かんじ

寒(名) 寒き事。(俗)

眼字(名) 詩文にいふ詞。其篇其句の中の眼目

かんじ

感入(自動四段) 深く感心する。

かんし

漢書(名) 漢土の書籍。●漢籍。

かんし

寒暑(名) 寒と暑と。又夏と冬と。

かんし

閑所(名) 閑靜なる場所。

かんし

甘藷(名) 野菜の名。薩摩芋。

かんし

雁書(名) 手紙。○昔し漢の蘇武が雁に書面を

附けて胡國より故郷に贈りしさいふ故事に

よみて云ふ。

かんし

感賞(名) 心に感じて賞美する事。△

(動)―感賞す。

かんせ

干涉(名) 世話をやく事。●掣肘。△(動)

―干涉す。

かんし

痼症(名) 痼の病。●痼癢。

かんし

奸商(名) わるがしこき商人。

かんじ

感情(名) 感じたる心。●氣受。●心持。

かんじ

感狀(名) 昔し陣中にて軍功のありし將

士へ大將より感賞すべき旨を記して授與せ

かんじ

し文書。

かんじ

勘狀(名) 陰陽師の天變などに關し未來

の吉凶を占ひ定めて奏聞する書面。●かん

かんじ

岸上(名) 岸の上。

かんせ

岩礁(名) 海面に顯はれたる岩石。

かんし

乾生薑(名) 生薑を乾して細末にした

るもの。藥味に用ふ。

かんし

感觸(名) 物に觸れての感じ。

かんしよく

間色(名) 五色以外の色を云ふ。緑。紫。茶。樟

などの類。

がんしよく

顔色(名) 「一」顔の色。「二」顔付。

かんしん

感心(名) 心に感じて賞する事。●感服。●

感謝。△(動)―感心す。

かんしん

甘心(名) 心に甘んずる事。●満足。△(動)

―甘心す。

かんしん

寒心(名) 心にびく／＼する事。●ひや／＼

する事。△(動)―寒心す。

かんしん

奸臣(名) 奸悪なる臣下。

かんじん

肝腎(名) 人體に於ける肝腎の如く物事の必

用なる事。●肝要。●緊要。△(形)―肝腎

の。

かんじん

奸人(名) 奸悪なる人。●奸者。

かんし

感謝(名) 心に感じて深く謝する事。△(動)―

感謝す。

かんし

甘蔗(名) 草の名。砂糖黍。

かんし

檻車(名) 罪人を載する車。●罪人の乗物。●

網乗物。

かんじ

間者(名) 廻し者。●間諜。

かんしよく

痛癢(名) 病の名。癩の高まるもの。●癩癬。

かんじやく

閑寂(名) しづかなる事。(方丈記)

かんしき

鑑識(名) 鑑定識別する事。●鑑別。

かんじき

橋(名) りじきに同じ。雪國にて雪中に行く、

時足に纏ふもの。

がんしき

眼識(名) 眼を以てする鑑識。

かんし

看守(名) 「一」見張り番をする事。△(動)―看

守す。「二」見張番をする人。「三」現今監獄

に屬する官吏の役名。

かんし

爛酒(名) 爛したる酒。●かんざけ。

かんし

甘州(名) 雅樂の曲名。

かんし

感秋樂(名) 雅樂の曲名。

かんび

坎日(名) かんにちに同じ。

かんび

雁皮(名) 灌木の名。此皮より雁皮紙を製す。

かんべ

干瓢(名) 乾物の名。夕顔の實を細く長く

切りて干したるもの。

かんび

看病(名) 病人の介抱。●みさり。●看

護。△(動)―看病す。

かんび

眼病(名) 眼の病。

かんび

看病人(名) 看病する人。

かんび

雁皮紙(名) 雁皮より製したる紙。薄くして

滑かなるもの。

かんもち

寒餅(名)

寒中に搗く餅。

がんもどき

雁擬(名)

食品の名。油揚げに切昆布などを入

れたるもの。

かむもりのつかさ

掃部察(名)

かもんれうを見よ。

かんもん

勘文(名)

勘狀に同じ。●かんがへぶみ。

がんもく

眼目(名)

最も重要な點。

かんせい

閑靜(名)

しづかなる事。●△(形)―閑靜な

る。(副)―閑靜に。

かんせい

寒製(名)

寒中の製造。●寒晒。

かんせい

寒生(名)

貧乏人。

かんせい

陷阱(名)

陥し穴。

かんせいらく

感城樂(名) 雅樂の曲名。

かんせつ

間接(名)

直接に對していふ詞。物事の一つ

隔て―關係すること。(形)―間接なる。(副)

―間接に。

かんぜん

感染(名)

感に染まる事。●感化。△(動)―

感染す。

眼前(名)

眼の前。●目前。

かんぜんひ

閑清縫(名)

袋物の端などの縫ひ方の

名。糸を見せて打ち違へに縫ひたるもの。

◎閑清といふ人の創めし故の名。

かんせんす

間然(他動サ變)

非難を入る。●缺點を

見出す。○間然することろなし」

かんせき

漢籍(名)

漢土の書籍。●漢書。

がんせき

岩石(名)

岩石。●磐。

かんせみ

寒蟬(名)

冬になりて鳴く蟬の一種。

かんす

箴(他動サ變)

箴むる。

かんす

監(他動サ變)

監督する。

かんす

間(他動サ變)

離間する。

かんす

爛(他動サ變)

爛をする。

かんす

緘(他動サ變)

封する。●さちる。

かんす

刊(他動サ變)

刊行する。

かんす

姦(他動サ變)

姦淫する。

かんす

感(自動サ變)

知覺によりて感得する。●心に

感ずる。●感心する。

かんす

寒(自動サ變)

寒さの身にしむ。

かんす

勘(他動サ變)

勘當する。

かんす

酬逢(名)

草の名。其根は赤色にして大さ蠶

豆の如く藥用として水腫を治するもの。

かんすゐらく

酬醉樂(名)

雅樂の曲名。

かんすゐせき

寒水石(名)

礪石の名。大理石の一種。

多くは常陸より産するもの。

かう

コウと發音する詞はこの部にあり。

かの

彼(代)

かれを名詞の前に置く時の詞。●あの。

かのにけぐさ

(名) 人參の古名。(和名抄)

かのこ

辛(名) 十千の八つ目。●しん。

かのわかづ

鹿若角(名)

新に生ひたる鹿の角。

●鹿

茸。(和名抄)

かのよ

彼世(名)

死して行く先き。●あの世。●來世。

かのたま

鹿の玉(名)

菌の一種。

かのつめぐさ

鹿瓜草(名)

田芹の一名。

かのこ

鹿子(名)

〔一〕鹿の子。〔二〕鹿の毛の如き斑紋。

〔三〕鹿子絞。

かのこぞめ

鹿子染(名)

鹿子絞に同じ。

かのこまたらに

(副)

鹿の毛の斑紋の如くまだらに。

○古今「時知らぬ山は富士のれいつまでか
鹿の子まだらに雪のふららん」△(形) か

のこまだらの。

のこまだらの。

かのこゆひ

鹿子結(名)

鹿子絞に同じ。

かのこゆり

鹿子百合(名)

草の名。百合の一種にして

白色なる花に鹿子絞の如き紅色のあらはれ

たるもの。異名は。……翁百合。●白玉百

合。

かのこめゆひ

鹿子目結(名)

鹿子絞に同じ。

かのこしぼり

鹿子絞(名)

絞り染の一種。鹿の子の毛

の如き斑紋をなしたるもの。●鹿子染。●

鹿子目結。●鹿子結。

かのこもち

鹿子餅(名)

餅菓子の名。餡餅のまはりに

豆をつけたるもの。

かのえ

庚(名)

十千の七つ目。●かう。

かのきし

彼岸(名)

〔一〕向河岸。〔二〕佛の國。●迷な

去つて悟を得る事。……ひがんを見よ。○

賴政集「かの岸を願ふ心やしるからんうれ

しくのする法の舟かな」

かのめ

(名)

かなめに同じ。○「扇のかのめ」(雅)

がのみ

(名)

やげざけ。(俗)

かのしし

(名)

鹿の古名。

かく

角(名)

〔一〕かど。●かどのある物の形。●四角。

●方形。〔二〕音楽上の詞。五音の一つ。〔三〕

星の名。二十八宿の一つ。〔四〕將棊の駒の

名。〔五〕馬術の詞。馬を進行させるため鐙

にて蹴る事。〔六〕角板にて作りたる鐵炮の

的。

かく

客(名)

きやく。

かく

各(形)

おの／＼の。○「各學校」各組合」

かく

格(名)

●(一)規則。●法式。●(二)くらぬ。●身分。

●程度。

かく

閣(名)

高殿。●樓。

かく

痛(名)

病の名。||胃痛に同じ。

かく

書(他動四段)

●「一」筆にてしるす。●「二」文を作る。

かく

●著述する。

かく

昇(他動四段)

與、駕籠などを擔ふ。●かきつぐ。

かく

搔(他動四段)

●「一」爪先にて物を引き寄する如き

動をいふ。●かきのくる。●かきわくる。

●かき切る。●塵、落葉、雪などをかき捨つ

る。●琴などを弾く。●「二」意味無く他の動

詞の前に置く。○「かきありく」「かきみだ

かく

掛。懸(他動下二段)

物事的一端を依りかゝらす

る。●彼と此と兩方に物事を附着せしむる。

●「一」此方より彼方に働を及ぼす。●「二」念頭

に置く。○「かけてお戀ふる」●「三」言葉にの

する。○「かけまくもかたじけなし」●「四」か

いぐる。●「五」かぶらす。●かぶせる。●「六」

兼ねる。●兼務する。○空穗「むかし式部

かく

缺。欠。闕(他動四段)

物事を不足させる。

かく

缺。欠。闕(自動下二段)

物事の不足になる。

かく

(他動四段)

●組み立つる。●構造する。○「巢を

かく

虧(自動下二段)

月の形の圓からぬ様になる。

かく

斯(副)

此の如く。●かやうに。●こんな

かく

家具(名)

家の中の諸道具。

かく

下愚(名)

最も愚なる事。又最も愚なる人。

かく

加供(名)

供養にかはる事。(大鏡)

かく

鹿(名)

獸の名。しかの古名。

かく

嗅(他動四段)

嗅官によりて香臭を知る。

かく

額(名)

●「一」建物の裝飾また看板として書畫など

を板又は紙に記して高く掲ぐるもの。●額

面。●「二」徳川時代に行はれたる一分銀。●其

形の額に似たる故の名。●「三」物の多寡。●多

さ。○「金額」輪出入の額」

かく

樂(名)

〔一〕音樂。〔二〕特に雅樂。〔三〕又雅樂にて舞と區別して鳴物のみを云ふ事もあり。〔四〕能樂にて一種の舞曲。雅樂に擬したるもの。〔五〕芝居にて一種の囃子。箏篋笙などを用ふるもの。

かく

學(名)

〔一〕學問。●學術。〔二〕學校。隔意(名) 隔つる心。●隔心。

かく

學位(名)

學問上の位。博士大博士の類。

かく

額板(名)

〔一〕額の板。●額に用ふる板。〔二〕鐙の小手に附屬したる一種の飾。

かく

闇老(名)

徳川時代の詞。老中の一名。

かく

隱(自動四段。又下二段)

隠るに同じ。○源氏

「かの浦にしづやかにかくるふべき隈侍りなんやし」

かく

(形。形狀言ク活)

黒しに同じ。○萬葉「蟬のこさかくろき髪」

かく

學派(名)

學問上の分派。

かく

各盃(名)

宴席にて各自別々に盃を控へ居る事。献酬の勞を省くための方法。

かく

隔晩(名)

一晚置き。

かく

隔番(名)

代り合ふ事。●かばりばん。

かくばん

額判(名)

貨幣の名。額に同じ。

かくはし

芳(形。形狀言シク活)

かうげしに同じ。●

●伶人。

かくぼ

覺母(名)

正覺を得せしむる母親の意。佛菩薩をいふ。○謠曲「一萬文珠三世の覺母たり」

かくぼく

學僕(名)

下男として働らきながら學問する人。

かくべつ

格別(副)

格外。●格段。(又)格別に。△(形)格別なる。格別の。

かくべゑし

角兵衛獅子(名) 越後獅子の一名。子供獅子頭を被りて種々の輕業を演じつゝ錢を乞ひあるくもの。

かくど

角度(名)

直線と直線との行き合ふところ。

かくど

赫怒(名)

甚しく怒る事。●憤怒。△(動)赫怒す。

かくどう

學頭(名)

教頭。●校長。

かくどう

樂頭(名)

役。〔一〕能樂にて奏樂する時の第一役。〔二〕能樂にて其流儀の弟子頭。

かくどころ

樂所(名)

かくそに同じ。

かくり

隠(名)

かくれに同じ。●かくるゝ事。●かけ。

かくりよ

隠世(名)

目に見えぬ世界。●神の國。●死して行く國。

かくれ

學寮(名)

學校の寄宿所。●塾舎。

かくりやう

學令(名)

大寶令の一部。學事に關する法令。

かくりよく

學力(名)

學問の力。

かくりき

脚力(名)

飛脚。○東鑑「脚力到來」

かくる

隱(自動下二段。古は四段)

「一」他に見えぬ様になる。「二」死ぬる。おもに敬語として用ふ。○「かくれさせ給ふ」

かくツカ

閣下(名)

貴人を指して呼ぶ詞。○「知事閣下」

かくが

「師團長閣下」

覺賀(名)

鳥の名。鶉の古名。

かくかく

斯斯(副)

かやう／＼。(又)「かく／＼」

△(形)かく／＼の。

かくツかく

赫々(副)

きら／＼輝く有様。△(又)「赫々」

△(形)「赫々たる」

かくよふ

(自動四段)

「自働四段」

かくたいこ

樂太鼓(名)

雅樂に用ふる太鼓。多くは頂に火燭あり。(圖)

かくだん

格段(副)

格別。

●格外。(又)「格段に。△(形)」

「格段なる」

類堂(名)

神佛に奉納せる額面を掲げ置く建物。●繪馬堂。

かくだう

隱(名)

隠るゝ事。●陰。

かくれい

學令(名)

學制。

かくれい

學齡(名)

文部省令に依りて定められたる子女就學の年齡。

かくれいは

隱岩(名)

水中に隠れ居る岩。●暗礁。

かくれは

隱塙(名)

隠れ場所。●隱所。

かくれぼう

(名)

隠れんぼうに同じ。

かくれぬ

隱沼(名)

草木などにおほはれて底に隠れたる沼。○月詣集「かくれぬに洗む蛙は山吹の花の折こそ音を鳴かれけれ」

かくれが

(名)

隠れ場所。●隱遁して住む家。

かくれがさ

隱笠(名)

「一」俗説に傳へたる寶物の名。之を被りたる人は他の目に見えずなるさいふもの。「二」模様を用ふる形。隱笠を想像して造りたる物。



かくれつま

隠妻(名) 密婦。(六帖)

(名) 小兒の遊戲の名。一人を鬼さし他は物陰に隠れ居て捜し出されたる物を更に鬼とするもの。

かくれごと

隠事(名) 小兒の遊戲の名。隠れんぼうに同じ。

かくれあそび

隠遊(名) 小兒の遊戲の名。隠れんぼうに同じ。

かくれみち

隠道(名) 間道。●抜道。

かくれみの

隠簀(名) 「一」俗説に傳へたる寶物の名。

之を纏ひたる人は他の目より見えなくなるさ
いふ物。「二」模様を用ふる簀の形。隠簀を
想像して造りたるもの。

かくそ

樂所(名) 舞樂の時に音楽を奏するところ。●

樂屋。(源氏)

かくさう

學生(名) がくせい。●書生。(雅)

かぐづち

迦具土(名) 「一」火の神の名。●ほむすび。

「二」火。○「かぐづちの荒び」……火事のこ
と。

かくねん

隔年(名) 一年置き。

かくねん

客年(名) 去年。●昨年。

かくねん

學年(名) 學校にて特に定めたる一年間。

かくねん

愕然(副) がくぜんに同じ。

かくなわ

結果(名) 古代菓子の名。……かくのあわな
見よ。

かくなわに

(枕) かくなわさいふ草子は緒を結びたる
形したるものなれば其如くの意にてみだる
むすぼるなご緒に縁ある詞にいひかくる枕
詞。○古今「かくなわに思ひ亂れて」

かくなわの

(枕) かくなわにさ同じ意の枕詞。○風雅
「かくなわのさにもかくにもむすぼいれつ
し」

かぐら

神樂(名) 「一」すべて神事の時に奏する歌舞音
樂。●かみあそび。「二」特には禁中内侍所
にて年々十二月に行はせらるゝ御神樂をい
ふ。「三」神樂歌の略。「四」能樂にて一種の
舞曲。神子の舞ふ神樂に擬したるもの。

かぐらつき

神樂月(名) 十一月の異名。

かぐらうた

神樂歌(名) 中古歌曲の一種。内侍所の御
神樂に用ふるもの。

かぐらぶえ

神樂笛(名) 神樂の樂器。特に神樂に用ふ
る横笛。

かぐらびど

神樂人(名) 神樂を奏する人。

かぐらすず

神樂鈴(名) 鈴の一種。小さき鈴を針金に

て列ね柄を附けたるもの。

かぐん

家訓(名) 家庭の教訓。

かぐん

家君(名) 吾父。

かぐむ

圖(他動四段) かぐむに同じ。(古)

かぐふ

圖(他動四段) かぐふに同じ。(古)

かぐのこのみ

香木菓(名) 櫛の古名。……さきじくの

かぐのこのみを見よ。

かぐのあわ

結果(名) 古代菓子の名。緒を結びたるが

如き形のもの。新嘗祭などに用ふ。(和名抄)

かぐのみ

香實(名) かぐのこのみに同じ。

かぐくわ

學科(名) 學問の科目。

かぐくわい

格外(副) 通例以外。●格段。●格別。(又)

―格外に。△(形)―格外なる。

かぐくわん

客觀(名) 哲學上の詞。主觀の對にて總て

白己以外の有形無形の對象をいふ。

かぐくわん

學館院(名) 文德天皇嘉祥三年の創立

に係る橘氏の學校。……後橘氏衰ふるに及

び藤氏之を管せり。

かぐや

樂屋(名) 「一」雅樂にては舞臺の後に在りて音

かぐやくど

樂を奏するところ。「二」能樂芝居にては舞

臺より見えぬ處に在りて役者の身ごしらへ

を爲し又休息などするところ。「三」物事の

裡面。●内幕。

かぐまふ

赫奕さ(副) 光り輝く有様。盛衰「光明

かぐまふ

角膜(名) 解剖學の詞。眼球の前面にありて

かぐまふ

時計硝子の如くなるもの。

かぐまふ

脚氣(名) 病の名。濕氣より起りて多くは足部

かぐまふ

に水腫を來し惡性なるものは衝心するに至

かぐまふ

る。

かぐまふ

隔月(名) 一月置き。

かぐまふ

客月(名) 先月。●去月。

かぐまふ

格言(名) 法則とすべき言語。●金言。●名

かぐまふ

覺悟(名) 「一」覺り知る事。「二」事の起る前より

知りたる事。●豫知。「三」用意。●豫備。

……△(動)―覺悟す。

かぐまふ

格勤(名) 勤(勤)の略。

かぐまふ

恪勤(名) 「一」公務に勤勉なる事。●奉務。

●勤務。●勤仕。(令義解) △(動)―格勤す。
 「二」武家時代の役名。將軍外出の時前駈扈
 從する役。

かくごう

格勤(名) かくごんに同じ。(空穗)

かくくかう

學校(名) 學問を教授する所。●學問所。

かくくこく

各國(名) 各國。●諸國。

かくくえり

角襟(名) 裝束にいふ詞。たりくびに同じ。

かくて

(副) かくあつて。●そして。

かくてい

確定(名) たしかに定まる事。△(動)―確定す。

かくさい

客歳(名) 去年。●昨年。

かくさい

學才(名) 學問上の才氣。

かくさふ

(他動四段) 隠すに同じ。○萬葉「つばら
 にも見さけむ山を。心なく雲のかくさふべ
 しやし」

かくき

客氣(名) 血氣。●俠氣。

かくき

學期(名) 學校にて一學年中の細別。

かくき

樂器(名) 音樂の器械の總名。●鳴物。

かくき

鰐魚(名) 魚の名。わに。

かくげふ

學業(名) 學問。●學術。

かくきよく

樂曲(名) 音樂の曲。

かくめい

革命(名) 「一」政體の大改革。「二」陰陽家に
 て辛酉の歳の稱。此歳には變亂の起るを傳
 へ言ふ。

へ言ふ。

かくめん

額面(名) 額に同じ。

かくめん

樂面(名) 舞樂に用ふる假面。

かくみ

園(名) かくみに同じ。

かくし

隱(名) 洋服などに縫ひ附けて袂の代用とする
 一種の袋。手拭、紙入など入るゝに用ふ。

かくじ

角字(名) 漢字の書體。篆書を一變して正方形
 に書きなしたるもの。現今職人の印半纏な
 どに用ふ。

かくじ

各自(副) 名々自分自分に。

かくじ

學士(名) 「一」學者。「二」特には大學卒業生の
 稱號。

かくじ

稱號。

かくじ

隱所(名) 隠すべき所。●妾部。

かくし

隱男(名) まなご。●密夫。(宇治)

かくし

學生(名) かくせい。(雅)

かくし

隱田(名) 租税を免かれて居る秘密の田地。

かくし

隱頤(名) 和歌にて或る言葉を他の言葉の
 中に表面から知れぬやうによみ入るゝ事。

かくし

古今集に笹松枇杷芭蕉葉を入れて

かくし

……古今集に笹松枇杷芭蕉葉を入れて

「いさいめに時待つ間に今日は経ぬる心ば
せなは人に見ゆつゝさよめるの類。●物
の名。

かくじつ

隔日(名) 一日置き。

かくしん

革新(名) 政體の改革。……おもに歴史上大

化の時の名稱ふ。

かくしん

隔心(名) 隔て心。●隔意。

かくし

客舍(名) 旅宿。

かくし

學者(名) 學問に通じたる人。

かくし

隱窓(名) 外より見ぬ様に造りたる窓。

かくし

隱語(名) 相手の外には分らぬ様にした

る詞。●暗號。

かくし

隱繪(名) 外見の他に又或る物を畫がき込み

たる繪。●搜し繪。

かくし

格式(名) 「一」格定の法式、儀式。「二」位。●

身分。●資格。

かくし

隱女(名) 妾。

かくし

隱目附(名) 武家時代の詞。それになし

に附け置く間諜。●隱密。

かくし

學術(名) 學問。●學藝。

かくし

各宗(名) 佛法の諸宗旨。

かくじもの

鹿自物(副) 鹿の如く。かくじものに同

かくし

じ。(古)

かくし

隱勢(名) 隠し置きて不意に打掛かる軍

勢。●伏兵。

かくひつ

欄筆(名) 筆を置く事。●書く事を止むる事。

かくもり

●かきさめ。●筆さめ。△(動)―欄筆す。

かくもり

角盛(名) 武家禮式にて飯の

かくもん

盛方の名。(圖)

かくもん

學問(名) 學術。●學藝。●

かくもん

學科。●學。●まなび。●

かくもん

ものまなび。●修學。△(動)―學問す。

かくもん

學問所(名) 學問する所。●學校。

かくもん

學生(名) 「一」學問修業中の人。●生徒。●

かくもん

書生。「二」特には現今大學の生徒。

かくもん

學制(名) 學校教育に關する制度。

かくもん

隔絶(名) かけ離るゝ事。●遠く隔たる事。

かくもん

△(動)―隔絶す。

かくもん

學說(名) 學問上の論說。

かくもん

愕然(副) 驚く有様。(又)―愕然と。

かくもん

隱(他動四段) 「一」他に知れぬ様にする。「二」

かくす

學(自動サ變)

まなぶに同じ。○徒然「道を學

する人」

かや

蚊屋(名)

蚊を防ぐため寢床に覆ひ垂るゝもの。

麻にても木綿にても作る。●蚊帳。

かや

茅。萱(名)

薄、刈萱、ちがや、菅などの類の總名。

葉の先きするごくして觸るれば手を切るべく。昔より屋根を葺くに用ひらるゝもの。

かや

榧(名)

木の名。其葉は尖りて綠色濃く。實より搾りたる油は食用に適し。材は水槽など作るに適するもの。

かやり

蚊遣(名)

蚊遣火に同じ。

かやりび

蚊遣火(名)

蚊を逐ふ爲に燻す烟。●蚊いぶし。

かはは

萱原(名)

萱の生にたる野原。

かやがひ

榧貝(名)

貝の名。榧の實に似たもの。

かやかや

(副)

「一」笑ふ聲。●から／＼。●はい／＼。

「二」人々の騒ぎ立つる聲。●かや／＼。△

(又)「一」かや／＼。△

がやがや

(副)

人々の騒ぎ立つる聲。(又)「一」がや／＼。

かやつ

彼奴(代)

人を輕蔑して呼ぶ詞。あいづ。●きや

かやつりぐさ

つ。

蚊屋釣草(名) 莖の三角なる草の名。小

兒の裂きて蚊屋を釣りたる如くして玩ぶもの。

かやむしろ

萱庭(名)

萱にて織りたる庭。

かやのじやうだう

伽耶成道(句)

伽耶は印度の地名。此地にて釋迦佛道を成就せしを云ふ。

かやく

加藥(名)

食品に香味を添ふるための具。●藥味に同じ。

かやく

加役(名)

助役。●補助。

かやくぐり

萱潜(名)

かやくきに同じ。

かやくき

雀鷄(名)

鳥の名。鶉に似て羽に斑なき小鳥。

●異名は。……かやくりり。●ぼさしき。

(和名抄)

かやや

萱屋(名)

萱葺の屋根。又は萱葺屋根の家。

かややね

萱屋根(名)

萱葺の屋根。

かやま

萱間(名)

屋根を葺きたる茅の透間。○萬代「春

くれば軒のかやまの雨そいざし」

かやぶ

萱生(名)

萱の生にたる所。●萱原。

かやぶね

萱船(名)

刈りたる萱を積みたる舟。

かやぶき

萱葺(名)

屋根を萱にて葺く事。又その葺き

たる屋根。

かやすし

(形。形狀言ク活) たやすし。●輕々し。

かま

釜(名)

「一」鐵又は唐銅にて造り湯を沸かし又は飯を炊くに用ふる具。「二」特に茶の湯に用ふる湯釜。「三」瀧罐。

かま

竈(名)

かまごに同じ。●釜を据うる所。

かま

鎌(名)

草を刈り又小枝など伐るに用ふる刃物。

かま

蒲(名)

草の名。水邊に生じて夏穗を出だし花咲く。其形矛の如くにて茶褐色なるもの。●かま。

かま

喧(感)

かまびすしの略。◎人を制止する時の感詞。●あいやかまし。●靜にせよ。○源氏

がま

蒲(名)

「あなひま人に聞かすな」

がま

蝦蟇(名)

草の名。●かまに同じ。兩棲動物の名。蛙の一種にて疣多く大なるもの。

かまひい

構(名)

徳川時代刑罰の名。追放。

かまいり

釜煎(名)

熱湯を盛りたる釜に罪人を投ずる

かまいたち

鎌鼬(名)

旋風などの時動搖せる空氣の作用により人體の皮膚破れて急に出血する事

あるを云ふ。昔し妖怪の所爲なりと妄信したるよりの詞。

かまひいて

構手(名)

構ひくるゝ人。●取り合ふ人。●

がまはばき

蒲厘巾(名)

世話をしてくるゝ人。(俗)厘巾の一種。蒲の葉にて編みたるもの。

かまばらひい

竈祓(名)

「一」竈の神の前にてする祓。「二」之を執行する神主。

かまはやぶさ

鎌隼(名)

鳥の名。隼の一種。鎌の如く鋭き羽あるもの。

かまぼこ

蒲鉾(名)

魚の摺身を板に塗り附け半月狀にして茹で又は焼きたるもの。

かまぼこなり

蒲鉾形(名)

蒲鉾に似たる形。●半月狀。

かまど

竈(名)

釜又は鍋を掛けて火を焚く所。●へつひ。●かま。●くど。

かまどり

釜取(名)

昔し武官の冠に附きたる綬の一名。おいかけ

かまどの

竈殿(名)

「一」禁中にて供御の飯など炊くところ。「二」神樂歌の曲名。

かまどのかみ

竈神(名)

竈を守る神。●荒神。

かまどめ

鎌止(名)

秣場に鎌を入るゝを禁ずる事。●

草刈禁止。

かまち

框(名) 家の床の端の横木。

かまち

(名) 「一」骨の名。領の上下にあるもの。「二」

車の名所。兩脇にある木。

がまあふぎ

蒲扇(名) 蒲を編みて造れる扇。(和名抄)

かまかまし

(形。形状言シク活) かまびすし。●やかまし。(字鏡)

かまつか

鎌柄(名) 鎌の柄。(和名抄)

かまつか

鴨頭草(名) 螢草の一名。

がまん

我慢(名) 「一」我より上なしといふ慢心。(佛

教)「二」強情。●負けぬ氣。「三」忍耐。(俗)

がまじしろ

蒲筵(名) 筵の一種。蒲にて織りたるもの。

かまふ

構(他動下二段) 「一」組み立つる。●構造する。「二」用意する。●準備する。

かまふ

構(自動四段) 「一」世話する。●關係する。●干渉する。●取り合ふ。「二」追放する。

かまのかみ

電神(名) 電を守る神。●荒神。

がまのさう

(名) 降魔の相の意にて惡魔を降服さする

不動尊の如き恐ろしき顔付を云ふ。○源氏

「がまのさうを出たしてつそ見奉りつれば、

いさむくつけくげすくしき女とおぼし

かまく

感(自動下二段) 感心する。●感動する。○萬

葉「はしきやし翁の歌におほしく九兒

等やまけて居らむ」

がまぐち

蝦蟇口(名) 錢入の一種。蝦蟇の口の如き形

して口の大なるもの。

かまくらぼり

鎌倉彫(名) 彫刻にいふ詞。唐草唐花な

ぎな菱合に彫りて朱青黒等の漆にて彩色し

かまくらえび

鎌倉海老(名) 海老の一種。伊勢海老の

一名。

かまくび

鎌首(名) 蛇の走る時鎌の如き形に首を持ち

上ぐる事。○著聞「やなさいふ蛇ありけり。

云々。かまくびを立てい」

かまや

釜屋(名) 「一」釜を置くところ。「二」釜を造る

家。又は賣る家。

かまやり

鎌鎗(名) 武器の名。鎗の一種。又に枝ある

もの。

かまへ

構(名) 「一」組み立て方。●構造。●結構。「二」

用意。●仕度。●準備。

かまへて

(副)

必ず。●屹度。○今昔「かまへて之が

(琵琶を)弾くを聞かんと思ひて」謡曲「か

まへて御覽じ候ふな」

釜木(名)

薪に同じ。

かまきり

蟬螂(名)

虫の名。細長くして翅薄く兩手に

鎌の如きものありて小虫を捕へ食ふもの。

●たうらう。

かまゆで

釜茹(名)

釜煎に同じ。

かまめ

(名)

鳥の名。鷗の古名。○萬葉「海原はかま

め立ち立つ」

がまし

(形。形狀言シク活)

名詞の後に直に置く詞。●

らしい。●めいて居る。○「晴れがまこ」不

平がまし」

かましき

釜敷(名)

「一」釜を置く時下

に置く輪。藁などにて造れ

るもの。「二」紋の名。(圖)

かましし

鹿鹿(名)

獸の名。●かし

いに同じ。

かまび

釜日(名)

茶の湯を催す定日。○釜を掛くる日

の意。

かまびすし

喧。囂(形。形狀言シク活)

やまし。●カ

かます

梭魚(名)

魚の名。身圓くして口尖り。色は銀

の如くにして味淡美なるもの。

かます

吠(名)

穀物など入るゝ一種の袋。莖を縫ひて

造りたるもの。

かけ

賭(名)

勝ちたる人が物を得る約束にてする勝負

事。

かけ

缺。欠。闕。虧(名)

「一」かくる事。「二」かけたる部

分。「三」かけたる小片。●破片。

かけ

駈(名)

馬術の詞。駈足。

かけ

掛。懸(名)

かくる事。●かけたるもの。

かけ

(名)

鷄の古名。○記「庭つ鳥かけは鳴く」

かけ

陰(名)

光線の直射せぬ所。●人に見ぬ所。

かけ

蔭(名)

他人の助け。●恩。

かけ

影(名)

「一」光り。○「月影」「日影」「星の影」「二」

光の反射。●反映。○「見し夜の火影」「花の

夕かげ」「三」實體に應じて他にうつる形。

○「鏡の影」「水の影」

かけ

鹿毛(名)

鹿に似て茶色なる馬の毛。

かけ

崖(名)

切り岸。●絶壁。●斷岸。

かけい

家兄(名)

吾兄。

かけい

家計(名) 家の生計。●活計。

がけい

雅兄(代) 手紙にて先方の人(男)を敬して云ふ

詞。

かけいり

駈入(名) 新參。●今參。

かけろ

(感) 鶏の鳴聲。○神樂歌「にはさりはかけろ

と鳴きぬ」

かけろひ

陽炎(名) かきろひに同じ。

かけろふ

蜻蛉(名) 「一」虫の名。さんば。「二」特には

蜻蛉の一種にして小さく美しきもの。「三」

蜉蝣の一名。

かけろふ

陽炎(名) かけろふ、かきろひに同じ。

かけろふ

(自動四段) 「一」かけるに同じ。「二」影の如

くになりて消ね失する。○謡曲「聞けば姿

も黄昏に。かけるふ人は如何ならん。」

かけろふの

(枕) かきろひのに同じ。

かけはなる

懸離(自動下二段) 遠く離る。隔絶する。

かけばん

懸盥(名) 古へ饗膳の時など

食器を据ゑて出だせる丸形

の臺。現今の膳。(圖)



かけはし

(名) 「一」(梯)はし。(和名抄)「二」(棧)山

腹。川岸などに板などを渡して假初に造りた

かけにんぎやう

る路。●棧道。

かけぼふし

影人形(名) 寫繪に同じ。●幻燈。

影法師(名) 日影、月影、火影によりてう

かけぼし

つる人の影。

事。

かけべり

蔭干(名) 日光の直射せぬ所にて干し乾かす

かけどり

懸減(名) 衡器に掛けて目の減る事。

掛取(名) 掛金または借金を受取に行く事。

又は其行く人。

かげどうろ

影燈籠(名) まはりどうろ、廻燈籠に同じ。

かげとも

影面(名) 山の南にあたる地方。●南。●山

陽。○萬葉「名くはし吉野の山は。かけさ

もの大御門ゆ。雲井にす遠くありける」

かけち

崖路(名) かげの路。●絶壁に沿ひたる山路。

○千載「おそろしや木曾のかけちの丸木橋

踏み見る度に落ちぬべきかな」

懸稅(名) 神に奉納する稻穗。

掛軸(名) 床に掛くる軸物。●掛物。●軸。

影流(名) 劍術流派の名。

馬などの駈ける。

かける

(自動四段) 「一」(翔)鳥の飛び廻る。「二」(駈)

かげる

蔭(自動四段)

月日の雲に隠る。●蔭になる。

かげを

懸緒(名)

「一」冠の紐。「二」烏帽子の紐。●ちやうづかけ。

かけおち

駈落(名)

出奔。●亡命。●逐電。

かけおび

掛帯(名)

古代女装束の附屬品。裳に附けて唐衣の上に褌の如く掛くる幅狭き帶。……十二重の圖を見よ。

かけがね

掛金(名)

戸締の金具。●錠ありて差し込むやうになりたる鈎。●かきがね。

かけかけし

(形。形状言シク活)

心に掛けて居る有様。多く男女の色情に云ふ。●好色がましい。

○源氏「かけくしき筋は何方にも思ひ聞

はじ」

かけがへ

掛替(名)

代りの品物。●扣。●豫備品。(俗)

かけがみ

懸紙(名)

上封に入るゝ前に書狀の上を巻く白紙。

かけたかのとり

(名)

てつべんかけたかき鳴く故の名。◎元祿頃にいへる杜鵑の異名。

かけたし

駈出(名)

「一」駈け出す事。「二」新參。

かけたす

駈出(自動四段)

「一」急に走り出づる。「二」

かけつ

可決(名)

會議にて可なりと決する事。△(動)

かけつる

(自動四段)

駈け廻る。(俗)

かけつかさ

(名)

兼官。○空穗「右大辨かけつかさ右近の少將」

かけつく

駈付(名)

火急の場合など駈けて其所に到り着く。(俗)

かけつくり

掛作(名)

谷又は川などに半差出して造りたる家。

かけつくる

掛作(自動四段)

掛作に造る。

かけつめ

(名)

蹴瓜に同じ。

かけね

掛直(名)

實價より高くいふ價。

かけなは

掛繩(名)

野飼の馬を捕ふるに用ふる繩。●追繩。(和名抄)

かけん

加減(名)

「一」加へ又は減す事。「二」算術の加法と減法と。「三」物事の度合。●工合。●鹽

梅。「四」料理の風味。

がけん

雅言(名)

俗語ならぬ言語。●中古時代の言語。

かけむしろ

掛筵(名)

筵に縁を付け暖簾の如く家内に

かけむすび

掛くるもの。
掛結(名) 紐の結方の名。●う
のくび。(圖)

かけうり

掛賣(名) 代金は貸にして品物を
賣渡す事。



かげの

陰野(名) 木草の陰になりたる野。○夫木「秋
深き山の陰野の柴の月に衣手うすし夕暮の
雨」

かげぐち

陰口(名) 其人の居らぬ所にてする噂。●陰
言。

かけくらべ

(名) 比較。

かけくらぶ

(他動下二段) 較べ合はす。●比較する。

かけくむ

駈組(自動四段) 駈け寄せ組み合ふ。●交戦
する。(十訓抄)

かげぐさ

陰草(名) 物の陰の處に生るる草。

かけや

掛矢(名) 大なる木槌。

かけま

(名) 男色を賣る少年。

かけまぐも

(副) かけむもの延音。◎言葉にあらはし
て言はんも。●口でいふも。○萬葉「かけ

まくも思々しきかも」

かげぶち

鹿毛斑(名) 馬の毛色の名。鹿毛にして斑あ

かけご

るもの。

懸子(名) 箱、行李などの蓋を實さの間にあり
て物入るゝ淺きところ。

かけごひ

掛乞(名) 掛取に同じ。

かけごど

賭事(名) 勝負事。●ばくち。●賭博。

かけごど

陰言(名) かげぐちに同じ。

かけがう

掛香(名) 香を袋に入れて室内に掛け置くや
うにしたる一種の裝飾品。

かけごゑ

掛聲(名) 「一」勞働する時に發する聲。こつ
こいしよえんやらほいの類。(二)音樂にて
鼓、太鼓、三味線などを打ち弾く人の相圖に
發する聲。イヤアハアの類。

かけて

(副) 「一」心に懸けて。(二)言葉に懸けて。(三)
かれて。●以前より。(四)少しも。●ちょ

かけあひ

掛合(名) 「一」彼と是と關係一致する事。●
照應する事。(二)談判。●照會。(三)二人

かはりふゝに歌など謡ふ事。

かけあはす

掛合(他動下二段) 「一」物事の彼と是とを
關係さする。(二)懸け算を行ふ。●乗す
る。(三)掛合をさする。

かけあは^{はつす}

掛合(他動下二段) 軍陣の詞。馬を近く乗せ寄せて戦ふ。

かけあ^ふ

掛合(自動四段) 「一」彼と是と關係一致する。「二」談判する。●照會する。

かけあし

駈足(名) 「一」馬術の詞。疾驅する事。「二」兵式操練にて疾く走る事。

かけざな

掛竿(名) 衣類など掛くる爲の竿。

かけざん

掛算(名) 數學の詞。甲の數と乙の數とを掛け合する算術。●乗算。●乘法。

かけぎぬ

掛衣(名) 近古婦人の腰に纏ふ衣の名。(圖)



かけきん

掛金(名) 「一」追々にする出金。「二」掛賣の代金。

かけゆし

勘解由使(名) 古代の役所。國家の會計を監督調査するところ。官吏は長官、次官、判官、主典あり。

かけめ

掛目(名) 秤に掛けての目方。●量目。

かけめ

缺目(名) 缺けたる部分。●缺點。

かけめ

陰女(名) 妾。●めかけ。(狭衣)掛字(名) 掛物の書。

かけしる

掛汁(名) 飯に掛けて食ふやうに作りたる汁。

かけゑ

掛畫(名) 掛物の畫。

かけゑ

影繪(名) 寫繪。●幻燈。

かけひなた

寛(名) 懸け渡したる樋。地下に埋みたる物ならぬを云ふ。○「寛の水」寛の音

かけひなた

掛直垂(名) 他の袴の上に直垂の上だけ着る事。

かけひなた

影日向(名) 影と日向との意。◎其人の面前に居らぬ所にて其人に對する所業の違ふ事。

かけひき

駈引(名) 「一」戰場にての進退。「二」商業上の進退。

かけもち

掛持(名) ニツ以上の事を兼ね持つ事。●兼務。●兼勤。●兼任。

かけもち

(名) かげもゑぎに同じ。

かけもち

掛物(名) 室内裝飾品の名。書又は書を表装して床に掛くるもの。●掛軸。●軸。●幅。

かけもち

賄物(名) 勝負事にかけたる物品。●賞與品。●陰翊黃(名) 染色の名。木賊色の類にて黒ばみたる緑。

かげぜん

陰膳(名) 不在中の人のため其空位の處に供

ふる膳。之を供ふれば外出中空腹に苦しむ事なしとの俗説あり。

かけす

(名)

鳥の名。椋鳥の一名。他の鳥の鳴き真似など巧にするもの。

かけすあう

掛褌襖(名)

他の袴の上に褌襖の上だけ着する事。

かけすまり

懸硯(名)

硯箱の一種。懸子に硯を入れ其下に紙など入る様に造りたるもの。

かふ

コウと發音する詞はこの部にあり。

かふ

家扶(名)

貴族の家にて家務を執る役の重なるもの。

かふ

家父(名) 吾父。

かふ

買(他動四段)

代價を拂ひて品物を受取る。●購ふ。●購求する。

かふ

飼。蓄(他動四段)

禽獸虫魚を養ふ。

かふ

代。換。替(他動下二段)

代らしむる。●交換する。●引きかへる。●取りかへる。

かふ

變(他動下二段)

變化させる。交(自動四段) 入りかへる。●行き違ふ。……

他の動詞に附けて用ふ。○「行きかふ」散り

かふ「飛びかふ」

かふ

(他動四段)

株(名)

支へにする。○「つっぱりをかふ」

「一」木を伐り去りたる残りの根。●切根。

「二」根の付きたる植物を數ふるに用ふ詞。

○「松一株」○「三」賣買すべき其業務の身代。

○「質屋の株」○「御家人の株」○「四」商社銀行

などの資金を一組幾圓つゝと定めて其一組をいふ時の稱。

野菜の名。かぶらの略。

歌(名)

歌ふ事と舞ふ事と。●歌謡と舞曲と。

△(動)―歌舞す。

(自動上二段) 歌舞の生ずる。

樂府(名) 「一」漢詩の一體。歌曲として謠ふべく

組織せるもの。「二」特に白氏文集中の一

部。○徒然「樂府の御論議の時」

禿(名) 「一」かむろに同じ。「二」禿頭。

神王(名) かぶろぎの略。○神祖。●皇祖。○

祝詞式「高天のかぶろ」

かぶろ

禿松(名)

葉の疎なる松。●坊主松。

かぶろまづ

(名)

かむろぎかむろみに同じ。

かぶろぎかぶろみ

兜。胃(名)

武具の名。頭に戴く物。其製種々あ

り。

かぶどがひ

兜貝(名)

海丹うにの殻。

かぶどがに

兜蟹(名)

蟹の一種。海に住みて形兜に似

かぶどたて

兜立(名)

脱ぎたる間兜

を掛け置く具。(圖)



かぶどむし

兜虫(名)

虫の名。六足

にして翅あり其頭角は兜の前立に似て力強きもの。異名は……鬼虫。●角虫。

かぶどくび

兜首(名)

兜を戴く身分の人の首。●大將

かぶどぎく

兜菊(名)

草の名。烏兜に似たる花咲き劇

かぶどした

兜下(名)

かぶどしたちに同じ。

かぶどしたち

兜下地(名)

兜を着用するために髪を亂

かぶり

冠(名)

「一」頭に被る總べての物。「二」かんむ

かぶり

頭(名)

かしら。●あたま。

かぶりをけ

冠桶(名)

冠を入れ置く桶形の箱。

かぶりがさ

被笠(名)

頭に被る笠。……さしつかさに對

していふ。

かぶりだな

冠棚(名)

脱ぎたる間冠を載せ置く棚。

かぶりし

冠師(名)

冠を造る工人。

かぶりした

冠下(名)

かぶりしたちに同じ。

かぶりしたち

冠下地(名)

冠を着用する時その妨にならぬやうにしたる髪の結方。髻を幾つも巻きて之に餘る髪の先をタハシの如くして前

に向けたるもの。

かぶりもの

被物(名)

頭に被る物の總名。

かぶぬし

株主(名)

商社銀行等の株の持主。

かぶる

被。冠(他動四段)

かうぶるかうむるに同じ。

かぶる

(自動下二段)

其氣に感ずる。●感染する。○

「漆にかぶる」

かぶる

(自動四段)

噛む。●かちる。●嘗める。

かふか

可不可(名)

可と不可と。●可否。

かぶれ

(名)

其氣に感ずる事。●感染。○「漆かぶれ」

「流行かぶれ」

かぶつ

下物(名)

酒の肴。

かぶら

蕪。青蕪(名)

野菜の名。葉は油菜に似て根の圓

形なるもの。

かぶら

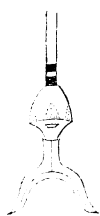
鐙(名)

「一」鐙矢の鏃に附けたる物。●なりが

かぶらや

ぶら。(二)鑄矢
に同じ。(圖)

鑄矢(名) 箭の
一種。蹴に鳴
かぶら



かぶらゑり

鑄影(名) 鑿の一種。又先の彎曲したるもの。

かぶらす

(他動四段) かぶすに同じ。

かぶん

歌文(名) 和歌と和文と。

がぶん

雅文(名) 雅言にて書きたる文章。●中古文に模倣したる文體。

かふう

家風(名) 其家の風習。●家法。

かふうらく

夏風樂(名) 雅樂の曲名。

かぶけん

株券(名) 株金に對しての證券。

かぶさる

被(自動四段) 被ひ掛かる。

かぶき

歌舞伎(名) 「一」芝居。●演劇。「二」人の演ずる芝居。……人形芝居に對していふ。

かぶきり

株切(名) 禿切の意。○幼兒の髪を總體同

かぶきん

株金(名) 商社銀行などの株に對して拂ひ込

む金。

かぶきしぼる

歌舞伎芝居(名) 人の演ずる芝居。……

かぶきもん

人形芝居に對していふ。冠木門(名) 柱を二本立てゝ上に横木を渡したる門。

かぶしがたち

(名) 項低れたる姿。○徒然「かぶしがたち」などいふよしと見えて

かぶしき

株式(名) 會社にいふ詞。株に同じ。

かぶせふた

被蓋(名) 上より被する様に造りたる器物の蓋。

かぶせもの

(名) 下等品又は傷物を上等品の如く見せかけたもの。

かぶす

臭橙(名) 木の名。橙の一種。

かぶす

(他動四段) 「一」被ひ掛くる。●被らする。「二」欺く。●瞞着する。

かぶす

(自動四段) 傾き伏す。●項低る。(雅)

かこ

水主(名) 櫓子の意。○舟人。●水夫。

かこ

鹿子(名) 鹿の子。

かこ

籠(名) 竹細工の器。

かこ

駕籠(名) 乗物の名。棒を屋形に貫き二人以上にて昇くもの。昔は武家醫者旅人等の乗るに

用ひ今は多く人力車の利かぬ山坡等の乗物

こなる。

かご 加護(名) 神佛の保護。●擁護。

かご 鉸具(名) 束帯の帯を結び合はする金具。多くは銅製にてコハゼの如きもの。(和名抄)

かご (名) 影の訛り。(萬葉)

かご 雅語(名) 雅言に同じ。

かごひ 圍(名) 圍ふ事。●圍ふ物。●圍はるゝ物。

かごひもの 圍者(名) 他の家に圍ひ置く妾。●外妾。

かご 恨み。「一」恨み。「二」言譯。「三」かこつけに同じ。(雅)

かごがまし (形) 形状言シク活 かこごらしい。(雅)

かこちがほ (名) 嘆かしそうなる顔付。(雅)

かこち うちん 籠提灯(名)

籠の如く作りたる提灯。(圖)

かこかに (副) 四面皆圍ま

れて。●こじんまりとして。●かこやかに

○源氏「あたりは人しげきやうに侍れどい

さかこやかに侍る」△(形)「かこかなる。

駕籠昇(名) 駕籠を昇く人。

かこがしら 鉸具頭(名) かこに同じ。

かこそ 駕籠訴(名) 徳川時代に將軍又は藩主など外出

の折。その乗物に近寄りて直接に訴ふる事。

かこつ (他動四段) 「一」わぶる。●こまる。●恨む。

●嘆く。「二」かこつくに同じ。

かこつく 託(他動下二段) かづくる。●託する。●事

よする。●せいにする。●口實とする。

かこむ 託(名) かこつくる事。●言ひ前。●口實。

かかッ 圍(他動四段) 取り巻く。●圍ふ。

かこふ 歌稿(名) 歌の下書。●詠草。

かこつし 圍(他動四段) 「一」周圍を取り巻く。「二」外氣

に觸れぬ様に物を仕舞ひ置く。「三」知れぬ

様に人を潜まする。●かくまふ。

かがッ 雅號(名) 風雅の道にて附けたる名。畫師、詩

人、俳諧師、茶人などの用ふるもの。

かごうつし 籠寫(名) 書畫などの輪廓のみを細き線に

して寫す事。●籠字。

かこく 苛酷(名) 無慈悲。●殘忍。●酷薄。△(形)一

苛酷なる。(副)一苛酷に。

かこや 籠屋(名) 竹籠を造る工人。

かこや 駕籠屋(名) 「一」駕籠昇人足を雇ひ置きて求め

に應じて派出せしむるを業とする家。「二」

駕籠昇に同じ。

かこや

鹿兒矢(名)

鹿獵に用ふる矢。(記)

かこやかに

(副)

四方を圍まれて。●こじんまりして。●かこかに。○源氏「かこやかに局住して」△(形)「かこやかなる。

かへどの

柏殿(名)

中古皇后の御所の名。禁中朱雀院の内にあり。

かへり

牙營(名)

本陣。●本營。

かごぶね

鹿舟(名)

籠にて作れる舟。祭の山車などに用ふるもの。

かごゆみ

鹿兒弓(名)

鹿獵に用ふる大形の弓。(記)

かごめ

籠目(名)

籠の目の如き形。又は模樣。

かごめに

(副)

香さにも。●かたりぐるめに。○後撰「けふ欄しづくに我身いざねれんかごめにさそふ風の來ぬまに」

かへりちう

反忠(名)

味方にてありながら敵に内通する事。●反應。

かへりがけ

歸掛(名)

かへりみち。(俗)

かへりだち

還立(名)

「一」かへりあそびに同じ。「二」かへりあるじに同じ。

かこみ

圍(名)

圍む事。●圍む物。●圍まるゝ物。

かへりうち

返討(名)

仇討せんとして反對に討たるゝ事。

かごじ

籠字(名)

籠寫しにしたる文字。

かごじもの

鹿子自物(枕)

鹿は子を産む事少なきものなれば獨子の意にて獨にかけていふ枕詞。

かへりやみ

返病(名)

病氣の再發。

かへりごど

返言(名)

返答。●返事。

かへ

替。代(名)

かはり。●名代。

かへりごゑ

反聲(名)

雅樂にて呂の曲より律の曲に移る事。○源氏「かへりごゑに喜春樂たちそ

かへりて

ひて
却(副) 反對に。●うらはらに。●結句。●
なまなひ。

かへりてん

返點(名) 漢文の訓讀に用ふる符標。下より上に轉倒して讀む事を示すもの。蘇子興「客泛舟遊赤壁之下」のレニ一の類。

かへりてんじや

還殿上(名) 一度地下に落ち下りし殿上人の再び元の位置に復して昇級する事。

かへりあるじ

還饗(名) 昔し禁中にて賭弓、相撲など行はれし後、勝方の大將の家にて行ふ饗應。

かへりあそび

還遊(名) 昔し賀茂の臨時祭などに派遣されたる樂人舞人の禁中に歸り來りて更に奏する音樂。○榮花「祭の日のかへりあそび御前にてあるよ」

かへりあそ

返樣(名) かへるさに同じ。

かへりあそ

返咲(名) 其時節過ぎたる後に花の咲く事。又その咲きたる花。●歸り花。

かへりみ

顧(名) 「(一)物を振り返り見る事。●過去を思ひ見る事。(二)心の内に省みる事。(三)人をうかがふ事。●恩顧。●眷顧。

かへりみる

顧(名) 「(一)振り返り見る。●過去を思ひ見る。(二)心の中に省みる。●反省する。(三)●人をうかがふ事。●眷顧する。●愛顧する。

かへりじ

返字(名) 漢文を訓讀する時に下より上へ轉倒して讀む文字。使民以時の使以の類。

かへりまうし

返申(名) 「(一)貴人より命ぜられたる使の返事を申し上げる事。●復命。(二)神佛に對して禮參り。

かへる

蝦。蛙(名) 虫の名。科斗より變形する兩棲動物にして二脚二手あるもの。

かへる

歸。返。還。復(自動四段) 「(一)跡にもどる。●元の通にもどる。●元の如くなる。(二)同じ事のある。(三)くつがへる。●うらがへる。(四)ひるがへる。(五)他の動詞に附けて意味を強むるに用ふ。○「冷えちへる」死に「へる」

かへるば

蛙葉(名) 草の名。おほばこの一名。

かへるかり

歸雁(名) 春になり北地に向ひて去る雁。●歸雁。●眷雁。かへすがへすに同じ。

かへるがへる

かへるまた

蛙股(名) 建築上の詞。破風に附くる蛙の

股の形したるもの。

かへるで

鶏冠木(名) 葉の形蛙の手に似たる故の名。

◎木の名。楓かへてに同じ。(和名抄)

かへるさ

(名) かへるさまの略。◎歸る時。●歸る路。

●かへさ。

かへだま

替玉(名) 本物と摺り替へたる偽物。(俗)

かへて

却(副) かへりてに同じ。

かへな

替名(名) 別名。●一名。●異名。●變名。

かへなし

柏梨(名) 禁中佛名の中に攝津柏梨庄より奉

る酒の名。其夜殿上にて公卿以下に之を賜

ぶ。○夫木「あさましや佛の御名を聞きさ

してなごかへなしのほごに立ちけん」

かへらかす

(他動四段) 沸騰せしむる。(宇治)

かへらふ

(自動四段) 歸るに同じ。(雅)

かへらま

(名) かへさま。●さかさま。●反對。●あ

へへ。

かへんず

肯(他動サ變) うけがふ。●承知する。●承

引する。

かへで

楓(名) かへるでの略。◎木の名。葉の形麻の

葉に似て特に紅葉の賞玩せらるゝもの。世

かへさ

(名) 人多くは單に之をもみちと呼ぶ。

かへさふ

(他動四段) かへすに同じ。●くりかへ

す。

かへさま

(名) ひっくりかへり。●反對。●轉倒。

かへし

返(名) 「一」返す事。「二」返歌又は文の返事。

「三」同じ音にて二字以上の詞を書く時に用

ふる符號文字。「ゆく／＼」「さき／＼」の

類。「四」歌曲にて同じ文句を繰返す事。

「ばや住の江に着きにけり／＼の類」「五」

吹き返す風。「六」反切。

かへしがたな

返刀(名) 前より切りて又後より切り返

す刀。○徒然「枝の長さも尺或は六尺。か

へしがたな五分に切りて」

かへしうた

反歌(名) 古くは萬葉集中長歌の後にある

短歌をかへしうたと讀みて長歌にて言ひた

る意味を簡易に繰返し歌へるものとせり。

然れども近來は之を誤解としてハンカ音

讀せる方よろしとの説に傾きたり。……は

んかを見よ。

かへしうた

返歌(名) 和歌を贈られたる時同じ和歌

かへしもの

にてする返事。●へんか。
返物(名) かへりこゑに奏する曲。○古今「かへしものゝ歌」

かへす

返(他動四段)

「一」かへらしむる。「二」くりかへす。「三」ひるがへす。「四」舞曲の手にて袖をばれて裏をかへらしむる。「五」耕す。「六」くつがへす。「七」返却する。●もどす。「八」嘔吐する。

かへすがへす

返々(副)

幾重も幾重も。●かさねがさね。●臭々。

かへすがき

返す書(名)

女用文章の詞。手紙の終りにかへすくも云々さ書き添ふる事。

かて

糧(名)

「一」古は旅人の携へ行く食料の米。「二」後世は終べて貯へ置く食品。又兵糧。

がて

(助名)

方。○草庵集「さゆる夜にあたり霜はつれなくて消ぬがてになる闇の埋火」

がて

(助名)

しがたき事。●しかぬる事。●しにくき事。○新拾遺「めぐりきて猶故郷の出でがてなさをもうれし三つの小車」

がてに

(副)

「一」動詞より直に受くる詞。●がたく。

柯亭(名)

古代横笛の名。

がてり

(副)

●にくい。●かてて。○古今「山崎より神なびの森まで送りに入々まかて歸りかてにして別れ惜しみけるに萬葉春されば我家の里の川門には鮎子さばしる君待ちがてに△(形)がてなる。(又)がての。(二)後詞のばより受くる詞。●云々せんすれどしかてて忽にの意。○古今「泡雪のたまればててにくだけつゝ我物思のしげき頃かな」玉葉「夕されば野もせにみかく白露のたまればかてに秋風ぞ吹く」保憲女集「鞍馬山すめばててにさぬかへり木の芽春雨風さをふなり」

がてぬ

(助動)

がてり我脊子が房手折りける女郎花かも」感詞のかもの前に置く詞。●がたくする。●かぬる。○萬葉「皆人を寐よこの鐘は打つなれど君をし思へばいれがてぬかも」

がてら

(副)

動詞より直に受くる詞。●半ば之を兼ねての意。●ながら。●がたなく。●がてり。○源氏「秋の野も見給ひがてら雲林院に詣

で給へり」(又)「かてらに。

かてん

賀殿(名) 雅樂の曲名。

かてん

家傳(名) 其家の傳來。

がてん

合點(名) がてんに同じ。●會得する事。△

かあなる

(動)―合點す。

かさ

傘(名) 雨を防ぎ又は日光を遮るため柄にて支へ

かさ

笠(名) 「一」雨を防ぎ又は日光を遮るため頭に被

かさ

瘡(名) 「一」腫物の總名。●出來物。「二」病の名。

かさ

蓋(名) 瘡の一種。●瘡毒。●梅毒。

かさ

(名) 積。「一」物の數量の總額。

かさ

(名) 枕の蓋。にはひ。●香。

かざい

家財(名) 家の中の諸道具。●家具。

かざいり

風入(名) 空氣の流通。

かざいれ

風入(名) 風を流通さする事。●風に曝す事。

かざはり

嵩張(名) 嵩張る事。

かざはる

嵩張(自動四段) 嵩の多くなる。●嵩む。

かざはな

風疹(名) 感冒に罹りたる時出來る吹出物。

かざはな

(名) 風の吹き出す前に降る小雨。

かざはや

風早(名) 風の強く吹く所。○倭姫世記「風

かさはす

笠(名) 矢竹よりも太く作りて箆めたる矢

かざぼろし

傘(名) 風疹に同じ。(和名抄)

かざぼこ

傘鉾(名) 頂に鉾毛など附けたる傘。祭禮の

かざどころ

瘡處(名) 腫物の癒えたる痕。(和名抄)

かざり

飾(名) 「一」飾る事。●飾りたる物。●裝飾。

かざりちまき

注連飾。(四)鏡餅。

かざりおろす

飾粽(名) 美しき絲にて巻きたる粽。

かざりたつ

落飾する。●剃髪する。●出家す

る。

飾立(他動下二段) 裝飾を盡す。

かざりつく

飾付(他動下二段) 飾りて陳列する。

かざりつけ

飾付(名) 飾り付くる事。

かざりなほ

飾繩(名) 正月に飾る注連繩。

かざりぐるま

飾車(名) 祭の山車^{だし}などに挽き出す車。

かざりや

飾屋(名) 金銀等にて小細工をする人。又之を賣る家。

かざりぶね

飾船(名) 飾り立てたる船。祭などの時に出だすもの。

かざりことば

飾詞(名) 歌文の裝飾に用ふる言葉。枕詞の類。

かざりえび

飾海老(名) 正月の飾に用ふる海老。伊勢海老を茹でたるもの。

かざりもの

飾物(名) 飾りたる物。●裝飾品。

かざりずみ

飾炭(名) 正月座敷に飾る祝の炭。

かざめ

重(他動下二段) 重ならしむる。

かざめき

風抜(名) 建物の中に空氣を流通させる爲の窓又は穴。

かざめひ

笠縫(名) 笠を縫ふ工人。

かざる

飾(他動四段) 美しく見ゆる様にする。●裝ふ。●裝飾する。

かざるり

風折(名) 風折烏帽子の略。

かざりをまほし

風折烏帽子(名) 烏帽子の一種。立烏

帽子の上端を風に折られたる如く横に折りたるもの。

右折左折の別あり。(圖)

かざなれ

風折(名) 風にて吹き折らるる事。

かざおもて

風表(名) 風の吹き来る所。(薪六帖)

かざがくれ

風脇(名) かざかけかざがくれに同じ。風隠(名) 風の吹き来る處。○玉葉「木立をばつくろはすして櫻花かざがくれにぞ植うべかりける」

かざかけ

笠懸(名) 武藝練習にする騎射の一法。綾蘭^{あやな}笠^{かさ}などを懸けて的とするもの。後世にては普通の的を用ふる事となれり。

かざかき

風陰(名) 風の吹き来るぬ物陰。●風隠。瘡搔(名) 梅毒に罹りたる人。

かざかみ

風上(名) 風の吹き来る上の方。

かざよけ

風除(名) 風を除くる事。●風を除くる物。

かざたか

嵩高 (一)嵩の多き事。(二)事實よりは大きくいふ事。●誇大(形)―嵩高なる。(副)―嵩高に。



かさだかし

嵩高(形。形狀言ク活) 嵩の多き。○空穗「紫檀の櫃五つに立て分きて、かさだかく入れたる」

かさね

重。襲(名)

「一」重ぬる事。●又は重なりたる物。「二」古代装束の下着の名。裏と表と異色または同色にて色の取合せを殊によく注意して作れるもの。故に「櫻がされ」卵花がされ」など種々の名あり。「三」かさねきの略。「四」重なりたるものを數ふる詞。○

「小袖一重」鏡餅一重」

かさねがはらけ

重土器(名)

三つ組の土器。

かさねがさね

重重(名)

度々。

●毎度

●重々

●再

三。

かさねだんす

重簞笥(名)

簞笥の一種。二つ以上重ねらる。椽に造りたるもの。

かさねて

重(副)

今一度。●ふた。び。●繰返して。

かさねぎ

重着(名)

衣類を幾枚も重ねて着る事。

かさねぎぬ

重衣(名)

いついさめに同じ。

かさなり

重(名)

重なる事。●重なりたる物。●重寝。

かさなる

重(自動四段)

物の上に物の積る。●事の上に事の積る。

かざながれ

風流(名)

鷹にいふ詞。風に吹き流されて

かざなき

風風(名)

風の吹かぬ時。●風。○夫木「出雲なるちくみの濱のかざなきに漕ぎ出て、行けば沖の島見ゆ」

かざなみ

風並(名)

風の吹き工合。●風の様子。

かさん

家産(名)

家の資産。●身代。●財産。

かさん

加算(名)

寄算。●加法。

かさん

加餐(名)

手紙の詞。養生。

かさむ

嵩(自動四段)

嵩の増す。●嵩張る。

かざむき

風向(名)

風の方向。●風位。

かざく

家作(名)

「一」家を作る事。「二」建物に同じ。

かざぐるま

風車(名)

「一」風の力にて廻轉する車。機械の原動力とするもの。又は小兒の玩具。「二」草の名。鐵線の種類にて花の形小兒の風車に似たるもの。

「二」草の名。鐵線の種類にて花の形小兒の風車に似たるもの。

風藥(名)

風邪の藥。

笠宿(名)

途中にて雨の降り出たしたる時。木陰。辻堂などを笠の代りとして暫く休む事。雨宿りに同じ。○夫木「冬の日

笠宿(名)

途中にて雨の降り出たしたる時。木陰。辻堂などを笠の代りとして暫く休む事。雨宿りに同じ。○夫木「冬の日

笠宿(名)

途中にて雨の降り出たしたる時。木陰。辻堂などを笠の代りとして暫く休む事。雨宿りに同じ。○夫木「冬の日

笠宿(名)

途中にて雨の降り出たしたる時。木陰。辻堂などを笠の代りとして暫く休む事。雨宿りに同じ。○夫木「冬の日

笠宿(名)

途中にて雨の降り出たしたる時。木陰。辻堂などを笠の代りとして暫く休む事。雨宿りに同じ。○夫木「冬の日

笠宿(名)

途中にて雨の降り出たしたる時。木陰。辻堂などを笠の代りとして暫く休む事。雨宿りに同じ。○夫木「冬の日

笠宿(名)

途中にて雨の降り出たしたる時。木陰。辻堂などを笠の代りとして暫く休む事。雨宿りに同じ。○夫木「冬の日

笠宿(名)

途中にて雨の降り出たしたる時。木陰。辻堂などを笠の代りとして暫く休む事。雨宿りに同じ。○夫木「冬の日

「こそすれ」

かづな

風間(名) 風の風きたる間。○土佐「祈りくる

風間と思ふなやなくも鷗さへだに波さ見
ゆらん」

かづま

風窓(名) 空氣の流通をよくする爲の窓。●

風穴。

かづまち

風待(名) 船の港に繋りて順風を待つ事。

かづまつり

風祭(名) 暴風のなき様に祈る爲め行ふ
祭。●船にて順風を得んがために行ふ祭。

かづけ

風氣(名) 「一」風の吹き出でんとする様子。
「二」感冒に罹りたるらしき様子。

かづぶた

瘡蓋(名) 腫物の癒ゆる時に出来る蓋の如き
もの。

かづり

笠子(名) 魚の名。頭大きく高くして淡味なる
もの。

かづこゑ

風聲(名) 感冒によりて平時と變りたる聲。

かづあな

風穴(名) 「一」空氣を流通さする爲め建物に
明け置く穴。「二」山にありて風の吹き出づ
る穴。

かざあし

風脚(名) 風の速度。●風力。

かざり

鵠(名) 鳥の名。形鵠に似て小さく尾の長き

かざりのはし

鵠橋(名) 「一」七月七日の夜牽牛織女
の相會する時天の川に多くの鵠が羽を並べ
て其上を渡りゆくやうに作りたる橋。「二」
禁中の御階を天上に見立てゝいふ。……(雅)

もの。

かざき

笠木(名) 鳥居又は冠木門の上に渡せる横木。

かざり

風切(名) 「一」鳥の翼の端にある短かくして
強き羽。「二」船にいふ詞。風の向を知る爲
の小旗。

かざめ

蛸蚌(名) 蟹の一種。海底に棲みて食用となる
もの。

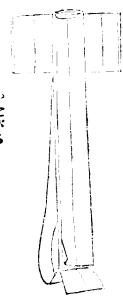
かざみ

疹。汗疹(名)

「一」汗

取に着

る下着。



かざみ

風見(名) 家の屋根などに設けて風の向を示す
装束にては童女の上着。(圖)

かざみぐさ

風見草(名) 木の名。柳の異名。

かざし

挿頭(名) 「一」すべて物を髪または冠に挿し又

かざしるし

ば頭に載する事。●遠く見やる時。又は光を遮り顔を隠す時など手や扇を顔にあつる事。(一)特には草木の花または造化など髪飾に挿す事。又は其挿したる花。……上古はおもに男子のせし事。後世は女に限りてする事とはなれり。(二)特には雅樂にて舞人の冠又は天冠に挿す造り花。又は生花。(四)能樂などにて舞ふ時袖を頭にさぶる事。

笠印(名) 昔し陣中にて其人又は其兵なりと知らせん爲め笠に附くる目印。○謡曲「源氏」の方に梶原源太景季。色こなる梅花のありしを。一枝折つて箆にさす。此花すなはち笠印となりて」

かざしのだい
かざしぐさ

挿頭簪(名) 造花を挿し置く簪。(源氏)(名) 草の名。加茂の祭に用ふる葵の一名。

○夫木「神まつる今日のみあれのかざしぐさ長き夜かけて我やたのまん」

かざしころ

笠鏝(名) 笠の如く造りたる兜の鏝。

かざしも

風下(名) 風の吹き行く末の方。

かざびる

草蛭(名) 虫の名。山蛭に同じ。(和名抄)

かざす

挿頭(他動四段) 「(一)髪または冠に挿す。●頭の上に乘せ戴く。●遠く見やる時。又は光

を遮り顔を隠す時など手や扇を顔にあつる。(二)能樂などにて舞ふ人の袖を頭にさぶる。

かざすげ

笠簪(名) 草の名。菅の一種。笠に造るもの。

かき

柿。柿(名) 「(一)木の名。秋の頃美味なる實を結ぶもの。其澁きものよりは澁を取る。(二)染色の名。柿澁の如き色。

かき

牡蠣(名) 貝の名。海中の岩石に附着するもの。

かき

垣(名) 土地の境目などに設けたる圍ひ。●籬。

●垣根。

かき

夏期(名) 夏の時期。●夏時。

かき

夏季(名) 夏の季候。●夏時。

かき

鍵。鑰(名) 錠前を明くる具。

かき

鉤(名) 金屬又は木竹などを曲げて物を引つ懸くるやうにしたるもの。

かき

餓鬼(名) 「(一)餓鬼道に墮落したる亡者。(二)餓鬼道の略。(三)俗に小兒を卑しみて云ふ詞。

かき

賀儀(名) 祝賀の儀式。●祝言。

かき

牙旗(名) 陣中にて大將の本營に立つる旗。

かきいろ

柿色(名) 柿澁の如き色。

かきいる

書入(他動下二段) 本文の間に書き込む。

かきいれ

書入(名) 「一」本文の間に書き込みたる字句。「二」借金引當とする物。●抵當。

かきろひ

陽炎(名) 春の晴れたる日に廣野などより立ち昇る蕪發氣の美しく見ゆるもの。●かげろふ。●いさゆふ。○萬葉「ひむかし」の野にかきろひの立つ見えてかへりみすれば月傾きぬ。

かきろひの

陽炎の(枕) ^{かきろひ} 陽炎はあるかなきかのものなればほのか又は唯一目に續け。燃ゆる如く見ゆればもゆに續け。春のものなれば春に續け。夕方おほければ夕に續け又石を打ちて出つる日を陽炎に見なしていいはいはにも續けたる枕詞。○萬葉「かきろひのはのかに見えて」かきろひの唯一目のみ「かきろひの心もえつ」「かきろひの春に」なれば「かきろひの夕さきくれば」「かきろひの岩垣淵の」

かきばひ

牡蠣灰(名) 牡蠣の殻より製したる石灰。●牡蠣殻灰。

かきばん

書判(名) 印形の代りに書く自筆の文字。…多くは名の文字など色々にくづつて自家一流の體を爲したるもの。●花押。

かきたう

餓鬼道(名) 六道の一つ。此世界に墮落する人は食を得んと欲しても得る能はずして常に飢餓のため苦しみ居るさころ。

かきどもし

搔燈(名) かいどもしに同し。

かきぢらし

書散(名) 書き散らす事。又書き散らしたる物。

かきぢらす

書散(他動四段) 不規則に書く。●樂書する。

かぎり

限(名) 境目。●ばて。●極。●區域内。●ありたけ残らず。●一ぱい残らず。●その物だけ。

かぎりなきひと

限無き人(名) 貴人。(源氏)

かぎりのこと

限の事(名) 一周忌の法事。●はてのこと。(源氏)

かきろ

限(他動四段) 境目を附くる。●判然區別する。

かきほ

(名) 垣。●垣の上の方。○「かきはの源」かきはの梅」(雅)

かきおとし

書落(名) 書き落す事。又は其字句。●落字。●脱落。●脱字。

かきおとす

書落(他動四段) 書く時に誤りて字句を抜

かす。●落字する。●脱字する。

かきおく

書置(他動四段) 書きて残し置く。

かきおくり

搔送(名) 一種の小船。櫂にて漕ぐもの。

かきおくる

書贈(他動四段) 文字に書きて人に贈る。

●通信する。

かきおき

書置(名) 〔一〕書きて死後又は別後に残し置く事。〔二〕又書き残し置く其書類。●遺書。

かきはり

堅磐(名) 堅き磐。……永久の意にて祝の言葉に多く用ふ。○散木「ながらへん君がわき

はの遙げきに千代松竹を添へざらめやも」

かきはりに

堅磐に(副) 磐の如く永久に。(祝詞式)

かきわらび

鉤蕨(名) 先の曲りて鉤に似たる蕨。○新拾遺「今日の日はくるゝ外山のかきわらび

明けばまつ見ん打過ぎぬまに」

かきかぞふ

搔數(他動下二段) 數ふる。

かきかぞふ

搔數(枕) 一つ二つと數ふるの意にて。二

にかゝる枕詞。○萬葉「かきかぞふ二神山に」

かきかね
かきから

(名) 戸締りの金物。●掛金に同じ。
牡蠣殻(名) 牡蠣の貝殻。

かきがらばひ

蠣殻灰(名) 蠣殻にて造りたる石灰。蠣

灰ともいふ。

かきやきゅう

佳境(名) 最面白く感ずる所。●妙所。

かきやきゅう

家郷(名) 我家の有るところ。●故郷。

かかげふ

稼業(名) 本業。●職業。

かきよく

歌曲(名) 詩を附けて謠ふ歌。●うたひもの。

かきよくし

河曲子(名) 雅樂の曲名。

かきだ

牡蠣田(名) 海中に垣を結びて牡蠣を蕃殖さずる所。

かきたる

搔垂(自動下二段) たるに同じ。●水の垂るゝやうに雨雪など多く降る。○源氏雪「き

たれいみじう降りけり」

かきたつ

搔立(他動下二段) 〔一〕燈心を出して火を明るくする。〔二〕搔き廻す。

かきたつ

恒立(自動四段) かべたつに同じ。

かきたてぎ

搔立木(名) 燈心おさへ。

かきたし

書出(名) 〔一〕書きはじめ。〔二〕勘定書。

かきたす

書出(他動四段) 〔一〕書きはじむる。〔二〕書き立てゝ示す。

かきぞめ

書初(名) 年の始めに文字を書く事。又は其

式。●吉書。●試筆。

かきつ

垣内(名)

「(一)垣の内。(二)區域内。……(雅)

かきつばた

杜若(名)

草の名。花暮瀟に似て美しき花

かきつばた

杜若(枕)

「(一)杜若の花の如くにづらふ

(赤く色に出づる)と言ひ掛けたる枕詞。○萬葉「杜若につらふ君を」「(二)杜若の咲き

と言ひ掛けたる枕詞。○萬葉「杜若さきさは(地名)に生ふる菅の根の」

かきつた

垣内田(名)

我家の垣根内に作りたる田地。

かきつく

書付(他動下二段)

書き記す。●記録する。

かきつやぎ

(名)

垣の内に生ふる柳。(萬葉)

かきつけ

書付(名)

書類。●紙面。

かきね

垣根(名)

「(一)垣の根の所。(二)垣に同じ。

かきな

(名)

草の名。カリやすの一名。

かきなす

搔鳴(他動四段)

かきならすの略。○琴を弾

く。○古今「秋風にかきなす琴の聲にさへはかなく人の戀しがるらん」

かきん

家禽(名)

家に飼養する鳥。鶏家鴨などの類。

かきん

瑕瑾(名)

瑕ある玉の意。●缺點。

かきのころも

柿衣(名)

僧服の名。柿色に染めたる衣。

かきぐり

搔栗(名)

干したる栗の實。勝栗。

かきくる

(自動下二段)

かきくもるに同じ。(雅)

かきくらす

(自動四段)

空またほ心の眞暗になるを云

ぶ。●かきくもる。○枕「雪のかきくらし降るに」源氏「唯かきくらす心地し侍れど」

かきくもる

搔曇(自動四段)

眞暗になりて曇る。●か

きくらす。●かきくらす。○後撰「鏡山山かきくもりしぐるれど紅葉赤くぞ秋は見え

ける」

かきやり

鉤棺(名)

武器の名。柄の上の方に鉤ある棺。

かきやね

牡蠣屋根(名)

牡蠣の殻を置きたる屋根。

かきやく

書役(名)

書き物をする役。●書記。

かきまはす

搔廻(他動四段)

搔き交するに同じ。

かきまみ

垣間見(名)

かいまみに同じ。●透見。

かきませ

(名) 多人數打雜り居る事。●込合。○さり

かへばや「かきませのほどは知らず顔にて聞きすくし」

かきます

搔交(他動下二段)

手先にて交する。

かきけつ

(自動四段)

かきけすに同じ。(雅)

かきけす

搔消(他動四段)

消すに同じ。○謡曲「かき

けすやうに失せにけり」

かきふす

搔臥(他動下二段) 抱きて寐さする。(雅)

かきこぼり

(名) 米俵の中よりこぼれ散りたる粃。(神

樂歌)

かきこむ

書込(他動四段) 書き入るに同じ。

かきこむ

搔込(他動四段) 搔き寄せて取り込む。

かきこみ

書込(名) 書入に同じ。

かきこし

垣越(名) 「一」垣を越ゆる事。「二」垣を隔つ

る事。

かきこもる

搔籠(自動四段) 引き籠る。(雅)

かきて

書手(名) 「一」文字を書く人。●書記。「二」文

字を上手に書く人。●能書家。

かきあはす

搔合(他動下二段) 「一」琴など合奏する。

「二」衣服の前など手先にてつくるび合はす

る。

かきあつむ

書集(他動下二段) 種々の事を集めて書

く。●編纂する。

かきあつむ

搔集(他動下二段) 搔き寄せて一所に集む

る。

かきあつめ

書集(名) 書き集むる事。●書き集めたる

物。

かきあつめ

搔集(名) 搔き集めたる物。

かきあぐ

書上(他動下二段) 「一」書き並ぶる。

●記載する。書き立つる。「二」書き終る。

かきあけ

書上(名) 書き上ぐる事。

かきあけ

(名) 堀は出来たれどまだ水をも溜めすにあ

る程の牛成の城。●假城。

かきさぐる

搔探(他動四段) さぐるに同じ。(雅)

かきさぐる

書様(名) 書きたる様子。●書きやう。●書

き方。

かきささ

鈎裂(名) 衣類を鈎などに引つ掛けて裂き破

る事。又其破れたる所。

かきさす

(他動四段) 書きかけて中止する。

かきさる

搔切(名) 又物の先にて切り落す。○「首かき

切る」

かきさらす

(自動四段) かきくらすかきくもるに同じ。

(雅)

かきみたる

搔乱(自動四段) 乱るに同じ。

かきみだす

搔亂(他動四段) 搔廻して亂さする。

かきしば

垣柴(名) 垣に結ひたる柴。

かきしば

柿澁(名) 澁柿を搾りて取りたる液。板また

は紙などに塗りて腐蝕等の豫防を爲す。

かきもん

書紋(名) 上繪に書きたる衣類の紋。

かきもの

書物(名) 書く事。●書くべき物。●書きたる物。

かきすう

昇据(他動下二段) 昇き來りて据を置く。

かきすゑやかた

搔据屋形(名) 小舟の屋形。

かきすゑふ

(他動四段) 慰みに書く。●らくがきする。

かゆ

粥(名) 米又は麥粟などを飯よりも柔かに煮たる物。

かゆつゑ

粥杖(名) 一月十五日に粥を炊く薪。……中古の風俗として互に之を贈りて祝ひ又之を以て人を打てば其打たれたる女は産が安きとて互に打ち合ひもし又は戯にも競争しつゝ打ち合ふ事あり。(狹衣)

かゆふ

(自動四段) 通ふに同じ。(萬葉東歌)

かいう

雅遊(名) 風雅の遊び。詩、歌、音樂などの會。

かゆのき

粥木(名) 粥杖に同じ。(枕)

かゆこはふひ

粥強飯(名) 粥を固目に炊きたるもの。●堅粥。(源氏)

かゆさかくゆき

(副) 彼方へ行き此方へ行き。●あちこちと歩きつゝ。(萬葉)

かゆし

痒(形。形狀言ク活) 蚤などの食ひたる時皮膚

かめ

龜(名) に起る感覺の有様。爬行動物の名。腹脊共に甲ありて其間より頭尾四足を出だすもの。種類甚だ多し。……萬年の壽を保つといふ傳説ありて古來多く祝儀の材料に用ひらる。

かめ

甕(瓶)(名) 酒、水などを盛り又は花を挿しなごする陶製の器。●壺。●瓶子。

かめい

家名(名) 「一」其家の名目。●家の名跡。「二」一家の名譽。

かめい

佳名(名) 佳き名。●好評。●名譽。

かめい

加盟(名) 盟約に加はる事。●連判。△(動)―加盟す。

かめい

下名(名) 手紙の詞。「一」自身の名を卑下していふ。「二」自身をいふ。●私。

かめい

龜腹(名) 病の名。腹中に塊りの出来る物。

かめい

(和名抄)

かめい

龜藏小紋(名) 小紋の一種。渦卷に似たるもの。◎市村龜藏の初めて着せし故の名。

かめい

假面(名) 木、紙、土などにて作りたる顔の形。雅樂、能樂、神樂などに用ふるもの。●めん。

かめい

かめい

かめい

かめい

かめい

かめい

かめい

かめい

かめい

●おもて。

かめん

假免(名) 假に免す事。△(動)―假免す。

かめうら

龜占(名) 龜の甲を焼き其裂目の模様によりて判斷する古代の占。

かめのわ

龜尾(名) 脊髓の下ノ端。●尾骶骨。

かめのかがみ

龜鑑(名) 昔し支那にて龜の甲を焼き占をしたる故事によりて◎「一」正しき手本。

●模範。「二」公明正大の裁判。

かめのうらべ

龜占(名) かめうらに同じ。

かめのうへ^エのやま

龜上の山(名) 蓬萊山の異名。

かめのますら

龜正占(名) かめうらに同じ。

かめのか^ゴふ^ッ

龜甲(名) 龜の背の殻。

かめやま

龜山(名) 蓬萊山の異名。○六帖「如何にして住きて尋れんかめやまに死なぬ薬はありさいふなり」。

かめあや

龜綾(名) 絹織物の名。龜甲の形に似たる模様を織り出したるもの。

かみ

紙(名) 書畫をかき書籍を作りなとする材料のもの。

かみ

髮(名) 「一」頭の毛。「二」結髮の風。●髻。

かみ

神(名) 「一」人間以上に位して靈妙不思議なる功

かみ

上(名)

徳を具へたる物體。●神祇。「二」神道の儀式を以て祭らるゝ人類の靈魂。又は動植物の精靈。「三」すべて恐るべきもの。○「虎ちふ神」。「四」雷。

かみ

(名)

「一」高きところ。○尊きところ。●うへ。「二」主上。「三」主君。「四」書き物にては前のくだり。●前條。「五」歌の上の句。「六」古へ。「七」年上。年長。「八」京都。古代の官名。其役所の長官。役所に依りて文字を異にする事左の如し。

頭。寮の長官。右馬頭の類。

正。司の長官。織部正の類。

尹。臺の長官。彈正尹の類。

首。望の長官。首馬首の類。

督。〔衛門府〕の長官。右衛門督の類。

守。……地方官の長。……土佐守の類。

以上擧ぐるところは常にかみと稱ふるもののみ。此外常には音讀すれば和文などの詞さして稀にかみとも讀み又は稱ふるもの左の如し。

伯。……神祇官の長。

卿。……省の長官。

太夫。……職の長官。

長官。……使の長官。

別當。……檢非違使の長官。

將軍。……鎮守府の長官。

帥。……太宰府の長官。

大將。……近衛府の長官。

尙侍。……内侍の長官。

かみ 加味(名) 他(他)の物を入れて味を加ふる事。△(勤)

—加味す。

かみいれ 紙入(名) 鼻紙入の意。◎懷中物。

かみろぎ 神祖(名) かむろぎに同じ。△(古)

かみどけ 霹靂(名) 落雷。(和名抄)

かみごこ 神床(名) 神を祭る床。●祭場。

かみるれ (名) 蘭語より来る。◎菊に似て香氣の高き

草の名。薬用とするもの。訛りてかみつれ

こいふ。

かみおろし 神降(名) 「一」祭典を行ふ時神靈を祭場に

招き迎ふる事。又は其式。「二」巫女の神託

を乞ふ時に招き迎ふる事をもいふ。

かみおほち (名) 上(上)大父の意。◎曾祖父の父。●高祖。

●遠祖。

かみをがみ 神拜(名) 神を拜む事。●じんばい。

かみおくり 神送(名) 十月一日に吹く嵐。◎神々を出

雲に送るの意。

かみおき 髮置(名) 小兒三歳の時初めて髪を蓄ふる祝

ひ。十一月十五日にするを習慣す。

かみわたし 神渡(名) 十月一日頃吹く嵐。かみおくりに

同じ。

かみわざ 神事(名) かみわざに同じ。

かみがかり 上掛(名) 「一」上の人に依頼する事。「二」

能樂にて觀世實生の二流を云ふ。昔し其太

夫が京都に住居せし故なり。……之に對し

て金春、金剛、喜多の三流を下掛さいふ。

かみがかりうたひイ 上掛謠(名) 上掛にて用ふる謠の文

句。又は其曲節。

かみがた 上方(名) 京都近傍の地方。

かみがっぱ 紙合羽(名) 桐油紙にて作れる雨合羽。

かみがくし 神隠(名) 小兒の行方知れず爲りたるを神

の所爲さしていふ詞。

かみかけ 髮懸(名) 女の髪に掛くる裝飾品の總名。

かみかけ

神掛(副)

女用文の詞。●神に祈りて。○「神

かけ念じ上まゐらせ候」

かみかぶり

紙冠(名)

紙にて作りたる冠。又は烏帽子。

○今昔「河原に法師陰陽師のありてかみかぶりをして祓をす」

かみかざり

髪飾(名)

女の髪を裝飾品。

かみかき

髪搔(名)

そいけたる髪毛を搔きあぐるもの。●かうがい。(和名抄)

かみがき

神垣(名)

「一」社の垣。「二」神社。

かみがみあはせ

紙々合(名)

人々左右に組を分け扇の

地紙を持ち集まりて優劣を判定する遊び。

(散木)

かみかせ

神風(名)

神の吹かせ給ふ風。

かみかせの

神風の(枕)

かみかせのに同じ。

かみよ

神代(名)

「一」我國にて鸛鷺草葺不合尊以前の

御代をいふ。……神武天皇以後を人皇とい

ふに對して。●じんだい。●かみのよ。「二」

上古。●太古。●大昔。

かみより

紙捻(名)

こより。●かみひねり。

かみよりいた

神憑板(名)

昔し琴を彈きて神靈を招き

神托なご乞ふ事ありしによりて琴の異名。

かみよし

(萬葉)

神吉(名) 昔の曆の詞。神祭をするに吉き日。

かみだ

神田(名)

神社所領の田。●かんだ。

かみたち

紙裁(名)

紙を切る小刀。

かみだな

神棚(名)

家の内にて常に神を祭り置く處。

かみそり

神靈、玉串など安置するための棚。

かみそりど

剃刀(名)

髪髯などを剃るに用ふる刃物。

かみそりど

剃刀砥(名)

砥石の一種。滑かにして堅きもの。●合せ砥。

かみさうじ

紙障子(名)

かみしやうじに同じ。(狹衣)

かみそぎ

(名)

小兒の髪を奴に切る事。昔は年齢によ

りて其別あり。

かみつる

(自動四段)

氣がのぼせる。(俗)

かみつかさ

(名)

神祇官。

かみつかさのかみ

(名)

神祇伯。

かみつよ

上代(名)

大昔。●上古。●大古。●古代。

かみつれ

(名)

藥草の名。かみれるに同じ。

かみつつみ

紙包(名)

紙にて包みたるもの。

かみつえた

上枝(名)

兄の異名。

かみな

寄居虫(名)

虫の名。かうなに同じ。(和名抄)

かみなり

神鳴(名)

いかつち。●なるかみ。●らい。

●雷霆。

かみなりぼし

雷干(名) 食品の名。瓜を細く續けて切
りて干したるもの。

かみなりよけ

雷除(名) 雷を除くる事。●雷を除くも
の。○「雷除のお守」「雷除の柱」

かみなりのちん

雷陣(名) かんなりのちんを見よ。
雷室(名) 禁中藥芳舎の異名。

かみなは

紙繩(名) こより。

かみなが

髮長(名) 伊勢齋宮にての忌詞。僧の異名。
神無月(名) 十月の異名。

かみなかりつき

(名)(副) かみなかりに同じ。

かみなつき

神無月(名) 十月の異名。○神嘗祭のある

かみならふ^{ロブリ}

月ゆる神嘗月の意なりとも云ひ。又古來世
俗には神々すべて出雲大社に集まり給ふ故
他の諸國には神の無き意なりと云へり。
神習(他動四段) 神の所行を學ぶ。●神
道を學ぶ。(記)

かみなしづき

神無月(名) 十月の異名。
醸成(他動四段) 酒類を醸す。●醸造する。

かみなす

(萬葉)

かみり

香韭(名) 野菜の名。韭の古名。○記「粟生に

は香韭一もさ」

かみむ

上無(名) 音樂の調子の名。
下民(名) 下々の民。●國民。

かみん

神迎(名) 十月三十日に吹く風。○神々の
出雲より還り給ふを迎ふるの意。

かみうた

神歌(名) 「一」神の作り給へる和歌。「二」神
樂の時に歌ふ歌。「三」能樂にて翁の曲に用
ふる謠。

かみのかかり

(名) 女の髮の肩の邊に垂れかゝる事。
(雅)

かみのかかりば

(名) 女の髮の肩の邊に垂れ掛りたる
端。(雅)

かみのよ

神代(名) かみよに同じ。○「神の代七代」
(名) 神の名。祇園を訓讀せしもの。○後

かみのその

拾遺「ちはやふる神の園なる姫小松よろづ
よふべきはじめなりけり」

かみのう

神能(名) 神代の傳説神社の由緒など總べて
神の事を作りたる能樂。

かみのけ

神氣(名) 「一」かみけに同じ。「二」神の崇。

かみのこ

神子(名) 耶蘇基督。

かみのき

紙木(名) 紙に造る木の名。楮。かうぞ

かみぐに

神國(名) 我國の異名。●しんこく。

かみくづ

紙屑(名) 紙の切端。●反古。

かみくら

上座(名) 上席。●首席。

かみや

紙屋(名) 紙を造り又は賣る家。

かみやがみ

紙屋紙(名) 昔し山城の國紙屋川にて漉きたる紙。宣命など書くに用ひたるもの。●異名は。……かうやがみ。●宣旨紙。●繪旨紙。

かみやつこ

神奴(名) 神に奉仕する人。●神社の下男。

○夫木「神奴さるや何ぞも千早振る賀茂の祭に葵なりけり」

かみやま

神山(名) 神社領内の山。●神社のある處の山。

かみやしき

上屋敷(名) 徳川時代の詞。大名の本邸。

……別邸を下屋敷といふ。

かみまひ

神舞(名) 能樂にて神の舞ふ舞曲の一種。

かみけ

神氣(名) 人體に神靈の乗り移りて狂はする事。(謠曲)

かみこ

紙子(名) 「一」紙子紙の略。「二」紙子紙にて造りたる衣類。●紙ぎぬ。

かみごど

神言(名) 神託。

かみごど

神事(名) 「一」神の所爲。「二」かわわざを。●祭。

かみこがみ

紙子紙(名) 繼ぎ合せし紙に柿澁を引き揉み柔らかけたる紙。衣類などに造る。

かみかうぶり

紙冠(名) 紙にて作りたる烏帽子。(枕)

かみごゑ

神聲(名) 「一」神の聲。「二」神さびたる音調。

かみゑ

紙繪(名) 紙に畫がきたる繪。

かみて

上手(名) 上の方。

かみあひひ

嚙合(名) 嚙み合ふ事。

かみありつき

神有月(名) 出雲地方にて稱ふる十月の異名。此月諸國の神々が出雲大社に集會し給ふとの傳説あり。○謠曲「山又山を越へ過ぎて。神有月も名にしおふ。出雲の國に

着きにけり」

かみあがる

神上(自動四段) 崩す。

かみあそび

神遊(名) 神樂に同じ。○夫木「立ちかへる雲井の庭の神あそび糸竹の音も月に澄みけり」

かみあふ

嚙合(自動四段) 大なごの争ふをいふ。

かみわけ

髪揚(名) 髪を結ぶ爲めに櫛づり揚ぐる事。

又は揚ぐる役の人。

かみわけ

神上(名) 祭場に招きたる神靈を祭典終りて

天に送り還し奉る事。又は其式。○神樂歌

「皇神の今朝の神あけにあふ人は千歳の命

のぶこころを聞け」

かみざ

上座(名) かみくら。●上座。●首席。

かみざく

紙細工(名) 紙にてする細工物。

かみざりつき

神去月(名) 十月の異名。此月諸國の神々

は去りて出雲大社に集まり給ふと言ひ傳ふ。

かみさかやき

髪月代(名) 髪を結び又月代を剃る事。

かみさん

(名) ッカミさまの少し麗略なる言方。

かみさま

上様(名) 他人の妻の敬稱。●おッカミさん。妻君。

かみさげむし

紙下虫(名) 虫の名。蛆の一名。

かみさぶ

(自動上二段) 神々しくある。●神の居給ふ

らしくある。●神様らしくある。●神代の

ものらしくある。○萬葉「いつしかも神さ

びけるか香山の銚杉のもさに苦むすまで

に」

かみぎ

神木(名) 神社の樹木。●しんぼく。(萬葉)

かみぎぬ

紙衣(名) 紙製の衣。●紙子。

かみきは

髪際(名) 髪はみきははの生際。(和名抄)

かみきつき

神來月(名) 十一月の異名。○十月出雲に

集會せし神々の歸り來るの意。

かみゆひ

髪結(名) 女の髪を結ぶを業とする人。

かみゆひご

髪結床(名) 男の髪を結ぶを業とする家。●理髮店。

かみし

紙障子(名) 紙張りの障子。即ち現今

普通のもの。……昔は襖をおもに障子と云

ひたるより此名あり。

かみじま

神島(名) 蓬萊山の異名。

かみしも

上下(名) 「一」すべて直垂。素袍の如く上衣

と袴と揃ひたる衣服。「二」徳川時代武家の

禮服。肩衣と平袴と揃ひたるものにて麻に

て作り紋を附く。

かみしもぎ

上下着(名) 武家にて男子の初めて上下な

着る時の祝。

かみびひな

紙雛(名) かみびひなに同じ。

かみびと

神人(名) 神に奉仕する人。神官巫祝の類。

かみびねり

紙捻(名) 「一」こより。「二」小忌の袖に附

けて下ぐるこより。(三)紙に捻りて包みたるもの。賽銭纏頭などの類。

紙雛(名) 紙にて造りたる雛人形。

かみびな
かみせに

紙銭(名) 紙にて作りたる銭の形。昔し神を祭る時用ひたるもの。(和名抄)

かみすぢ
かみすき

髮筋(名) 髮毛の筋。

紙漉(名) 紙を漉く事。●紙を漉く人。

かみすぎ
かみすぎ

神杉(名) 神木の杉。○萬葉「石の上ふるの

神杉

かし

榿。檀(名) 木の名。材として其質堅く葉は椎に似て冬も落葉せぬもの。

て冬も落葉せぬもの。

かし

河岸(名) 河の岸。

かし

戕銭(名) 船を繁ぎ止むる抗。(和名抄)

かし

下士(名) (一)徳川時代にては足輕。(二)現今の

軍制にては曹長以下二等軍曹以上の兵。

貸(名)

貸す事。又は貸したる金品。

かし

枷(名) 罪人の手、足、頸などに拵めて束縛する具。●かせ。(和名抄)

具。●かせ。(和名抄)

かし

(感)

文句の後に置きて餘韻を添へ。又は意を強むる詞。○「あはれなりかし」よく／＼思へかし」

かじ

家事(名) 家内の事務。●家務。

がし

餓死(名) 餓ゐて死ぬる事。△(動)餓死す。

かしひい

香椎(名) 仲哀天皇の皇居の名。

かしどり

榿鳥(名) 鳥の名。他の鳥の鳴音など巧に真似るもの。一名はかけす。

かしちん

貸賃(名) 貸したる報酬として取る金。

かじり

咒詛(名) 祈る事。●呪ふ事。(紀)

かしぬし

貸主(名) 貸したる人。●貸方。●債主。●債權者。

債權者。

かじる

(他動四段) 噛む。●物の一部分を噛み破る。

かしは

柏。榿(名) 「一」古は木の葉の總名。……朝露に

ぬれて艶やかなる葉を朝がしはと云ひ。紅葉して美しきものをあからがしはと云ふの

類。空穗には「松のかしは」さも見ゆ。(二)特に食料に代用して飯を盛りたる廣葉。

……轉じては食器。(三)木の名。葉は鋸齒

ありて廣く五月五日に餅を包むに用ふるもの。

の。

かしは

(名) 鳥の名。鶏の一種。其肉の美味なるもの。

柏挾(名) 白木の二字を合字にして柏と

書きカシハミ讀みたるもの。◎白木造りの

かしは

かしは

冠。古へ葬送の時などに着せしもの。

かしは^ワどの

柏殿(名)

禁中にて御膳を調する御殿。

かしは^ワら

檀原(名)

神武天皇の皇居の名。

かしは^ワで

柏手(名)

神拜する時に手を拍ち鳴らす事。

……拍手(てなうつ)と書きたる拍の字を柏と誤り讀みたるに起れる詞。

かしは^ワで

膳夫(名)

〔一〕膳部を掌る人。〔二〕大膳職に屬して天皇の御膳を掌る官。

かしは^ワぎ

柏木(名)

〔一〕柏の木。〔二〕左右兵衛府および左右衛門府の異名。

かしは^ワぎの

柏木の(枕)

柏木の森といふ漏る守るなごに掛けたる枕詞。

かしは^ワもち

柏餅(名)

食品の名。柏の葉に包みたる新粉餅。五月節句に祝ひて食ふ風俗あり。

かじか

河鹿(名)

蛙の一種。清き山川に住みて美しき聲にて鳴くもの。

かじか

鰻(名)

魚の名。形沙魚に似て河に住むもの。

かじかた

貸方(名)

〔一〕貸したる人。●貸手。●債主。●債權者。〔二〕貸す方法。

かじかむ

(自動四段)

寒さのために手足などの自由を失ふ。

かしがまし

(形。形狀言シク活)

かまびすし。●やがまし。●さわがし。

かし

歌書(名)

和歌に關する書籍。

かしよね

裸米(名)

洗ひ清めたる白米。●洗米。(和名抄)

かじやう

下情(名)

下々の有様。●民情。

かしよく

稼穡(名)

農作の仕付と取入と。●耕作。●農事。

かしづく

(他動四段)

大切に世話する。●もりたつる。●大切に養育する。……すべて臣下の幼君なごに對するをも云ふ。

かしづき

傳(名)

〔一〕傳く事。〔二〕傳く人。●守役。●附添。

かしら

頭(名)

〔一〕頭より上の部分。●首。〔二〕頭の毛をいふ。●頭髮。〔三〕總べて物の上端。〔四〕頭立ちたる人。●長。〔五〕音樂にて太鼓、鼓などの打方の名。〔六〕能樂にて鬼、天狗などの頭に被る鬘の一種。黒頭、赤頭、白頭の別あり。

かしらおろす

(自動四段)

髪を剃る。●剃髪する。●出家する。(雅)

かしらがさ

頭瘡(名)

頭部に出来る腫物。●つさう。

かしらがき

頭書(名)

書籍の本文の上欄に書く註または見出し。●鑑頭。

かしらがき

頭搔(名)

赤面などして頭を搔く事。(著聞)

かしらだつ

頭立(自動四段)

上に立つ。●おもだつ。

かしらじ

頭字(名)

「一」語句の最初の文字。「二」姓名の上の一字。

かしん

家臣(名)

其家の家來。

かしん

嘉辰(名)

日出度き時。●祝日。●吉辰。

かじん

家人(名)

家内の人。●家族。

かじん

歌人(名)

「一」歌よみ。●和歌の名人。「二」歌うたふ人。

かじん

佳人(名)

美人。●美女。

かじん

雅人(名)

風雅なる人。●詩歌、俳諧、茶、花などの類を弄ぶ人。

かしうり

貨賣(名)

代價を貸して品物を賣る事。●掛賣。

かしのふ

櫃生(名)

櫃の木の生ねたる所。(記)

かしのみの

櫃實の(枕)

栗の實などは一房の内に二つも三つも包まれたるを櫃の實は一つづつ、別

かしく

炊(他動四段)

飯を煮る。●たく。

かしく

(形)

かしこの轉。●女用文の結尾の詞。男ならば恐惶謹言または頓首など書くところ。

かじく

(自動二段)

幼弱にてある。●瘦せこける。

●みすばらしくある。●見だてなくある。

●かじくむ。○新六帖「霜枯の原野にまじる節くのき世にやじけゆく我身なりけり」

かしや

貨屋(名)

貨賣しの家作。

かしく

頭賣(名)

地獄の責苦。

かしまたち

鹿島立(名)

旅立。●門出。

かしまたち

鹿島帯(名)

常陸帯を見よ。(夫木)

かしまのおひ

鹿島事觸(名)

年の初に其年内の吉凶に就きて鹿島明神の御告を觸れ歩く人。

かしまし

(形。形狀言シク活)

かしがまし。●かまびすし。●やかまし。●さわがし。

かしこ

彼處(代)

かの場所。●あの場所。●かなた。

かしこ

(形)

かしこの略。●「一」恐ろし。●恐るべし。●「二」勿體なし。●「三」雅文體消息文の結

尾に用ふる詞。通俗體書簡文の恐惶謹言また頓首なご同意。

恐鳥(名) 鳥の名。鷹の異名。

賢所(名) 内侍所に同じ。禁中にて神鏡を安置し奉れる神殿。

畏(自動四段) かしこまるに同じ。

畏(名) 「一」畏人の前にて敬意を表する事。●禮儀。「二」謝罪。「三」勸當。●勸氣。

○後拾遺「おはやけの御かしこまりにて山寺に侍りけるに」

畏(自動四段) 「一」恐る。●恐入る。「二」敬する。●敬禮する。「三」謝する。●謝罪する。●あやまる。

畏畏(副) かしこまり。●謹み敬ひつゝ。○祝詞式「かしこみくも申す」

貸越(名) 前貸。

賢(形。形狀言ク活) 「一」心のすぐれたる。●りこうなる。「二」よし。●都合よし。●すぐれたる。●結構なる。○源氏「風吹かすかしこき日なり」「三」いみじ。●きつい。

●えらい。○土佐「かしこくなげく」

かしこし

畏。恐(形。形狀言ク活) 「一」恐ろし。●恐るべし。「二」勿體なし。●畏多し。

貸手(名) 貸す人。●貸方。

かして

河岸揚(名) 船の荷物を陸に揚ぐる事。●陸揚。●荷揚。●水揚。

かしざしき

貸座敷(名) 「一」席料を取りて貸す座敷。「二」妓樓。

かしき

炊(名) 炊く事。●炊く人。●炊く場所。

かしきど

炊殿(名) 神供を炊く御殿。(神祇式) 様(名) 雪深き土地にて人の途を行く時足に履くもの。●かんじき。

かじき

○夫木「かじきはく越の山路の旅すらも雪にしづまぬ身をかまふまか」(圖)



かしきがて

炊糲(名) 雜炊の類さも云ふ。又はこもくめしの類ならんとも云ふ。(和名抄)

がしや

雅趣(名) 風雅なる趣味。●雅致。

かしシユふ

家集(名) 或る一人の歌を集めたる書物。

かしシムふリ

歌集(名)

和歌を集めたる書物。

がしシムふリ

我執(名)

我慢。●強情。●剛愎。

かしシムうタマ

何首烏玉(名)

山の薯の一種にて毛の多きもの。

かじシムく

家塾(名)

教師の家に設けたる書生の寄宿舎。

かひ

下婢(名)

召仕の女。●下女。

かひ

可否(名)

可と否と。●善き事と善からぬ事と。

●善惡。

かび

黴(名)

物の腐敗して生ずる苔または毛の如きもの。

かび

蚊火(名)

蚊遣火。

かび

蛾眉(名)

蛾の如き眉。●美しき眉。●美人。

かひろ

(自動四段)

ひろがる。●はびこる。(枕)

かびたん

甲比丹(名)

蘭語より來る。○徳川時代長崎に來りたる蘭船の船長をいふ。

かひつ

加筆(名)

●書入。●添削。△(動)―加筆す。

かびら

迦毘羅衛(名)

印度にて釋迦の生れたる國の名。

かびらシヨウウ

迦毘羅城(名)

迦毘羅衛國の城。

かひん

佳品(名)

上等の品物。

かびや

(名)

「一」(鹿火屋)山里にて田を荒らす鹿など

かびしシムらテウ

を防ぐため夜々焚火する番小屋。「二」(蚊火屋)蚊遣火を焚く家。……(雅)

迦頻闍羅鳥(名)

梵語より來る。◎雉子の異名。

かも

鴨(名)

鳥の名。雁に似て小さく秋に至り雁より後れて來り春も亦後れて去るもの。

かも

氍毹(名)

毛氍毹の古名。(和名抄)

かも

(後)

疑問の「か」に感詞の「も」の添はれる詞。○萬葉「歸り來て見むと思ひし我宿の秋萩すいき散りにけむかも」

かも

(感)

かなの古言。○萬葉「須磨人の海邊つれ去らず焼く鹽の辛き戀をも吾はするかも」

かも

(感)

かなの古言。用法すべて同じ。○萬葉「朝なざしたり船機もかも」

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かも

(感)

戸障子などの溝の木のの上にある方。

かもかくも

(副) さもかくも。●さにかくに。(古)

かもづく

鴨着(自動四段) 鴨の寄り付く。……島の

形容に用ふ。(紀)

かもん

掃部(名) かもんれうの略。

かもん

家門(名) 一家一門。

かもん

家紋(名) 家の定紋。

かもん

勘文(名) かんもんかんがへぶみに同じ。

かもんれう

掃部寮(名) 宮内省に屬して禁中の座席

を敷設洒掃する事を掌る役所。官吏は頭、助、允、屬あり。

かもんづかさ

掃部寮(名) かもんれうに同じ。

かもり

甌瓜(名) 冬瓜の古名。(和名抄)

がまう

鷺毛(名) 「一」鷺鳥の毛。「二」鷺毛は白きより

雪の異名。

かもうし

羚牛(名) かもじに似たる牛の一種。

かものはいろ

鴨羽色(名) 色の名。緑色の鮮やかなる

もの。

がもく

鷓鴣(名) 鳥目に同じ。金錢。

かもぐつ

鴨沓(名) 鼻先を圓く造りたる皮の沓。鞠を

蹴る時などに用ふるもの。◎形の鴨に似たる故の名。……堀川百首に「こやの池におり

かもまつり

賀茂祭(名) 大陰暦四月中の

酉の日に行はるる京都の賀茂の社の祭禮。

此日人々葵さ桂さを髪に懸け又簾、車など

にも附く。●葵祭。

かもえ

鴨柄(名) 鴨居に同じ。(和名抄)

かもあふひ

賀茂葵(名) 草の名。二葉葵の異名。◎

賀茂祭に用ふるものなれば名づく。

かもあひる

鴨鷺(名) 鳥の名。鷺の一種にして鴨によ

く似たるもの。

かもめ

鷗(名) 鳥の名。大さ鴨に似て嘴と脚とは赤く、

海又は川尻に住む水鳥。古名はかまめ。

かもじ

髪(名) 婦人の髪の毛の不足を補ふために入る、

他の髪毛。

かもじか

麋鹿(名) 獸の名。其毛長く綿羊に似て深山

に住むもの。

かもじし

(名) 獸の名。麋鹿の一名。

かもじもの

鴨自物(枕) 鴨の如くの意にて浮寐水に浮

きぬてなどの如く水鳥の舉動に似たる詞に



かもし

續く枕詞。(萬葉)
釀(他動四段) 「一」酒などを造る。●釀造する。

●かむ。「二」事を起す。

かせ

桙(名) 絲を繰る時に捲きつくる具。●桙木。

かせ

枷(名) 罪人の首、手、足などを縛するもの。……

首枷、手枷、足枷の類。

かせ

石陰子(名) 貝の名。海丹の類。(和名抄)

かせ

風(名) 「一」空氣の流動。「二」ふうに同じ。●様

子。「三」病の名。●風邪。●寒冒。

かせい

家政(名) 家事。●家務。●一家の經濟。

かせい

加勢(名) 勢を助くる事。●助力。△(勅)―加

勢す。

かせい

歌聖(名) 歌道の聖人の意。◎和歌の大家。…

…常に人鷹、赤人をいふ。

かせい

苛政(名) 苛酷なる政治。●虐政。

かせいど

桙絲(名) 桙に掛けたる絲。

かせおもて

風表(名) 風に向ひたる方。

かせつゑ

鹿杖(名) 握りに横木を付けたる杖。●撞木杖。

かせなぐさ

風無草(名) 柳の異名。

かせん

歌仙(名) 歌道の名家。

がせん

俄然(副) にはかに。

かせのどの

風音の(枕) 風の吹き来る音の如く遠しと

かゝる枕詞。○萬葉「風のこの遠音に聞き

て」

かせのはふり

風祝(名) 暴風を吹かぬやうに祈禱をす

る神官。昔し信濃の諏訪明神に此事ありし

と云ふ。(十訓抄)

かせのはふりこ

風祝子(名) かせのはふりに同じ。○

夫木「信濃路や風のはふりこ心せよ白木綿

花のにはふ神垣」

かせのけ

風氣(名) 病の名。風邪。(雅)

かせぐ

稼(自動四段) 己の業を勉強する。●營業する。

かせまちつき

風待月(名) 六月の異名。

かせまつり

風祭(名) 風の神の祭。豊年を立田廣瀬の

神に祈りてする事。

かせませに

風交に(副) 風まじりに。○萬葉「風まぜ

に雪は降れども」

かせき

(名) 鹿の異名。○宇治「此かせきを友として」

かせぎ

桙木(名) 桙に同じ。

かせぎ

稼(名) 稼ぐ事。●家業。●營業。

かせぎのその

鹿苑(名) 鹿苑の直譯。○天竺にて釋迦

の阿含經を説きたる處の名。(清輔尙齒會

記

かせきき

菟園草(名) 萩の異名。

かせひ

梓(名) かせに同じ。

かせひき

風引(名) 風邪に罹りたる人。●感冒患者。

かす

粕(糟)(名) 酒などの搾り殻。

かす

滓(名) 水底に沈みたる屑。

かす

貸(他動サ變) 後に返す約束にて其物を用ひさする。●用立つる。●借りさする。

かす

架(他動サ變) 橋など掛け渡す。

かす

(他動四段) 水に浸す。

かす

可(他動サ變) ゆるす。●許可する。

かす

嫁(自動サ變) 嫁入する。

かす

(自動下二段) 腫に痲蓋^{かさふた}の出来る。●癒ゆる。

かす

數(名) 「一」算術によりて算へ得らるゝ多き算

かす

數。●數量。「二」多き數。○「數の寶」「三」

かす

僅少の數。○「今日にては數の歌人」

かす

瓦斯(名) 英語より來る。◎「一」理學上の詞。氣

かす

體の總名。「二」特には石炭より製出したる

かす

瓦斯。

かす

賀(他動サ變) 歡びを述ぶる。●ことばぐ。●祝

かす

駕(他動サ變) 「一」乗る。○「鶴に駕す」「二」乗リ

かす

超ゆる。○「古文に駕す」

かす

瓦斯絲(名) 木綿絲の一種。瓦斯の力にて艶

かす

を附けたるもの。

かす

河水樂(名) 雅樂の曲名。

かす

霞尾霞文(名) 班點ある矢の羽。

かす

數取(名) 物を數ふる時覺えの爲に取り置く

かす

品物。

かす

瓦斯燈(名) 石炭瓦斯を通じて點する燈火。

かす

飛白(綴)(名) 織物又は染物の名。所々に白き模

かす

樣を織り出し又は染め出したるもの。

かす

輕傷(名) 矢玉、刀などの輕く觸れて出來

かす

たる傷。●薄手。

かす

(自動四段) 「一」掠むる。「二」輕く觸る。「三」

かす

筆にて書きたるものに墨の附かぬ處があ

かす

る。

かす

幽 ほか。●微々。(形)「かすかの。(又)「

かす

かすかなる。(副)「かすかに。

かす

鐵(名) 「一」掛金に同じ。「二」針の一種。兩

端鈎になりて木材などを綴り合すに用ふる

もの。

かすかず

數數(副)

種々。●數多。●澤山。

かすづけ

糟漬(名)

酒糟に漬けたる食品。

かすむ

掠(他動下二段)

「一」奪ひ取る。●少々奪ふ。

かすむ

霞(自動四段)

「一」霞の棚引く。「二」目にて判

かすふ

糟生(名)

髪の中白なるをいふ。●霜降毛。(平家)

かすふ
かすのこ

數(他動下二段)

かうふに同じ。(上古)

數子(名)

食品の名。鯉の胎兒を乾したるもの。……其名、親は二親にて子は數の子といふ名が目出度として常に祝事などに用ふ。

かすま
ふ

數(他動下二段)

「一」數ふ。「二」人數に加ふる。

かすげ

槽毛(名)

馬の毛色の名。灰色に白の差し毛あるもの。

かすこ

(名)

魚の名。鯛の一種。

かすごめ

醋(名)

濁酒の古名。(和名抄)

かすへれ
う

主計寮(名)

民部省に屬して諸國の年

貢を計算し國用を支度する事を掌る役所。官吏は頭、助、允、屬あり。

(名) 洋風菓子の名。

數差(名) 數取にする物。

糟湯酒(名) 酒糟を湯に溶かして飲む云ふ。○萬葉「糟湯酒うちすいろひ」

霞(名) 「一」霧、霧の類。「二」特には春長閑なる日空に棚引く水蒸氣。

霞初月(名) 正月の異名。

霞洞(名) 「一」仙人界。●仙境。「二」仙洞御所の異名。

洋面(名) 皮膚病の名。そばかす。(和名抄)

(名) 酒糟に漬けたる肉。(和名抄)



かすも
かすもみ

かすみそめづき
かすみのほら

かすみ

霞(名)

かすていら
かすさし

かすゆざけ